保育所・認定こども園等の研修体系の形成に関する研究

研究代表者 千葉 武夫 (聖和短期大学教授)

西村 重稀 (仁愛大学名誉教授)

清水 益治 (帝塚山大学教授)

森 俊之 (仁愛大学教授)

碓氷 ゆかり (聖和短期大学教授)

成田 朋子 (名古屋柳城短期大学名誉教授)

吉岡 眞知子 (東大阪大学教授) 波田埜 英治 (聖和短期大学准教授)

水上 彰子 (富山福祉短期大学非常勤講師)

青井夕貴(仁愛大学准教授)中島-(あまのふたば会)

岡村 季光 (奈良学園大学准教授)

研究の概要

様々な自治体が公表している幼稚園教員等の育成指標、保育所保育指針等、西村ら(2015)などを参考に育成指標案を作成した。その案の妥当性を質問紙調査とヒアリング調査で検証した。その結果、園長・管理職の視点でも、0歳児、1・2歳児、3歳以上児担当の保育者の視点でも、主任保育士・主幹保育教諭の視点でも、経験年数が増えるにつれていずれの資質も段階が上がること、いずれの資質も段階を上げるのに研修が有効であることが明らかになり、案がある程度妥当であることが示された。自治体では育成指標の妥当性の検証は実施されていないことも示唆された。

総合考察では、本研究で開発した育成指標の活用と育成指標に関する研究の今後について以下のように議論 した。

1. 育成指標の活用

本研究で開発した育成指標は次のように活用できる。

(1) 保育者を育成する時の目安

保育者を育成する役割は、園内研修を実施する各保育所等だけでなく、園外研修を実施する日本保育協会のような保育団体や保育者の養成施設、研修の実施団体等もこれに携わる。また保育所等によっては、ピア・カウンセリングやメンターの制度を活用して、いわゆる研修以外で、育成するための策を講じているところもある。育成指標は、育成する役割のものが共通して目安として活用できる。

(2) 保育者自身が成長する時の目標

育成指標は、保育者が自らのキャリアパスを構築するための目標を提供できる。例えば、指導計画等の作成で段階2の保育者であれば、段階3を次の目標として、園や地域の行事等と関連づけたり、小学校等との接続を考慮したりしながら指導案を作成することを意識し、そのための情報を取り入れていくとよいであろう。

(3) 体系的な研修計画をつくる際の基盤

これまでは、様々な研修が行われてきたものの、その研修が何につながるのか、どの資質をどこからどこまで伸ばすのかが明確ではなかった。育成指標は研修の位置づけを考える際の基盤となる。今後は、どの資質をどこからどこまで伸ばすのかを検討していくことが求められる。これこそが体系的な研修計画の立案である。

(4) 研修を評価する際の基準

どの資質をどこからどこまで延ばすのかを想定した研修であれば、その研修は評価が可能である。受講者の 資質が実際に伸びたかどうかを判断すればよい。

2. 育成指標にかかる研究の今後

保育士等の育成指標に関する研究は、今後、次のように発展できる。

(1) 主任保育士・主幹保育教諭、施設長などの管理職の育成指標の作成

文部科学省の告示は「公立の小学校等の校長及び教員としての資質の向上に関する指標の策定に関する指針」であり、各自治体は校長の資質に関する指標を策定している。保育所保育指針は「初任者から管理職員までの職位や職務内容等を踏まえた体系的な研修計画」の作成を義務としている。すなわち、保育所等でも管理職員の職務内容等を踏まえた育成指標の作成が求められていると言える。

なお、本研究では主任保育士・主幹保育教諭が0歳児、1・2歳児、3歳以上児の保育担当者の資質がどの 段階かを調べたが、主任保育士・主幹保育教諭としての資質は調べていない。主任保育士・主幹保育教諭の職 務内容を精査し、主任保育士・主幹保育教諭としての育成指標の開発も必要であろう。開発方法は、本研究が 参考になる。

(2) 育成指標そのものを評価する方法の開発

本研究で行ったヒアリング調査の結果、自治体が作成している育成指標の多くは、妥当性の検証が行われていないことが示唆された。本研究は以下の4つの点で妥当性の検証の方法を示したことになる。すなわち、①管理職に職員を評価してもらい、経験年数が増えるにつれて、資質の段階が上がることを示した点。②実際の保育者に様々な指標に沿って自分の段階を評定してもらい、経験年数が増えるにつれて、資質の段階が上がることを示した点。③主任保育士・主幹保育教諭は、各年齢の保育担当者よりも資質の段階が高いことを示した点。④研修が段階を上げるのに有効であることを示した点。この妥当性の検証方法が適当かどうかについては、今後の課題である。

キーワード:保育士等の育成指標、研修体系、研修計画、資質の向上、キャリアパス

はじめに

本研究の目的は、保育士や保育教諭の育成指標を 提案し、調査を通してその指標の検証を行い、保育 所や幼保連携型認定こども園が体系的な研修計画を 作成するための基礎資料を得ることである。

保育所保育指針の「第5章 職員の資質向上」の「2 施設長の責務」には「施設長は、保育所の全体的な計画や、各職員の研修の必要性等を踏まえて、体系的・計画的な研修機会を確保するとともに、職員の勤務体制の工夫等により、職員が計画的に研修等に参加し、その専門性の向上が図られるよう努めなければならない。」と書かれている。この記述から所属職員の体系的・計画的な研修機会の確保は、施設長の努力義務である。

また「4 研修の実施体制等」には「保育所においては、当該保育所における保育の課題や各職員のキャリアパス等も見据えて、初任者から管理職員までの職位や職務内容等を踏まえた体系的な研修計画を作成しなければならない。」と書かれている。職位や職務内容等を踏まえた体系的な研修計画の作成

は義務である。

体系的・計画的な研修機会の確保や、職位や職務 内容等を踏まえた体系的な研修計画の作成には、職 員のどのような資質を、初任者から管理職員までど のような段階を踏んで育てるのかを明らかにする必 要がある。この資質と段階を明示したものが育成指 標である。すなわち体系的な研修計画の作成には、 育成指標の開発が必要である。しかしながら、保育 士や保育教諭の育成指標として、国は何らかの方針 を示してはいるわけではない。

文部科学省は、「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について(答申)」に基づき、教育職員免許法と教育公務員特例法の一部を改正した。また、後者の改正に伴い、「公立の小学校等の校長及び教員としての資質の向上に関する指標の策定に関する指針」を告示した(文部科学省告示第55号。平成29年3月31日。以下「告示」とする)。この告示に基づいて、小学校以上の学校の校長や教員に関して、すべての都道府県、政令指定都市に育成指標

¹ この告示は令和4年8月31日に改正されている。しかしながら本稿はこの改正には対応していない。

が作成されたが、幼稚園と幼保連携型認定こども園の教員や園長等に関しては、自治体による違いが大きく、作成・公表している自治体もあれば、それをしていない自治体もあった(公表の有無は、教職員支援機構のサイトを参照した。令和4年8月)。

公立、私立を問わず、幼稚園、幼保連携型認定こども園、保育所を卒園した子どもたちは小学校に就学する。幼児教育施設がどこであれ、小学校に就学する子どもたちに接する保育者の資質に差があることは、子どもの最善の利益に反し、社会的な問題を生じさせることもある。このように考えて千葉ら(2023)は、公表されている幼稚園教員・幼保連携型認定こども園保育教諭の育成指標を分析した。その結果、成長段階の設定は6段階から3段階まで、指標の内容として設定された資質は32から4まで分布していた。保育所保育士の育成指標を構築するにあたり、参考にできる自治体がいくつかあった(鳥取県、高知県など)。

そこで本研究では、これらの自治体の育成指標を 参照しつつ、保育所保育指針や西村ら(2015)に基づ き、保育士や保育教諭の育成指標を開発する。

西村ら(2015)は、保育士が行っている25の業務について「できない」「教えてもらってできる」「自分自身の力でできる」「他の保育士を指導できる」「保育士の集団や組織、園全体をリードできる」の5段階で評定を求め、業務の難易度を調査した。これは、いわば業務ベースの育成指標と言える。しかしながら業務ベースでは、資質ベースである各自治体の育成指標と整合性を取ることは困難である。

本研究は3つの研究で構成した。研究1では、様々な自治体の育成指標や保育所保育指針、西村ら(2015)を参照し、育成指標を提案する。研究2では、提案した育成指標をもとに調査票を作成し、全国調査を行った上で、その育成指標の妥当性を検証する。最後に研究3では、育成指標を作成・公表している自治体にヒアリングを行い、作成の経緯や活用の程度を明らかにする。

研究 1 保育士・保育教諭の育成指標(案) の作成

方法

保育士等の育成指標を考えるにあたり、3つの条件を設定した。1つめは幼稚園教諭や幼保連携型認定こども園保育教諭を想定して様々な自治体が作成した教員育成指標との整合性を取ることである。指標は独立行政法人教員支援機構が「指標に関する

情報」として「『指標』に関するホームページ」の「教育委員会が公表している指標」のサイトを参照した(令和4年8月)。これらと整合性を取ることで、地域における幼児教育施設の間に大きな違いがないようにできる。

2つめは保育所保育指針を基盤にすることである。 先述の告示には「教員等の資質の向上を図るに当たっては、(中略)学習指導要領等(括弧内略)の理 念及び趣旨を十分に踏まえなければならない」とある。学習指導要領等には、幼稚園教育要領や幼保連 携型認定こども園教育・保育要領が含まれる。そのため本研究でも、保育所保育指針の理念及び趣旨を 基盤とした育成指標を構築することにした。

最後はこれまでの研究(西村ら,2015)との整合性を取ることである。西村ら(2015)の調査は「保育士等キャリアアップ研修」の基礎資料となっている。そこで本研究では西村ら(2015)の5つの段階を基盤として育成指標を考えることにした。特に、「保育士の集団や組織、園全体をリードできる」を主任保育士・主幹保育教諭、「他の保育士を指導できる」を副主任保育士等や指導保育教諭の段階として意識した。

結果と考察

表1-1は0歳児、表1-2は1・2歳児、表1-3は3歳以上児の保育担当者の育成指標である。これらは保育所保育指針(幼保連携型認定こども園教育・保育要領)の第2章のそれぞれ「1.乳児保育(乳児期の園児の保育)に関するねらい及び内容」、「2.1歳以上3歳未満児の保育(満1歳以上満3歳未満の園児の保育)に関するねらい及び内容」、「3.3歳以上児の保育(満3歳以上の園児の教育及び保育)に関するねらい及び内容」に基づき作成したものである。

表1-4の上から4つは健康及び安全、下2つは 子育て支援に関する育成指標である。これらは保育 所保育指針(幼保連携型認定こども園教育・保育要 領)の「第3章 健康及び安全」と「第4章 子育 て支援(子育ての支援)」に基づき作成した。「担当 者」としなかったのは、すべての保育士・保育教諭 に、保育や教育と並行して、これらの業務が求めら れる可能性があるからである。

表1-1~4に共通して、最上行に示したように、5つの段階を設定した。この段階は、おおむね5年を目処に区切りをつけた。5年にしたのは、保育士の平均勤続年数が8.8年、主任保育士のそれが20.5年と、約10年の開きがあること(内閣府「平成29年

表1-1 0歳児の保育担当者の育成指標

	段階 1	段階2	段階 3	段階 4	段階 5
	スタート期	おおむね1~5年の経験	おおむね5~10年の経験	おおむね10~15年の経験	おおむね15年以上の経験
				副主任保育士	主任保育士・主幹保育教諭
	美 <i>卡板 7 凯啡 7</i> 拉巴吐	// 本人 // 本状: A	職務分野別リーダー	専門リ	ー ダー
	養成修了段階/採用時	保育士・保育教諭			
 乳児の発達	 運動機能の著しい発達、	乳児の発達に加えて、興	保護者の願いや思いを受	一人一人の乳児の発達等	一人一人の乳児の発達等
等の理解	情緒的な絆の形成など、	味・関心、特性(生命の	け止め、他の職員と連携	に応じた保育について、	に応じた保育について、
	乳児の発達について、基	保持と情緒の安定の下で	を図りながら、一人一人	他の職員と共有し、他の	他の職員に適切な支援・
	礎的知識を習得している。	自己を十分に発揮するこ	の乳児の発達等を理解し、	職員に適切な支援・助言	助言を行い、園全体の保
		とにより発達に必要な体 験を得ていくこと) の理	必要な体験を考えている。 	を行っている。	育の質の向上のための取り組みをリードしている。
		解(以下、発達等の理解)			THEORE OF THE CONS.
		のもとに、必要な体験を			
		考えている。			
指導計画等	指針等に基づき作成され	全体的な計画に基づき、	全体的な計画に基づき、	全体的な計画に基づき、	全体的な計画に基づき、
の作成	る全体的な計画、それに	乳児の発達等を踏まえ、	一人一人の乳児の発達等	一人一人の未満児の発達	一人一人の未満児の発達
	基づく指導計画について、 基礎的知識を習得してい	個別の指導計画を作成し、 他の職員と共有している。	を踏まえ、1歳以上3歳 未満児の保育との接続を	等を見通し、1歳以上3 歳未満児の保育との接続	等を見通し、1歳以上3 歳未満児の保育との接続
	る。	他の城員と六百とている。	考慮して、個別の指導計	を考慮して、実践の振り	を考慮して、園全体の視り
			画を作成し、他の職員と	返りに基づいて個別の指	点から、職員の話し合い
			共有している。	導計画を作成するととも	の中心となって個別の指
				に、他の職員に適切な支	導計画の作成をリードし
				援・助言を行っている。	ている。
乳児の発達等の理解や	乳児に対する環境構成の 工夫や教材研究のあり方、	環境構成の工夫、教材研 究を行い、乳児と情緒的	環境構成の工夫、教材研	他の職員のモデルとなり、 環境構成の工夫、教材研	専門的な保育技術を向上
お導計画に	エスや教材研究のあり方、 その必要性、並びに保育	れど们い、乳児と情報的 な絆が形成されるよう、	兄を行い、一人一人の乳 児と情緒的な絆を形成し	現境構成の工犬、教材研究を行い、一人一人の乳	支援・助言を行い、職員
基づいた保	者の関わり方に関する基	保育技術の習得及び実践	たり、一人一人の乳児の	児と情緒的な絆を形成し	の中心となって保育の質
育の実践	礎的知識を習得している。	に取り組んでいる。	興味や好奇心を満たした	たり、一人一人の乳児の	の向上のための取り組み
			りできるよう、保育技術 の向上に取り組んでいる。	興味や好奇心を満たした	をリードしている。
			の向上に取り組んでいる。	りできるよう、保育技術 の向上に取り組んでいる。	
 特別な配慮		対象児の状能について押	 対象児の状態について、	 関係機関との連携を図り、	
を要する乳	育の目的や意義について		生育歴、家庭の状況、こ	対象児への理解や関わり	対象児や保護者を支援す
児への理解	理解している。また、障	「個別の指導計画」等を	れまでの関わりなど、細	方について専門性を高め、	る体制を構築している。
と支援				他の職員と共有しながら、	
	習得している。	するとともに、対象児や 保護者に対して適切に指			要な乳児やその保護者へ の対応について、他の職
		等・支援を行っている。	前画」等を作成し、他の 職員と共有するとともに、		員に適切な支援・助言を
			対象児や保護者に対して		行っている。
			適切に指導・支援を行っ		
			ている。		
	発達を踏まえた乳児の理			一人一人の乳児の発達等	
等の理解・	解、指導計画に基づいた 評価や記録の仕方につい	もと、乳児の発達等を含む育ち全体に目を向け、			
描写計画に 基づいた評	計価や記録の任方について、基礎的知識を習得し	む育ら宝体に目を向け、記録をもとに指導計画の	け、記録をもとに指導計 画を多面的に捉え、評価	基づさ、具体的なねらい 及び内容等を踏まえて指	
価・改善の	ている。	改善を行っている。	しながら改善を行ってい	導を振り返り、課題を明	
実施			る。	確にしている。さらに、	分析し課題を明確にして
					いる。さらに、指導計画
				ついて、他の職員に適切 な支援・助言を行ってい	の評価・改善を全体的な 計画の改善につなげてい
				る。	る。
			ND 1 到旧保育「到旧		

保育所保育指針等の「第2章 保育の内容 1. 乳児保育 [乳児期の園児の保育] に関するねらい及び内容」より作成

表1-2 1・2歳児の保育担当者の育成指標

	段階 1 スタート期	段階 2 おおむね 1 ~ 5 年の経験	段階3 おおむね5~10年の経験	段階 4 おおむね10~15年の経験	段階 5 おおむね15年以上の経験		
				副主任保育士	主任保育士・主幹保育教諭		
	養成修了段階/採用時	保育士・保育教諭	職務分野別リーダー	専門リーダー			
未満児の発達等の理解	自分でできることが増え てくる、自我が育つなど、 未満児の発達について、 基礎的知識を習得してい る。	未満児の発達に加えて、 興味・関心、特性(生命 の保持と情緒の安定の下 で自己を十分に発揮す ることにより発達に必要 な体験を得ていくこと)、 よさや可能性の理解(以 下、発達等の理解)のも とに、必要な体験を考え ている。	保護者の願いや思いを受け止め、他の職員と連携を図りながら、一人一人の未満児の発達等を理解し、必要な体験を考えている。	一人一人の未満児の発達 等に応じた保育について、 他の職員と共有し、他の 職員に適切な支援・助言 を行っている。	一人一人の未満児の発達 等に応じた保育について、 他の職員に適切な支援・ 助言を行い、園全体の保 育の質の向上のための取 り組みをリードしている。		
指導計画等の作成	指針等に基づき作成され る全体的な計画、それに 基づく指導計画について、 基礎的知識を習得してい る。	全体的な計画に基づき、 未満児の発達等を踏まえ、 個別の指導計画を作成し、 他の職員と共有している。	全体的な計画に基づき、 一人一人の未満児の発達 等を踏まえ、3歳以上児 の保育との接続を考慮し て、個別的な指導計画を 作成し、他の職員と共有 している。	全体的な計画に基づき、 一人一人の乳児の発達 等を見通し、乳児や3歳 以上児の保育との接続を 考慮して、実践の振り返 りに基づいて個別の指導 計画を作成するとともに、 他の職員に適切な支援・ 助言を行っている。	全体的な計画に基づき、 一人一人の乳児の発達等 を見通し、乳児や3歳以 上児の保育との接続を考 慮して、園全体の視点か ら、職員の話し合いの中 心となって個別的な指導 計画の作成をリードして いる。		
未満児の発 達等の理解 や指導計画 に基づいた 保育の実践	未満児に対する環境構成 の工夫や教材研究のあり 方、その必要性について、 基礎的知識を習得してい る。	環境構成の工夫、教材研究を行い、未満児の自我の育ちを支えるよう、保育技術の習得及び実践に取り組んでいる。	環境構成の工夫、教材研究を行い、一人一人の未満児の自我の育ちを支えたり、興味や好奇心を満たしたりするよう、保育技術の向上に取り組んでいる。	他の職員のモデルとなり、 環境構成の工夫、教材研 究を行い、一人一人の未 満児の自我の育ちを支え たり、興味や好奇心を満 たしたりするよう、保育 技術の向上に取り組んで いる。	専門的な保育技術を向上 させ、他の職員に適切な 支援・助言を行い、職員 の中心となって保育の質 の向上のための取り組み をリードしている。		
	障害児保育や特別支援教育の目的や意義について理解している。また、障害に関する基礎的知識を習得している。	対象児の状態について把握し、「個別の支援計画」「個別の指導計画」等を作成し、他の職員と共有するとともに、対象児や保護者に対して適切に指導・支援を行っている。	生育歴、家庭の状況、これまでの関わりなど、細 やかに把握し、「個別の 支援計画」「個別の指導	方について専門性を高め、 他の職員と共有しながら、 対象児や保護者に対して 適切に指導・支援を行っ	さらに、特別な配慮が必		
未満児の発 達等の理解 ・指導計画 に基づいた 評価・改善 の実施	発達を踏まえた未満児の 理解、指導計画に基づい た評価や記録の仕方につ いて、基礎的知識を習得 している。	他の職員の指導・助言の もと、未満児の発達等を 含む育ち全体に目を向け、 記録をもとに指導計画の 改善を行っている。	等を含む育ち全体に目を	等を含む育ち全体の理解 に基づき、具体的なねら い及び内容等を踏まえて 指導を振り返り、課題を 明確にしている。さらに、	に基づき、具体的なねらい及び内容等を踏まえて 指導を振り返り、客観的 に分析し課題を明確にしている。さらに、指導計 画の評価・改善を全体的		

保育所保育指針等の「第2章 保育の内容 2. [満] 1歳以上 [満] 3歳未満 [の園] 児の保育に関するねらい及び内容」より作成

表1-3 3歳以上児の保育担当者の育成指標

	1						
	段階 1 スタート期	段階 2 おおむね 1 ~ 5 年の経験	段階3 おおむね5~10年の経験	段階 4 おおむね10~15年の経験	段階 5 おおむね15年以上の経験		
				副主任保育士	主任保育士・主幹保育教諭		
	養成修了段階/採用時	保育士・保育教諭	職務分野別リーダー	専門リーダー			
幼児の発達 等の理解	知的な興味や関心が高まったり、集団的な遊びや協働的な遊びが見られたりするなど、幼児の発達について、基礎的知識を習得している。	幼児の発達に加えて、興味・関心、特性(生命の保持と情緒の安定の下で自己を十分に発揮することにより発達に必要な体験を得ていくこと)、よさや可能性、他児と発達等の理解(以下、発達等の理解)のもとに、必要な体験を考えている。	保護者の願いや思いを受け止め、他の職員と連携を図りながら、一人一人の幼児の発達等を理解し、クラスの状態を踏まえて、必要な体験を考えている。	状態に応じた保育について、他の職員と共有し、他の職員に適切な支援・助言を行っている。	幼児の発達等やクラスの 状態に応じた保育につい て、他の職員への適切な 支援・助言を行い、園全 体の保育の質の向上のた めの取り組みをリードし ている。		
幼児理解に 基づいたク ラス運営	幼児理解に基づいたクラ ス運営について、基礎的 知識を習得している。	指針等や幼児の実態を踏まえ、幼児との信頼関係を築いた上で、集団づくりをしている。	指針等や幼児の実態を踏まえ、幼児理解に基づく 人間関係の構築と一人一 人に寄り添った集団づく りをしている。	集団の発達の視点を取り 入れ、指針等や幼児理解に 態を踏まえ、幼児理解に 基づく人間関係の構築と 一人一人に寄り添った職 団づくりをし、他の職員 に適切な支援・助言を行っている。	集団の発達の視点を取り 入れ、指針の規則の実 を等等が規則の構 を踏まえ間関係の構 をづく人人に関係が でしたが でしているを超えたいの中心を超えたいの中心を の話し合いのでの でしている。 は、のでは は、いいで は、いっで は、いっで は、いっで は、いっで は、いっで は、いっで は、いっで は、いっと に が は、いっで に が は に が に が に が に に が に が に に が に に に に		
指導計画等の作成	指針等に基づき作成される全体的な計画、指導計画について、基礎的知識を習得している。	全体的な計画に基づき、 幼児の発達等を踏まえ、 個別の指導計画を作成し、 他の職員と共有している。	全体的な計画に基づき、 幼児の発達等を踏まえ、 園や地域の行事等と関連 付けたり、小学校等との 接続を考慮したりしなが ら指導計画を作成し、他 の職員と共有している。	全体的な計画に基づき、 発達等を見通し、園や地域の行事等と関連付けたり、小学校等との接続を 考慮したりしながら、実践の振り返りに基づいて 指導計画を作成するとともに、他の職員に適切な 支援・助言を行っている。	全体的な計画に基づき、 発達等を見通し、園や地域の実態、小学校との接続の状況等を把握した上で、園全体の視点から職員の話し合いの中心となって指導計画の作成をリードしている。		
幼児理解や 指導計画に 基づいた保 育の実践		環境構成の工夫、教材研究を行い、幼児が主体的に活動できるよう、保育技術の習得及び実践に取り組んでいる。	環境構成の工夫、教材研究を行い、幼児が主体的に活動したり、多様な経験をしたりできるよう、保育技術の向上に取り組んでいる。	他の職員のモデルとなり、環境構成の工夫、教材研究を行い、幼児が主体的に活動したり、多様な経験をしたりできるよう、保育技術の向上に取り組んでいる。	専門的な保育技術を向上 させ、他の職員に適切な 支援・助言を行い、職員 の中心となって保育の質 の向上のための取り組み をリードしている。		
特別な配慮を要する幼児への理解と支援	障害児保育や特別支援教育の目的や意義について理解している。また、障害に関する基礎的知識を習得している。	対象児の状態について把握し、「個別の支援計画」「個別の指導計画」等を作成し、他の職員と共有するとともに、対象児や保護者に対して適切に指導・支援を行っている。	対象児の状態について、生育歴、家庭の状況、これまでの関わりなど、細やかに把握し、「個別の指導計画」「個別の指導計画」等を作成し、他の職員と共有するとともに、対象児や保護者に対して適切に指導・支援を行っている。	関係機関との連携を図り、 対象児への理解や関わり 方について専門性を高め、 他の職員と共有しながら、 対象児や保護者に対して 適切に指導・支援を行っ ている。	小学校や関係機関と連携 しながら、対象児や保護 者を支援する体制を構築 している。さらに、特別 な配慮が必要な幼児やそ の保護者への対応につい て、他の職員に適切な支 援・助言を行っている。		
幼児理解・ 指導計画に 基づいた評 価・改善の 実施	発達を踏まえた幼児理解、 指導計画に基づいた評価 や記録の仕方について、 基礎的知識を習得してい る。	他の職員の指導・助言の もと、幼児の発達等を含 む育ち全体に目を向け、 記録をもとに指導計画の 改善を行っている。	幼児の発達等を含む育ち 全体や集団の育ちに目を 向け、記録をもとに指導 計画を多面的に捉えなが ら改善を行っている。	幼児理解に基づき、具体 的なねらい及び内容等を 踏まえて指導を振り、 り、課題を明確にしてい る。さら改善について、他 の職員に適切な支援・助 言を行っている。	幼児理解に基づき、具体 的なねらい及び内容等を 踏まえて指導を振り返り、 客観的に分析し課題を 明確にしている。さらに、 指導計画の評価・改善を 全体的な計画の改善につ なげている。		

保育所保育指針等の「第2章 保育の内容 3. [満] 3歳以上 [の園] 児の [教育及び] 保育に関するねらい及び内容」より作成

表1-4 「健康及び安全」と「子育て支援」に関する育成指標

	段階 1	段階 2	段階 3	段階 4	段階 5
	スタート期	おおむね1~5年の経験	おおむね5~10年の経験	おおむね10~15年の経験	おおむね15年以上の経験
				副主任保育士	主任保育士・主幹保育教諭
	美术板子印料、450円		職務分野別リーダー	専門リ	ーダー
	養成修了段階/採用時	保育士・保育教諭			
健康支援	指針等の内容を理解する とともに、健康状態や発 育及び発達の状態の把握 の必要性を理解してい る。	一人一人の子どもの健康 状態や発育及び発達の状態を把握し、記録すると ともに、必要な対応を行っている。	全体的な計画に基づいて 作成された保健計画(学 校保健計画)のねらいや 内容を踏まえ、一人一人 の子どもの健康の保持と 増進を進めている。	嘱託医(学校医)や関係 機関と連携・調整し、疾 病等に対応している。ま た、保健計画(学校保健 計画)に基づく子どもの 健康の保持や増進につい て、他の職員を指導して いる。	嘱託医(学校医)や関係 機関と連携・調整し、感 染症等に対応している。 さらに、保健計画(学校 保健計画)の策定、改訂 をリードしている。
食育の推進	指針等の内容を理解する とともに、食育の推進の 重要性を理解している。	ガイドラインや食育計画 等に基づき、園の特性を 生かした食育を行うとと もに、食物アレルギー等 への適切な対応を行って いる。	食育計画等に基づき、他の職員と連携を取りながら、園の特性を生かした食育を行うとともに、食物アレルギー等への適切な対応を行っている。	食育計画等に基づき、他の職員と連携を取りながら、園の特性を生かした食育を行うとともに、食物アレルギー等への適切な対応を行っている。さらに、食育について他の職員を指導している。	食育計画等に基づき、食育について他の職員への支援や助言を行うとともに、食物アレルギー等への適切な対応を行っている。さらに、食育計画の改善にも中心的役割を果たしている。
環境及び衛 生管理並び に安全管理	指針等の内容を理解する とともに、環境及び衛生 管理の重要性と事故防止 及び安全対策の必要性を 理解している。	園で行われている適切な 環境の維持、設備及び用 具等の衛生管理、事故防 止及び安全対策の実態を 把握している。	保育室の環境の維持、衛 生管理、事故防止及び安 全対策に関して責任を持 って対応している。	保育室の環境の維持、衛 生管理、事故防止及び安 全対策に関して、他の職 員を指導している。	保育室の環境の維持、衛 生管理、事故防止及び安 全対策に関して、他の職 員を指導するとともに、 園全体のこれらの管理に 責任を持っている。
災害への備え	指針等の内容を理解するとともに、災害への備えの重要性を理解している。	園の災害マニュアルを理解し、子どもと一緒に災に直面したことを想定した避難訓練に参加している。	園の災害マニュアルを理解し、災害に直面したことを想定した避難訓練の計画を立て、中心となって運営している。	園の災害マニュアルを理解し、災害に直面したことを想定した避難訓練の計画を立て、中心となって運営するとともに、園の災害マニュアルの作成、改善を行っている。	保護者や地域を巻き込ん だ避難訓練の計画を立 て、中心となって運営す るとともに、地域や関係 機関と協働して園の災害 マニュアルの評価、改善 を行っている。
	子育て支援の重要性を理 解している。	保護者との良好な関係を 築き、一人一人の実態に 応じて適切に家庭との連 携を図っている。	保護者との良好な関係を 築き、相談に応じたり、 専門性をもって対応した りしている。	き、必要に応じて関係機	子育て支援の中心的な立 場を自覚し、必要に応じ て関係機関と連携しなが ら、保護者を支援してい る。
地域における子育て支援	地域における保育所等の 役割について理解すると ともに、地域の関係機関 等との連携が必要である ことを理解している。	地域における自園の役割 を理解し、他の職員と一 緒に対応している。また 地域の関係機関等との連 携が必要であることを理 解し、他の職員と一緒に 対応している。			地域における子育て支援の中心として、他の職員をリードして、家庭・地域・関係機関と連携したり、協力したりしている。

保育所保育士等の「第3章 健康及び安全/第4章 子育て支援」より作成

度「幼稚園・保育所・認定こども園等の経営実態調査」報告書」)、保育士等キャリアアップ研修で保育士と主任保育士の間に副主任保育士等が創設されたことなどの理由からである。

次に各段階を、養成修了段階/採用時、保育士・保育教諭、職務分野別リーダー、副主任保育士、主任保育士・主幹保育教諭、専門リーダーとした。最初に養成修了段階/採用時を位置づけたのは、教員育成指標にならった。他の職位は、保育士等キャリアアップ研修の受講を参考にした。具体的には、職務分野別リーダーは経験年数おおむね3年以上、副主任保育士と専門リーダーは経験年数おおむね7年以上で研修修了等が条件のため、それをもとに位置づけた。この位置づけは、西村ら(2015)にも対応づけたものである。

表1-1の0歳児の保育担当者の資質について詳述する。縦に「乳児の発達等の理解」「指導計画等の作成」「乳児の発達等の理解や指導計画に基づいた保育の実践」「特別な配慮を要する乳児への理解と支援」「乳児の発達等の理解・指導計画に基づいた評価・改善の実施」の5つの資質を設けた。これらは、先に述べた教員育成指標で示されている資質や、保育所保育指針と幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいて設定したものである。

なお、保育士等キャリアアップ研修では「乳児保

育」と「障害児保育」は独立した研修である。しかしながら、もしの歳児のクラスに障害児がいた場合、障害児保育を担当する保育者が乳児には全く関わらないことや、逆に乳児保育を担当する保育者が障害児に全く接しないことは考えがたい。そこで、0歳児の保育担当者の資質の中に組み入れることにした。次に「乳児の発達等の理解」に関して各段階を概観する。スタート期である「養成修了段階/採用時」には、「運動機能の著しい発達、情緒的な絆の形成」とある。これらは、保育所保育指針の「乳児保育に関わるねらい及び内容」の(1)基本的事項のアに記されている、この時期の発達的特徴である。この

おおむね1~5年の経験の「保育士・保育教諭」の段階には、「乳児の発達に加えて、興味・関心、特性の理解のもとに必要な体験を考えている」と記されている。指針等の理解に加えて、実際の子どもの姿に目を向けて、必要な体験を考えることを求めている。このように、段階2は子どもの姿に目を向ける段階とした。

ように、段階1は指針等の理解の段階とした。

おおむね5~10年の経験の「職務分野別リーダー」の段階は、「保護者の願いや思いを受け止め、

他の職員と連携を図りながら、一人一人の乳児の発達等を理解し、必要な体験を考えている」とした。この段階には3つの内容を含めた。1つは保護者の願いを受け止めること、2つめは他の職員との連携を図ること、最後は一人一人の乳児に向き合うことである。一人一人の子どもの背景に目を向け、職員との連携のもとで発達等を理解する段階である。

おおむね10~15年の経験の「専門リーダー」または「副主任保育士」の段階には「他の職員に適切な支援・助言を行っている」を含めた。これは、西村ら(2015)の「他の保育士を指導できる」段階を反映したものである。同調査では10年以上15年未満の勤務経験までに過半数の保育士が新人保育士や新人以外の保育士の指導を経験していた。副主任保育士は、主任保育士に次ぐポストとして、実習生、若手職員の指導が業務に入ってくると期待される。

おおむね10~15年の経験の「専門リーダー」または「主任保育士・主幹保育教諭」の段階には「園全体の保育の質の向上のための取り組みをリードしている」を含めた。西村ら(2015)の調査では、「リードできる」はほとんどいなかった。これは対象を保育士としたためであると推測できる。実際に主任保育士や主幹保育教諭であればリードすることが求められる。

他の4つの資質についても、おおむね次のように 段階を設定した。すなわち、段階1は保育所保育指 針の理解の段階、段階2は実際の子どもの姿に目を 向ける段階、段階3は他の職員と連携・協働を図る 段階、段階4は他の職員を指導する段階、段階5は 園をリードする段階とした。なお「特別な配慮を要 する乳児への理解と支援」にかかる資質では、関係 機関があったり、特別支援の専門職がいたりするの で、段階5を他の職員を指導する段階として、園を リードする段階はなくした。

表1-2の1・2歳児の保育担当者の資質については、0歳児の保育担当者の資質との違いについてのみ言及する。発達等の理解では「自分でできることが増えてくる、自我が育つ」などこの時期の発達の理解を組み入れた。指導計画等の作成では、考慮する接続先を乳児と3歳以上児の2つとした。

表1-3の3歳以上児の保育担当者の資質についても違いについてのみ言及する。発達等の理解では、「知的な興味や関心が高まったり、集団的な遊びや協同的な遊びが見られたりする」など、この時期の発達の特徴を組み入れた。自治体が公表している幼稚園教諭・幼保連携型認定こども園保育教諭の資質との整合性を取るため、「幼児理解に基づいたクラ

ス運営」を資質として位置づけた。指導計画等の作成や特別な配慮を要する幼児への理解と支援で、小学校との接続や連携を組み入れた。

表1-4の上に示した「健康及び安全」に関する 資質は、保育所保育指針や幼保連携型認定こども園 教育・保育要領の「節」にならって、健康支援、食 育の推進、環境及び衛生管理並びに安全管理、災害 への備えの4つの資質を設定した。表1-4の下に 示した「子育て支援(子育ての支援)」に関する資 質も、保育所保育指針や幼保連携型認定こども園教 育・保育要領の「節」にならって、保護者への子育 て支援と地域における子育て支援の2つの資質を設 定した。

研究 2 質問紙調査

目的

担当や経験年数によって保育者がどのように成長 していくかについて調べることで、研究1で提案し た保育者の資質向上のための研修体系(育成指標) の妥当性を検証することを目的とした。

方法

1. 調査対象

全国の20分の1の保育所を調査対象として選出し 1,598の園に調査票の一式を送付した。このうち15 の園には郵便が不達(宛先不明11、受取・回答辞 退2、閉園2)であったので、実質の調査対象は 1,583園である。228園から回答があった。回収率は 14.4%であった。回収された調査票は園長等管理職 用が220票、主任保育士・主幹保育教諭用が212票、 0歳児用が337票、1・2歳児用が394票、3・4・ 5歳児用が395票であった。

2. 材料

5種類の調査表を作成した。A票は園長等管理職用で、10の設問からなっていた。設問1は「0歳児の保育担当者」の5つの資質、設問2は「1・2歳児の保育担当者」の5つの資質、設問3は「3歳以上児の保育担当者」の6つの資質、設問4は「環境及び安全」にかかる4つの資質と「子育て支援」にかかる2つの資質のそれぞれ5つの段階を示し、園の職員で経験年数が1年未満、1~3年、3~5年、5~7年、7~10年、10~15年、15年以上の職員がどの段階かを尋ねるものであった。設問5~8は、同じ資質と段階を示し、理想としてどの経験年数でその段階になってもらいたいかを尋ねた。設問9では園外研修、園内研修で資質に対応する内容の研修

を行っているかどうかを尋ねた。設問10では園のこと(所在地、運営主体等)を尋ねた。

B票は主任保育士・主幹保育教諭用で、6つの設問からなっていた。設問1から4は、園長用と同じ「0歳児の保育担当者」の5つの資質、「1・2歳児の保育担当者」の5つの資質、「3歳以上児の保育担当者」の6つの資質、「環境及び安全」にかかる4つの資質と「子育て支援」にかかる2つの資質のそれぞれ5つの段階を示し、回答者の資質が5段階のうちどの段階か、またその資質が今の段階に達するまでに、どのような研修・研鑽の経験が有効であったかを尋ねるものであった。設問5では資質を向上する意欲を様々な場面でどの程度感じるかを尋ねた。設問6では個人の情報(保育者としての通算勤務年数、年齢など)を尋ねた。

C票は0歳児を担当する保育者用で、B票の設問 1、4、5、6を尋ねた。D票は1・2歳児を担当する保育者用で、B票の設問2、4、5、6を尋ねた。E票は3歳以上児を担当する保育者用で、B票の設問3、4、5、6を尋ねた。A票、B票、C票は付録参照。

3. 手続き

依頼文書と「アンケート用紙の配付・回収について」の文書、A票(園長等管理職用)とB票(主任保育士・主幹保育教諭用)は各1部、C票からE票の保育者用は各2部ずつと、返信用封筒を2022年11月28日(月)に調査対象園に郵送した。締め切りを2022年12月17日(土)としたが、社会情勢と郵便事情を勘案し、2023年1月11日(水)までに着いたものを分析対象とした。

結果と考察

A 園長対象の調査結果について

1. 回答者の施設の基本属性

(1)回答施設の所在地

今回の調査で回答のあった施設の所在地について表2-A-1にまとめた。最も多かったのは関東地方であったが、ほぼ全国にわたって回答があった。なお、園長対象のアンケート回収数は220であり、園長対象の調査結果に記載の%については、とくに記載がない限り、220を母数として算出した。

(2)回答施設の施設種別と運営主体

今回の調査で回答のあった施設の施設種別や運営主体について表2-A-2、表2-A-3、表2-A-4にまとめた。回答施設の施設種別としては、保育所がもっとも多く、65%を占めていた。ついで幼保

表 2-A-1 回答施設の所在地の分布

	施設数	割合(%)
北海道地方	11	5. 0
東北地方	39	17. 7
関東地方	47	21. 4
中部地方	38	17, 3
近畿地方	29	13. 2
中国地方	18	8. 2
四国地方	11	5. 0
九州地方	24	10. 9
無回答	3	1. 4

表 2-A-2 回答施設の施設種別

施設種別	施設数	割合(%)
保育所	144	65. 5
幼保連携型認定こども園	55	25
認定こども園(保育所型)	14	6. 4
認定こども園(幼稚園型)	5	2. 3
認定こども園(地方裁量型)	1	0. 5
無回答	1	0. 5

表 2-A-3 回答された幼保連携型認定こども園の 以前の施設種別

施設種別	施設数	割合(%)
保育所	34	61.8
幼稚園	10	18. 2
新設	3	5. 5
その他	8	14. 5

表2-A-4 回答施設の運営主体

運営主体	施設数	割合(%)
市区町村	73	33. 2
社会福祉法人	112	50. 9
学校法人	17	7. 7
企業	9	4. 1
その他	6	2. 7
無回答	3	1. 4

連携型認定こども園が多く25%であった。幼保連携型認定こども園については、もともとは保育所だった施設が多かった。運営主体は、「社会福祉法人」がもっとも多く、半数を占めていた。ついで「市区町村」が多かった。

(3) 回答施設の規模

定員数、年齢毎の在籍児数、担当年齢毎の保育者数にもとづいて施設の規模を分類した分布を表 2-

A-5、表2-A-6、表2-A-7、表2-A-8に示した。

定員規模でみると、定員が61~90人の施設が最も多く、ついで91~120人の施設が多かった。年齢毎の在籍児数を5名単位で分類すると、0歳児は6~10人という施設が最も多く、1歳児は6~10人や11人~15人という施設が最も多かった。2歳児、3歳児、4歳児は11~15人という施設が最も多く、5歳児は21~25人という施設が最も多かった。

表 2-A-5 定員規模で分類した回答施設の分布

定員規模	施設数	割合(%)
20~ 45人	26	11.8
46~ 60人	38	17. 3
61~ 90人	46	20. 9
91~120人	42	19. 1
121~150人	33	15
151~200人	16	7. 3
201人以上	13	5. 9
無回答	6	2. 7

表 2-A-6 在籍児数で分類した回答施設の分布

人数	O点		1 肩	 表児	2 点	 表児	3 肩		4	 表児	5 点	 表児
八奴	施設数	割合(%)	施設数	割合(%)	施設数	割合(%)	施設数	割合(%)	施設数	割合(%)	施設数	割合(%)
0人	13	5. 9	1	0. 5	2	0. 9	1	0. 5	1	0. 5	1	0. 5
1人~ 5人	65	29. 5	33	15	23	10.5	21	9. 5	17	7. 7	16	7. 3
6人~10人	86	39. 1	52	23. 6	34	15. 5	28	12. 7	24	10. 9	35	15. 9
11人~15人	36	16, 4	49	22. 3	62	28. 2	41	18. 6	43	19. 5	34	15. 5
16人~20人	8	3. 6	45	20. 5	35	15. 9	31	14. 1	34	15. 5	28	12. 7
21人~25人	3	1.4	23	10. 5	32	14. 5	34	15. 5	39	17. 7	38	17. 3
26人~30人	0	0	7	3. 2	13	5. 9	23	10. 5	17	7. 7	17	7. 7
31人~35人	0	0	2	0. 9	4	1.8	7	3. 2	6	2. 7	15	6.8
36人~40人	0	0	0	0	4	1.8	9	4. 1	7	3. 2	5	2. 3
41人~45人	0	0	0	0	1	0.5	7	3. 2	5	2. 3	4	1.8
46人~50人	0	0	0	0	1	0. 5	1	0. 5	6	2. 7	3	1.4
51人以上	1	0. 5	0	0	0	0	5	2. 3	8	3. 6	9	4. 1
無回答	8	3. 6	8	3. 6	9	4. 1	12	5. 5	13	5. 9	15	6.8

表2-A-7 常勤保育者数で分類した回答施設の分布

人数	O歳児		1 歳児		2点	表児	3 点	 表児	4	表児	5歳児	
人奴	施設数	割合(%)	施設数	割合(%)	施設数	割合(%)	施設数	割合(%)	施設数	割合(%)	施設数	割合(%)
0人	7	3. 2	1	0. 5	1	0. 5	1	0. 5	0	0	2	0. 9
1人	59	26.8	47	21. 4	43	19. 5	74	33. 6	94	42. 7	97	44. 1
2人	58	26. 4	66	30.0	78	35. 5	89	40. 5	76	34. 5	73	33. 2
3人	37	16.8	45	20. 5	47	21.4	25	11.4	18	8. 2	13	5. 9
4人	15	6.8	22	10.0	25	11. 4	7	3. 2	4	1.8	7	3. 2
5人以上	15	6.8	13	5. 9	11	5. 0	4	1.8	1	0. 5	2	0. 9
無回答	29	13. 2	26	11.8	15	6.8	20	9. 1	27	12. 3	26	11.8

表2-A-8 非常勤保育者数で分類した回答施設の分布

人数	O点	裁児	1 歳児		2点	裁児	3 歳児		4 歳児		5 歳児	
人数	施設数	割合(%)	施設数	割合(%)	施設数	割合(%)	施設数	割合(%)	施設数	割合(%)	施設数	割合(%)
0人	18	8. 2	16	7. 3	20	9. 1	22	10	31	14. 1	30	13. 6
1人	64	29. 1	65	29. 5	59	26. 8	67	30. 5	52	23. 6	50	22. 7
2人	29	13. 2	35	15. 9	38	17. 3	17	7. 7	10	4. 5	7	3. 2
3人	15	6.8	9	4. 1	9	4. 1	5	2. 3	2	0.9	2	0. 9
4人	5	2. 3	6	2. 7	2	0. 9	0	0	0	0	0	0
5人以上	2	0. 9	3	1.4	3	1.4	1	0. 5	1	0. 5	0	0
無回答	87	39. 5	86	39. 1	89	40. 5	108	49. 1	124	56. 4	131	59. 5

担当年齢毎の常勤保育者数で分類すると、0歳児は1人や2人という施設が最も多く、1歳児は2人という施設が最も多かった。2歳児や3歳児は2人という施設が最も多く、4歳児や5歳児は1人という施設が最も多かった。

担当年齢毎の非常勤保育者数で分類すると、いずれの年齢担当においても1人という施設が最も多かった。ただ、回答のなかった施設が多く、この無回答を0人として解釈するならば0人という施設が最も多かったともとることができる(この設問は具体的な人数を数値で記入してもらう形式で、0名の場合に記載を省略した可能性は非常に高い)。

2. 園長からみた職員の資質の段階

資質毎に5つの段階を設定し、保育経験年数の異なる職員がそれぞれ、実際に5段階のどのレベルにあると感じているか、また理想として5段階のどのレベルにあってほしいかを園長に尋ねた。

当初の質問の設定としては、保育経験年数の区分毎に、5段階のいずれか1つを回答してもらう形式としていたが、実際の回答をみると、多くの回答者が複数の段階を選択していたり、まったく回答をしていなかったりというものが多かった。本来であれば、こうした回答は無効回答として分析から除外するべきであるが、そうするとあまりに無効回答が多くなってしまうため、ここでは便宜的に、複数回答のあったものはそれぞれの回答を独立した回答とみなし、すべての回答を母数とした総回答数は資質、保育した。それゆえ、母数とした総回答数は資質、保育

経験年数によって異なり、91から209の間の値でばらばらであった。

以下、資質毎に結果を図にまとめた。各図とも、 左側に現状としての段階レベルを、右側に理想としての段階レベルを配置し、それぞれ左側から段階 1、 段階 2、段階 3、段階 4、段階 5 と色分けにて比率 を示した(すなわち黒色が段階 1、白色が段階 5、 間の灰色は濃い方から段階 2、段階 3、段階 4 を表 している)。図中の数字は、割合(%)を表している。 すべての資質とも全体的にみて、保育経験年数が 少ないものは段階 1のレベルのものが多く、保育経 験年数が長くなると上位の段階のものが多いという 結果であった。また、理想としての段階は、全体的 に、おおむね現状と同じか、現状よりもやや高いレ ベルの段階を期待しているという結果であった。以 下、資質毎に、各経験年数で最も多かった段階を記 述していく。

(1) 乳児保育について

①乳児の発達等の理解(図2-A-1)

現状としての段階をみると、1年未満のものは段階 1、 $1\sim3$ 年のものは段階 2、 $3\sim5$ 年や $5\sim7$ 年のものは段階 3、 $7\sim10$ 年や $10\sim15$ 年のものは段階 4、15年以上になると段階 5 が最も多かった。また、理想としての段階は、1年未満のものは段階 1、 $1\sim3$ 年のものは段階 2、 $3\sim5$ 年や $5\sim7$ 年のものは段階 3、 $7\sim10$ 年のものは段階 4、 $10\sim15$ 年や15年以上で段階 5 が最も期待されていた。

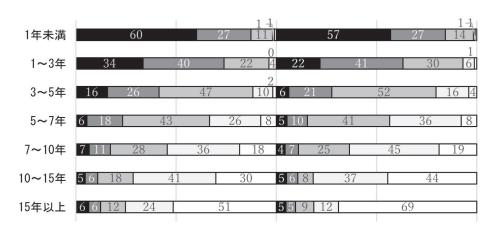


図2-A-1 乳児の発達等の理解に関する経験年数毎の資質段階

②乳児保育における指導計画等の作成(図2-A-2) 現状としての段階をみると、1年未満のものは段階1、1~3年のものは段階2、3~5年や5~7年のものは段階3、7~10年や10~15年のものは段階4、15年以上になると段階5が最も多かった。また、理想としての段階は、1年未満のものは段階1、1~3年のものは段階2、3~5年や5~7年のものは段階3、7~10年や10~15年のものは段階4、15年以上で段階5が最も期待されていた。

③乳児の発達等の理解や指導計画に基づいた保育の 実践(図2-A-3)

現状としての段階をみると、1 年未満のものは段階 1、 $1\sim3$ 年のものは段階 2、 $3\sim5$ 年や $5\sim7$ 年のものは段階 3、 $7\sim10$ 年や $10\sim15$ 年のものは段階 4、15 年以上になると段階 5 が最も多かった。ま

た、理想としての段階は、1年未満のものは段階 1、 $1\sim3$ 年のものは段階 2、 $3\sim5$ 年や $5\sim7$ 年のものは段階 3、 $7\sim10$ 年や $10\sim15$ 年のものは段階 4、15年以上で段階 5 が最も期待されていた。

④特別な配慮を要する乳児への理解と支援(図2-A-4)

現状としての段階をみると、1年未満のものは段階 1、 $1\sim3$ 年のものは段階 2、 $3\sim5$ 年や $5\sim7$ 年のものは段階 3、 $7\sim10$ 年や $10\sim15$ 年のものは段階 4、15年以上になると段階 5 が最も多かった。また、理想としての段階は、1年未満のものは段階 1、 $1\sim3$ 年のものは段階 2、 $3\sim5$ 年や $5\sim7$ 年のものは段階 3、 $7\sim10$ 年のものは段階 4、 $10\sim15$ 年や15年以上で段階 5 が最も期待されていた。

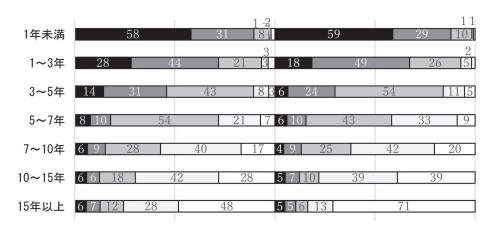


図2-A-2 乳児保育における指導計画等の作成に関する経験年数毎の資質段階

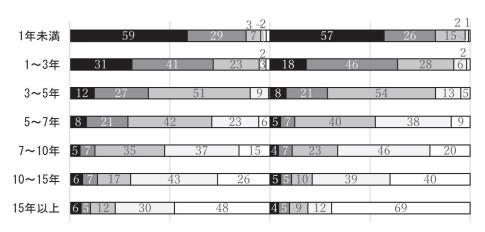


図2-A-3 乳児の発達等の理解や指導計画に基づいた保育の実践に関する経験年数毎の資質段階

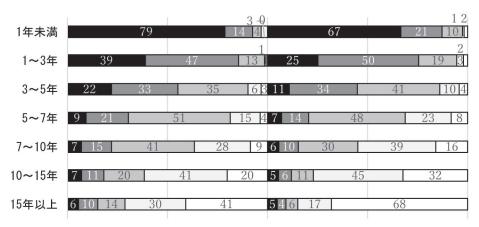


図2-A-4 特別な配慮を要する乳児への理解と支援に関する経験年数毎の資質段階

⑤乳児の発達等の理解・指導計画に基づいた評価・ 改善の実施(図2-A-5)

現状としての段階をみると、1年未満のものは段階 1、 $1\sim3$ 年や $3\sim5$ 年のものは段階 2、 $5\sim7$ 年のものは段階 3、 $7\sim10$ 年や $10\sim15$ 年のものは段階 4、15年以上になると段階 5 が最も多かった。また、理想としての段階は、1年未満のものは段階 1、

 $1 \sim 3$ 年のものは段階 2、 $3 \sim 5$ 年や $5 \sim 7$ 年のものは段階 3、 $7 \sim 10$ 年や $10 \sim 15$ 年のものは段階 4、15年以上で段階 5 が最も期待されていた。

(2) 1歳以上3歳未満児の保育について

① 1 ・ 2 歳児の発達等の理解 (図 2-A-6) 現状としての段階をみると、1 年未満のものは段

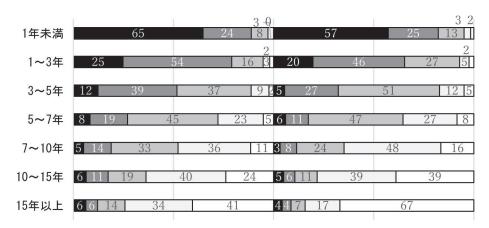


図2-A-5 乳児の発達等の理解・指導計画に基づいた評価・改善の実施に関する経験年数毎の資質段階

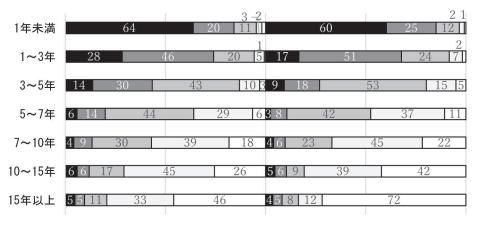


図2-A-6 1・2歳児の発達等の理解に関する経験年数毎の資質段階

階 1、 $1\sim3$ 年や $3\sim5$ 年のものは段階 2、 $5\sim7$ 年のものは段階 3、 $7\sim10$ 年や $10\sim15$ 年のものは段階 4、15年以上になると段階 5 が最も多かった。また、理想としての段階は、1年未満のものは段階 1、 $1\sim3$ 年のものは段階 2、 $3\sim5$ 年や $5\sim7$ 年のものは段階 3、 $7\sim10$ 年のものは段階 4、 $10\sim15$ 年や 15年以上で段階 5 が最も期待されていた。

② 1 ・ 2 歳児の保育における指導計画等の作成(図 2-A-7)

現状としての段階をみると、1年未満のものは段階 1、 $1\sim3$ 年や $3\sim5$ 年のものは段階 2、 $5\sim7$ 年のものは段階 3、 $7\sim10$ 年や $10\sim15$ 年のものは段階 4、15年以上になると段階 5 が最も多かった。また、理想としての段階は、1年未満のものは段階 1、

 $1 \sim 3$ 年のものは段階 2、 $3 \sim 5$ 年や $5 \sim 7$ 年のものは段階 3、 $7 \sim 10$ 年のものは段階 4、 $10 \sim 15$ 年や15年以上で段階 5 が最も期待されていた。

③ 1 · 2 歳児の発達等の理解や指導計画に基づいた 保育の実践(図 2-A-8)

現状としての段階をみると、1年未満のものは段階 1、 $1\sim3$ 年や $3\sim5$ 年のものは段階 2、 $5\sim7$ 年のものは段階 3、 $7\sim10$ 年や $10\sim15$ 年のものは段階 4、15年以上になると段階 5 が最も多かった。また、理想としての段階は、1年未満のものは段階 1、 $1\sim3$ 年のものは段階 2、 $3\sim5$ 年や $5\sim7$ 年のものは段階 3、 $7\sim10$ 年のものは段階 4、 $10\sim15$ 年や 15年以上で段階 5 が最も期待されていた。

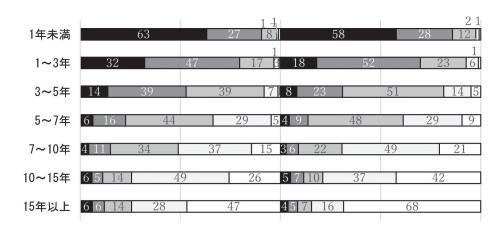


図2-A-7 1・2歳児の保育における指導計画等の作成に関する経験年数毎の資質段階

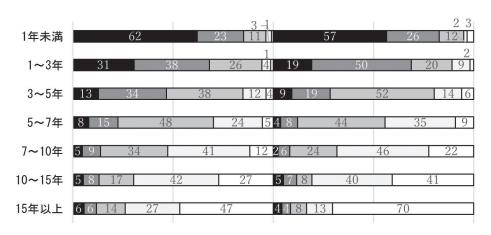


図2-A-8 1・2歳児の発達等の理解や指導計画に基づいた保育の実践に関する経験年数毎の資質段階

④特別な配慮を要する1・2歳児への理解と支援(図2-A-9)

現状としての段階をみると、1年未満のものは段階 1、 $1\sim3$ 年や $3\sim5$ 年のものは段階 2、 $5\sim7$ 年のものは段階 3、 $7\sim10$ 年や $10\sim15$ 年のものは段階 4、15年以上になると段階 5 が最も多かった。また、理想としての段階は、1年未満のものは段階 1、 $1\sim3$ 年のものは段階 2、 $3\sim5$ 年や $5\sim7$ 年のものは段階 3、 $7\sim10$ 年のものは段階 4、 $10\sim15$ 年や 15年以上で段階 5 が最も期待されていた。

⑤1・2歳児の発達等の理解・指導計画に基づいた 評価・改善の実施(図2-A-10)

現状としての段階をみると、1年未満のものは段階 1、 $1\sim3$ 年や $3\sim5$ 年のものは段階 2、 $5\sim7$ 年や $7\sim10$ 年のものは段階 3、 $10\sim15$ 年のものは段

階4、15年以上になると段階 5 が最も多かった。また、理想としての段階は、1年未満のものは段階 1、 $1 \sim 3$ 年のものは段階 2、 $3 \sim 5$ 年や $5 \sim 7$ 年のものは段階 3、 $7 \sim 10$ 年や $10 \sim 15$ 年のものは段階 4、15年以上で段階 5 が最も期待されていた。

(3) 3歳以上児の保育について

①幼児の発達等の理解 (図2-A-11)

現状としての段階をみると、1年未満のものは段階 1、1~3年のものは段階 2、3~5年や5~7年のものは段階 3、7~10年や10~15年のものは段階 4、15年以上になると段階 5 が最も多かった。また、理想としての段階は、1年未満のものは段階 1、1~3年のものは段階 2、3~5年や5~7年のものは段階 3、7~10年のものは段階 4、10~15年や15年以上で段階 5 が最も期待されていた。

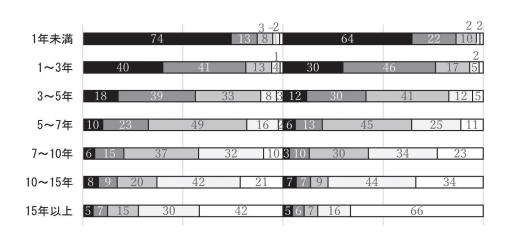


図2-A-9 特別な配慮を要する1・2歳児への理解と支援に関する経験年数毎の資質段階

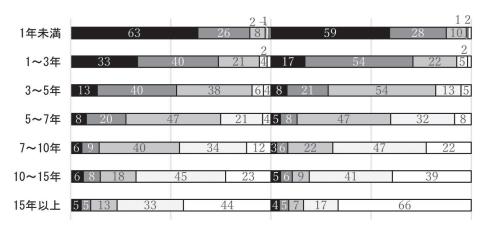


図2-A-10 1・2歳児の発達等の理解・指導計画に基づいた評価・改善の実践に関する経験年数毎の資質段階

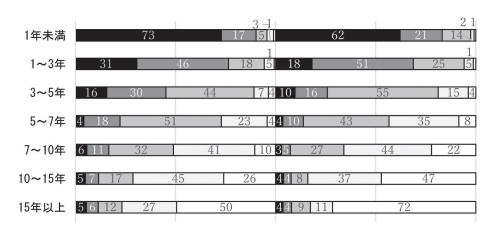


図 2-A-11 3歳以上児の発達等の理解に関する経験年数毎の資質段階

②幼児理解に基づいたクラス運営(図2-A-12)

現状としての段階をみると、1年未満のものは段階 1、1~3年のものは段階 2、3~5年や5~7年のものは段階 3、7~10年や10~15年のものは段階 <math>4、15年以上になると段階 5 が最も多かった。また、理想としての段階は、1年未満のものは段階 1、1~3年のものは段階 2、3~5年や5~7年のものは段階 <math>3、7~10年のものは段階 <math>4、10~15年や

15年以上で段階5が最も期待されていた。

③3歳以上児の保育における指導計画等の作成(図 2-A-13)

現状としての段階をみると、1 年未満のものは段階 1、 $1\sim3$ 年や $3\sim5$ 年のものは段階 2、 $5\sim7$ 年のものは段階 3、 $7\sim10$ 年のものは段階 4、15 年以上になると段階 5 が最も多かった。ま

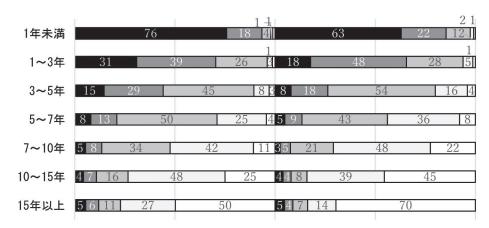


図2-A-12 幼児理解に基づいたクラス運営に関する経験年数毎の資質段階

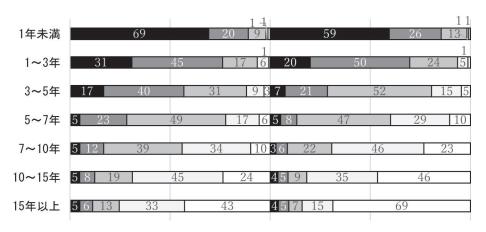


図2-A-13 3歳以上児の保育における指導計画等の作成に関する経験年数毎の資質段階

た、理想としての段階は、1年未満のものは段階 1、 $1\sim3$ 年のものは段階 2、 $3\sim5$ 年や $5\sim7$ 年のものは段階 3、 $7\sim10$ 年のものは段階 4、 $10\sim15$ 年や15年以上で段階 5が最も期待されていた。

④幼児理解や指導計画に基づいた保育の実践(図2-A-14)

現状としての段階をみると、1年未満のものは段階 1、1~3年のものは段階 2、3~5年や5~7年のものは段階 3、7~10年や10~15年のものは段階 4、15年以上になると段階 5 が最も多かった。また、理想としての段階は、1年未満のものは段階 1、1~3年のものは段階 2、3~5年や5~7年のものは段階 3、7~10年のものは段階 4、10~15年や 15年以上で段階 5 が最も期待されていた。

⑤特別な配慮を要する幼児への理解と支援(図2-A-15)

現状としての段階をみると、1年未満のものは段

階1、 $1\sim3$ 年や $3\sim5$ 年のものは段階2、 $5\sim7$ 年や $7\sim10$ 年のものは段階3、 $10\sim15$ 年のものは段階4、15年以上になると段階5が最も多かった。また、理想としての段階は、1年未満のものは段階1、 $1\sim3$ 年のものは段階2、 $3\sim5$ 年や $5\sim7$ 年のものは段階3、 $7\sim10$ 年のものは段階4、 $10\sim15$ 年や15年以上で段階5が最も期待されていた。

⑥幼児理解・指導計画に基づいた評価・改善の実施 (図2-A-16)

現状としての段階をみると、1年未満のものは段階 1、 $1\sim3$ 年や $3\sim5$ 年のものは段階 2、 $5\sim7$ 年や $7\sim10$ 年のものは段階 3、 $10\sim15$ 年のものは段階 4、15年以上になると段階 5 が最も多かった。また、理想としての段階は、1年未満のものは段階 1、 $1\sim3$ 年のものは段階 2、 $3\sim5$ 年や $5\sim7$ 年のものは段階 3、 $7\sim10$ 年や $10\sim15$ 年のものは段階 4、15年以上で段階 5 が最も期待されていた。

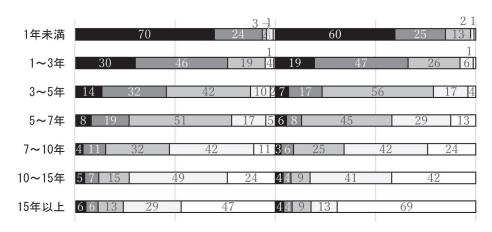


図2-A-14 幼児理解や指導計画に基づいた保育の実践に関する経験年数毎の資質段階

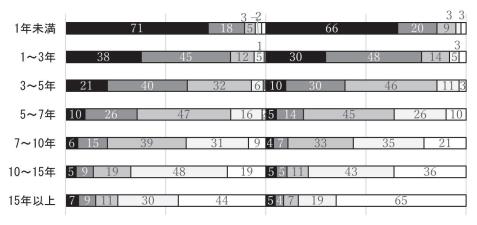


図2-A-15 特別な配慮を要する幼児への理解と支援に関する経験年数毎の資質段階

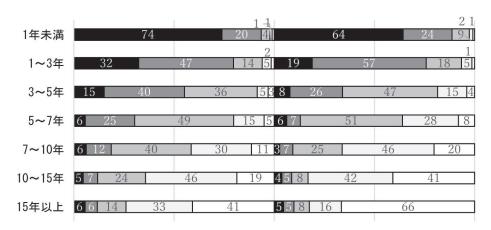


図2-A-16 幼児理解・指導計画に基づいた評価・改善の実勢に関する経験年数毎の資質段階

(4) 健康及び安全と子育て支援について

①健康支援(図2-A-17)

現状としての段階をみると、1年未満のものは段階 1、 $1\sim3$ 年のものは段階 2、 $3\sim5$ 年や $5\sim7$ 年や $7\sim10$ 年のものは段階 3、 $10\sim15$ 年のものは段階 4、15年以上になると段階 5 が最も多かった。また、理想としての段階は、1年未満のものは段階 1、

 $1 \sim 3$ 年のものは段階 2、 $3 \sim 5$ 年や $5 \sim 7$ 年のものは段階 3、 $7 \sim 10$ 年や $10 \sim 15$ 年のものは段階 4、15年以上で段階 5 が最も期待されていた。

②食育の推進(図2-A-18)

現状としての段階をみると、1年未満のものは段階 1、 $1\sim3$ 年のものは段階 2、 $3\sim5$ 年や $5\sim7$

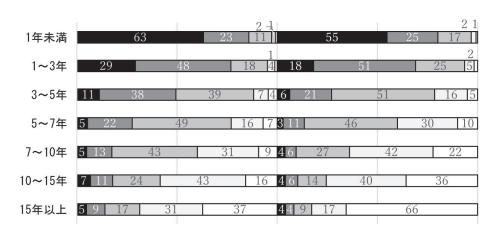


図2-A-17 健康支援に関する経験年数毎の資質段階

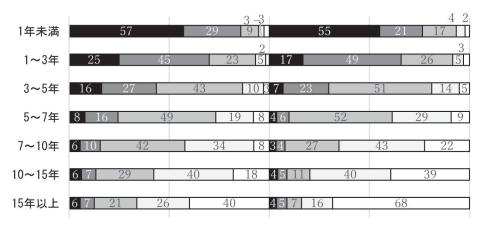


図2-A-18 食育の推進に関する経験年数毎の資質段階

年や7~10年のものは段階 3、10~15年のものは段階 4、15年以上になると段階 5 が最も多かった。また、理想としての段階は、1年未満のものは段階 1、1~3年のものは段階 2、3~5年や5~7年のものは段階 3、7~10年や10~15年のものは段階 4、15年以上で段階 5 が最も期待されていた。

③環境及び衛生管理並びに安全管理(図2-A-19)

現状としての段階をみると、1年未満のものは段階 1、 $1\sim3$ 年のものは段階 2、 $3\sim5$ 年や $5\sim7$ 年や $7\sim10$ 年のものは段階 3、 $10\sim15$ 年のものは段階 4、15年以上になると段階 5 が最も多かった。また、理想としての段階は、1年未満のものは段階 1、 $1\sim3$ 年のものは段階 2、 $3\sim5$ 年や $5\sim7$ 年のものは段階 3、 $7\sim10$ 年のものは段階 4、 $10\sim15$ 年や 15年以上で段階 5 が最も期待されていた。

④災害への備え (図 2-A-20)

現状としての段階をみると、1年未満のものは段階 1、 $1\sim3$ 年や $3\sim5$ 年のものは段階 2、 $5\sim7$ 年や $7\sim10$ 年のものは段階 3、 $10\sim15$ 年のものは段階 4、15年以上になると段階 4 や段階 5 が最も多かった。また、理想としての段階は、1年未満のものは段階 1、 $1\sim3$ 年のものは段階 2、 $3\sim5$ 年や $5\sim7$ 年のものは段階 3、 $7\sim10$ 年や $10\sim15$ 年のものは段階 4、15年以上で段階 5 が最も期待されていた。

⑤保護者への子育て支援(図2-A-21)

現状としての段階をみると、1年未満のものは段階 1、 $1\sim3$ 年のものは段階 2、 $3\sim5$ 年や $5\sim7$ 年のものは段階 3、 $7\sim10$ 年や $10\sim15$ 年のものは段階 4、15年以上になると段階 5 が最も多かった。また、理想としての段階は、1年未満のものは段階 1、

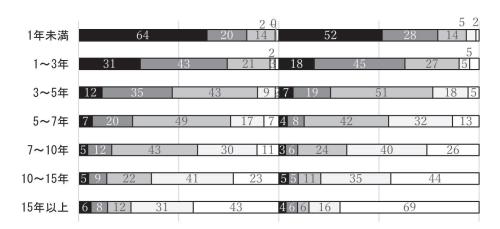


図 2-A-19 環境及び衛生管理並びに安全管理に関する経験年数毎の資質段階

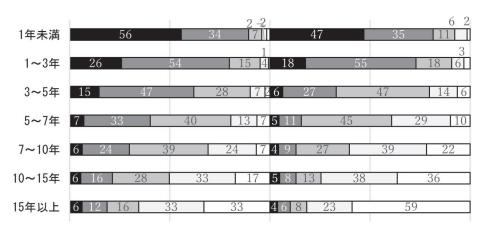


図2-A-20 災害への備えに関する経験年数毎の資質段階

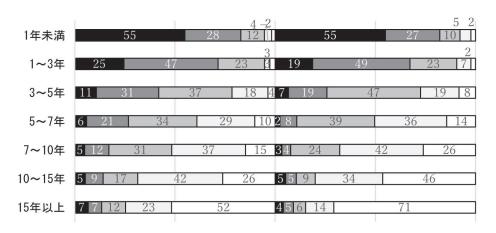


図2-A-21 保護者への子育て支援に関する経験年数毎の資質段階

 $1 \sim 3$ 年のものは段階 2、 $3 \sim 5$ 年や $5 \sim 7$ 年のものは段階 3、 $7 \sim 10$ 年のものは段階 4、 $10 \sim 15$ 年や15年以上で段階 5 が最も期待されていた。

⑥地域における子育て支援(図2-A-22)

現状としての段階をみると、1年未満や $1\sim3$ 年のものは段階 1、 $3\sim5$ 年のものは段階 2、 $5\sim7$ 年や $7\sim10$ 年のものは段階 3、 $10\sim15$ 年のものは段階 4、15年以上になると段階 5 が最も多かった。また、理想としての段階は、1年未満のものは段階 1、 $1\sim3$ 年のものは段階 2、 $3\sim5$ 年や $5\sim7$ 年のものは段階 3、 $7\sim10$ 年や $10\sim15$ 年のものは段階 4、15年以上で段階 5 が最も期待されていた。

(4) 園長からみた職員の資質段階の結果全体のまとめ

全体的にみて、保育経験年数が少ないものは段階 1のレベルのものが多く、保育経験年数が長くなる と上位の段階のものが多いという結果であった。資 質の内容にもよるが、おおむね1年未満の経験で段 階1、3年程度の経験で段階2、5年程度の経験で段階3、10年程度の経験で段階4、15年以上の経験で段階5というように、ステップアップしていることが示された(図2-A-23)。ただし、15年以上のものでも、一定数のものが段階1にあるという結果もあるように、すべての保育者が一様にステップアップしているわけではないことも示された。

理想としての段階は、全体的に、おおむね現状と同じか、現状よりもやや高いレベルの段階を期待しているという結果であり、園長は現状以上の資質を保育者に求めていることも示された。現状と理想の間が離れているところをこまかくみることで、今後、どの経験年数層の保育者にどのような研修が必要かの参考となるであろう。

資質の内容について比較をすると、「災害への備え」や「地域における子育て支援」などの資質については、15年以上の経験でも段階5に到達しているものはそれほど多くなかった。少なくとも、これらの内容については、今後、十分な研修が必要と考えられる。

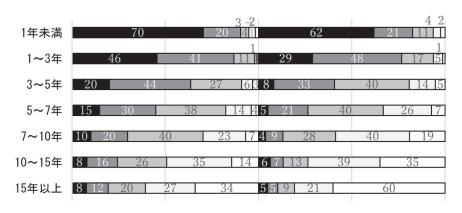


図2-A-22 地域における子育で支援に関する経験年数毎の資質段階

次际办力应			 職員	の保育経験	年数		
資質の内容	-1	1-3	3-5	5-7	7-10	10-15	15—
O歳児の発達等の理解	1	2	3	3	4	4	5
O歳児の指導計画等の作成	1	2	3	3	4	4	5
O歳児の保育の実践	1	2	3	3	4	4	5
O歳児の特別配慮児への支援	1	2	3	3	4	4	5
O歳児の評価・改善の実施	1	2	2	3	4	4	5
1・2歳児の発達等の理解	1	2	2	3	4	4	5
1・2歳児の指導計画等の作成	1	2	2	3	4	4	5
1・2歳児の保育の実践	1	2	2	3	4	4	5
1・2歳児の特別配慮児への支援	1	2	2	3	4	4	5
1・2歳児の評価・改善の実施	1	2	2	3	3	5	5
3歳以上児の発達等の理解	1	2	3	3	4	4	5
3歳以上児のクラス運営	1	2	3	3	4	4	5
3歳以上児の指導計画等の作成	1	2	2	3	4	4	5
3歳以上児の保育の実践	1	2	3	3	4	4	5
3歳以上児の特別配慮児への支援	1	2	2	3	3	4	5
3歳以上児の評価・改善の実施	1	2	2	3	3	4	5
健康支援	1	2	3	3	3	4	5
食育の推進	1	2	3	3	3	4	5
環境・衛生管理・安全管理	1	2	3	3	3	4	4
災害への備え	1	2	2	3	3	4	5
保護者への子育て支援	1	2	3	3	4	5	5
地域における子育て支援	1	1	2	3	3	4	5

図2-A-23 資質の内容別の職員の各経験年数で最も多かった資質の段階

3. 職員の資質を伸ばすための研修

職員の資質を伸ばすための研修が、どのような内容で、どのように実施しているかを、出張扱いされている園外研修と施設内で実施されている園内研修とでわけて表2-A-9と表2-A-10に示した。

園外研修についてみると、「健康支援」や「災害

への備え」などの内容はやや少ないものの、すべての内容にわたって、多くの施設で、講義形式の園外研修を出張扱いで受けていることが示された。ワークショップ・グループ形式の研修やe-learning形式の研修も、30~40と一定数の施設が受けていることも示された。

表2-A-9 出張扱いされている園外研修

	講	義	ワークシ グル	ョップ・	ビデオ	- DVD	公開	保育	e-lea	rning
	施設数	割合(%)	施設数	割合(%)	施設数	割合(%)	施設数	割合(%)	施設数	割合(%)
乳児の保育	164	74. 5	95	43. 2	37	16.8	87	39. 5	82	37. 3
未満児の保育	150	68. 2	87	39. 5	36	16. 4	75	34. 1	77	40. 9
幼児の教育・保育	170	77. 3	94	42. 7	41	18. 6	100	45. 5	90	40. 9
障害児保育	174	79. 1	95	43. 2	34	15. 5	68	30. 9	86	39. 1
健康支援	129	58. 6	72	32. 7	29	13. 2	50	22. 7	67	30. 5
食育の推進	150	68. 2	77	35. 0	33	15. 0	51	23. 2	77	35, 0
環境及び衛生管理 並びに安全管理	149	67. 7	75	34. 1	34	15. 5	51	23. 2	76	34. 5
災害への備え	132	60. 0	73	33. 2	42	19. 1	47	21. 4	68	30. 9
子育て支援	151	68. 6	76	34. 5	31	14. 1	47	21. 4	77	35. 0

	講	義	ワークシ グル	ョップ・	ビデオ	- DVD	公開	保育	e-lea	rning
	施設数	割合(%)	施設数	割合(%)	施設数	割合(%)	施設数	割合(%)	施設数	割合(%)
乳児の保育	64	29. 1	100	45. 5	45	20. 5	44	20. 0	43	19. 5
未満児の保育	59	26. 8	97	44. 1	43	19. 5	45	20. 5	40	18. 2
幼児の教育・保育	68	30. 9	99	45. 0	47	21. 4	51	23. 2	46	20. 9
障害児保育	69	31. 4	91	41. 4	33	15. 0	23	10. 5	38	17. 3
健康支援	38	17. 3	62	28. 2	32	14. 5	8	3. 6	32	14. 5
食育の推進	48	21. 8	73	33. 2	29	13. 2	13	5. 0	37	16.8
環境及び衛生管理 並びに安全管理	59	26. 8	91	41.4	37	16.8	7	3. 2	40	18. 2
災害への備え	51	23. 2	77	35. 0	38	17. 3	9	4. 1	35	15. 9
子育て支援	44	20. 0	68	30. 9	29	13. 2	7	3. 2	36	16. 4

表 2-A-10 施設内で実施している園内研修

園内研修については、園外研修と比べると全体的には実施しているという回答が少なかった。園内研修の形式としてはワークショップ・グループ形式での園内研修が多かった。

B. 保育士・保育教諭用(B~E票)の分析

1. 各段階の回答者の割合

(1) 保育に関する資質

表2-B-1は、C票(0歳児の保育担当者用)、D票(1・2歳児の保育担当者用)、E票(3歳以上児の保育担当者用)の設問1で、各回答者が自分の段階として選んだ段階の割合(%)を示したものである。C票とD票ではクラス運営に関する資質を調べていないので斜線を引いている。各資質で最も割合が高かった段階の数値のフォントを変えた。また2番目に割合が高かった段階の数値を太字のイタリック体にした。

0歳児の保育担当者では、最も割合が高かった段階は、いずれの資質でも段階3であった。特に保育の実践(乳児の発達等の理解や指導計画に基づいた保育の実践)では64.4%と、6割以上の回答者がこの段階であった。2番目に割合が高かったのは、特別配慮児への支援(特別な配慮を要する乳児への理解と支援)を除くと、段階4であった。児の発達等の理解(乳児の発達等の理解)では38.3%と、4割近くがこの段階であった。特別配慮児への支援では

段階1が2番目に割合が高く、3割近くが「障害児保育や特別支援教育の目的や意義の理解」や「障害に関する基礎的知識の習得」のレベルであった。

1・2歳児の保育担当者でも、いずれの資質でも最も割合が高かった段階は、段階3であった。2番目に割合が高かったのは、特別配慮児への支援を除くと、段階4であった。特別配慮児への支援では段階1の割合が2番目に高かった。この傾向は0歳児の保育担当者と同じであった。

3歳以上児の保育担当者でも、いずれの資質でも 段階3が最も割合が高かった。2番目に割合が高かった段階は、児の発達等の理解(幼児の発達等の理解(幼児の発達等の理解)、クラス運営、保育の実践、特別配慮児への支援では段階4、指導計画等の作成、保育の実践、評価・改善の実施(幼児理解・指導計画に基づいた評価・改善の実施)では段階2であった。段階2の割合が高かった3つの資質について、他の年齢と比較すると、指導計画の作成では「小学校との接続を考慮」することが求められていること、保育の実践では「主体的な活動」や「多様な経験」が強調されていること、評価・改善の実施では「集団の育ちに目を向ける」ことが求められていることなど、他の2つの年齢児の保育の担当者とは資質において異なる点が見られた。 表2-B-2は、B票の設問1・2・3で主任保育 士・主幹保育教諭が自分の段階として選んだ段階の 割合(%)を示したものである。C票の設問1とB 票の設問1、D票の設問1とB票の設問2、E票の 設問1とB票の設問3は全く同じ資質と段階なので、 上半分と下半分を比較することで、各年齢の保育担 当者と主任保育士・主幹保育教諭を比較することが 可能である。上半分と同様に、各資質で最も割合が 高かった段階の数値のフォントを変えた。また2番 目に割合が高かった段階の数値を太字のイタリック 体にした。

0歳児の保育担当者の資質に関して、最も割合が 高かった段階は、指導計画等の作成を除くといずれ の資質も段階3、指導計画等の作成では段階4であ った。主任保育士・主幹保育教諭になると、指導計 画等の作成にかかる資質が高まると言える。2番目 に割合が高かった段階は、指導計画の作成を除いて、 すべての資質で段階4であった。主任保育士・主幹 保育教諭になると、0歳児における特別配慮児への 支援に関して、資質が大きく高まると考えられる。

1・2歳児の保育担当者の資質に関して、最も割

合が高かった段階は、児の発達等の理解と指導計画等の作成が段階4、他の3つの資質は段階3であった。0歳児の保育担当者の資質と比べると、児の発達等の理解で違いがあった。主任保育士・主幹保育教諭にとって0歳児の発達等の理解は、1・2歳児の発達等の理解より難しいのかも知れない。

3歳以上児の保育担当者の資質に関して、最も割合が高かった段階は、保育の実践を除くと、いずれの資質も段階4であった。特別な配慮を要する児への支援と評価・改善の実施は、他の2つの年齢の保育担当者の資質よりも、主任保育士・主幹保育教諭は高めやすいのかも知れない。

表 2-B-1 と表 2-B-2 を比較して、主任保育 士・主幹保育教諭でもう1つ特徴的なことは、段階 5がいずれも10%以上であったことである。段階 5 は取り組みをリードしたり、他の職員に適切な支 援・助言をしたり、全体的な計画を改善するなど、 園全体の保育の質の向上に大きく関与する段階であ る。主任保育士・主幹保育教諭はこれが求められる のであろう。

表2-B-1 「保育」に関する資質で各年齢の保育担当者が答えた自身の段階の割合(%)

	1														
		O歳児	の保育技	旦当者			1 • 2 歳	見の保育	育担当者			3歳以」	上児の保証	育担当者	
	段階1	段階2	段階3	段階4	段階5	段階1	段階2	段階3	段階4	段階5	段階1	段階2	段階3	段階4	段階5
児の発達等の理解	2. 7	9. 0	47.0	38. 3	3. 0	3. 0	7. 9	50.8	36. 5	1. 5	2. 8	8. 9	54.7	30. 9	1.8
クラス運営											2. 8	10. 6	55.4	27. 6	2. 5
指導計画等の作成	5. 4	15. 9	54.2	22. 8	1.8	4. 1	20. 6	49.0	24. 1	1. 5	5. 1	19. 7	55.4	16. 7	1.5
保育の実践	3. 9	10.8	64.4	18. 6	2. 1	5. 3	17. 0	53.3	22. 6	1. 3	2. 0	18. 2	58.7	18. 2	1. 3
特別配慮児への支援	28. 4	18. 6	34.7	14. 7	1.8	23. 4	19. 3	37.3	16. 8	2. 3	12. 7	18. 7	39.0	25. 1	2. 5
評価・改善の実施	5. 7	15. 9	50.6	22. 8	5. 1	5. 1	15. 2	55.8	20. 6	2. 5	3. 5	19. 7	56.7	15. 9	2. 3

無回答者があったため、5つの段階の合計が100%にならないことがある。

表2-B-2 「保育」に関する資質で主任保育士・主幹保育教諭が答えた自身の段階の割合(%)

		O歳児	の保育技	旦当者			1・2点	現の保育	育担当者			3 歳以上	児の保証	9担当者	
	段階1	段階2	段階3	段階4	段階5	段階1	段階2	段階3	段階4	段階5	段階1	段階2	段階3	段階4	段階5
児の発達等の理解	4. 7	15. 6	46.2	24. 5	6. 6	1.4	4. 2	25. 5	48.6	18. 4	0. 9	4. 7	23. 6	48.6	18. 9
クラス運営											1. 4	4. 2	26. 4	49.1	14. 6
指導計画等の作成	5. 2	8. 5	31. 1	44.3	9. 4	3. 8	10. 4	32. 5	42.9	8. 5	2. 8	8. 5	34. 9	40.1	10.4
保育の実践	3. 8	7. 5	46.2	28. 3	11. 8	3. 3	8. 5	42.9	31. 1	11.3	1. 4	7. 5	46.2	28. 8	12. 3
特別配慮児への支援	5. 2	11.8	36.8	32. 5	12. 3	8. 0	8. 0	36.3	30. 7	14. 2	4. 7	6. 6	35. 4	35.8	13. 7
評価・改善の実施	4. 2	11.8	39.2	35. 4	8. 0	5. 7	9. 9	40.6	32. 5	9. 4	3. 3	10.8	34. 9	36.3	11.3

無回答者があったため、5つの段階の合計が100%にならないことがある。

(2)「健康及び安全」と「子育て支援」に関する資質表2-B-3は、「健康及び安全」と「子育て支援」に関する資質で各回答者が自身の段階として選んだ段階の割合(%)を示したものである。表2-B-1や表2-B-2と同様に、各資質で最も割合が高かった段階の数値のフォントを変えた。また2番目に割合が高かった段階の数値を太字のイタリック体にした。

0歳児の保育担当者で最も割合が高かった段階は、 災害への備えが段階2、他はいずれの資質でも段階 3であった。2番目に割合が高かった段階は、健康 支援と地域における子育て支援では段階2、食育の 推進、環境・衛生管理・安全管理及び保護者への子 育て支援では段階4、災害への備えでは段階3であった。

1・2歳児の保育担当者と3歳以上児の保育担当者で最も割合が高かった段階と2番目に割合が高かった段階は、0歳児の保育担当者と全く同じであった。

主任保育士・主幹保育教諭で最も割合が高かった 段階は、健康・衛生管理・安全管理と保護者への子 育て支援では段階4、他の資質では段階3であった。 2番目に割合が高かった段階は、健康支援、食育の 推進、災害への備え、地域における子育て支援では 段階4、他の資質では段階3であった。主任保育 士・主幹保育教諭では、段階3と段階4を合わせる と、いずれの資質でも70%を超えていた。

2. 各段階の回答者の平均勤務年数

(1) 保育に関する資質

表2-B-4は、C票(0歳児の保育担当者用)、D票(1・2歳児の保育担当者用)、E票(3歳以上児の保育担当者用)の設問1で、各段階を選んだ回答者の保育所等での勤務経験年数の平均値(以下、平均勤務年数)を示したものである。表2-B-1に示したように、例えば0歳児の保育担当者で段階1を選んだ者は2.7%(9人)しかいなかった。このように人数が少ない場合、平均値を算出することが不適切なことがある。そこで10人を基準として、人数が10名以下の段階の数値には下線を引いた。

0歳児の保育担当者では、4つの資質において段階5は10名以下であった。各資質の平均値を段階をおってみていくと、いずれの資質でも段階1から段階5にかけて、段階が上がるにつれて平均勤務年数が長くなっていた。

1・2歳児の保育担当者では、すべての資質において段階5は10人以下であった。各資質の平均値を段階をおってみていくと、指導計画等の作成、保育の実践、特別な配慮を要する児への支援の資質では段階1から段階5にかけて、段階が上がるにつれて

表2-B-3 「健康及び安全」と「子育て支援」に関する資質で各年齢の保育担当者が答えた自身の段階の割合(%)

		O歳児	の保育	担当者	Í	1	• 2歳	児の保	育担当	者	3 j	歳以上	児の保	育担当	者	主任	保育士	・主	幹保育	教諭
	段階1	段階2	段階3	段階4	段階5	段階1	段階2	段階3	段階4	段階5	段階1	段階2	段階3	段階4	段階5	段階1	段階2	段階3	段階4	段階5
健康支援	1, 5	27. 8	54.8	12. 9	2. 4	2. 3	31. 7	50.5	12. 9	1.8	2. 8	29. 1	49.9	15. 9	1. 3	0. 5	8. 0	47.2	34. 0	8. 0
食育の推進	7. 8	12. 9	59.0	16.8	3. 0	4. 1	16. 5	53.6	20. 8	3. 0	3.8	15. 4	60.5	16. 7	2. 3	2. 4	6. 1	42.9	35. 8	10. 4
環境・衛生管理・安全管理	4. 5	15. 9	57.5	16.8	3. 9	5. 3	16. 2	53.6	22. 3	1. 8	4. 3	14. 4	56.2	22. 3	1. 5	1. 4	5. 7	29. 7	44.3	16.0
災害への備え	2. 4	50.0	30. 5	13. 5	3. 0	2. 5	45.9	33. 8	14. 2	2. 5	3. 0	43.0	35. 4	15. 4	2. 0	0. 5	12. 3	39.6	37. 7	7. 1
保護者への子育て支援	3. 9	18. 3	41.0	30. 5	5. 4	2. 0	17. 3	36.3	36. 0	7. 1	3. 0	14. 2	36.7	37. 2	7. 6	0. 9	3.8	21. 7	50.0	20.8
地域における子育て支援	23. 7	30. 8	37.4	6. 0	0. 9	23. 1	28. 4	35.3	10. 9	0.8	18. 5	33. 2	36.7	9. 6	0. 5	4. 7	15. 6	46.2	24. 5	6. 6

無回答者があったため、5つの段階の合計が100%にならないことがある。

表2-B-4 「保育」に関する資質で各段階であると回答した者の保育所等での平均勤務年数

		O歳児	の保育技	旦当者			1・2点	見の保育	育担当者			3 歳以上	児の保育	育担当者	
	段階1	段階2	段階3	段階4	段階5	段階1	段階2	段階3	段階4	段階5	段階1	段階2	段階3	段階4	段階5
児の発達等の理解	<u>2. 4</u>	6.8	10. 7	13. 5	<u>17. 7</u>	8. 8	4. 5	9. 8	13. 1	<u>19. 5</u>	7. 6	7. 9	10.6	13. 6	<u>22. 4</u>
クラス運営											4. 5	8. 6	10.7	14. 2	<u>15. 3</u>
指導計画等の作成	4. 3	8. 0	11. 7	14. 5	<u>15. 5</u>	5. 7	7. 1	11. 2	13. 3	<u>17. 2</u>	7. 2	8. 3	12. 1	13. 8	<u>13. 7</u>
保育の実践	5. 1	8. 5	11. 6	13. 7	<u>15. 9</u>	5. 8	7. 3	10. 9	13. 3	<u>22. 2</u>	10. 0	7. 8	11.6	14. 5	<u>13. 2</u>
特別配慮児への支援	8. 0	10. 4	12. 9	14. 3	<u>20. 2</u>	7. 8	9. 1	12. 2	13. 0	<u>16. 1</u>	8. 4	8. 9	12. 4	12. 5	<u>15. 7</u>
評価・改善の実施	7. 2	7. 4	12. 4	12. 5	14. 4	7. 4	7. 0	11.0	12. 0	<u>22. 5</u>	6. 0	8. 9	11. 9	13. 1	17. 4

無回答者があったため、5つの段階の合計が100%にならないことがある。

平均勤務年数が長くなっていた。評価・改善の実施では段階1から段階2にかけてわずかに、児の発達等の理解では段階1から段階2にかけて大きく平均勤務年数が短くなっていたが、その後の段階2から段階5にかけては平均勤務年数が長くなっていた。

3歳以上児の保育担当者では、5つの資質において段階5は10人以下であった。また保育の実践では段階1でも10人以下であった。各資質の平均値を段階をおってみていくと、保育の実践の資質を除き、段階1から段階5にかけて、段階が上がるにつれて平均勤務年数が長くなっていた。保育の実践では段階1から段階2にかけて平均勤務年数が短くなっていたが、この資質の段階1の人数は少なかった。

B票、C票、D票は、各園で当該年齢を担当する保育者のうち、主担当を含めて2名が回答することになっていた。主担当以外の者の選び方は各園に一任していた。そのため、その1名にどの程度の資質や経験年数の者が選ばれたのかは不明である。ある程度ランダムに選ばれていたと仮定するならば、経験年数が高くなるにつれて資質も高くなると言えるであろう。

表2-B-5は、E票の設問1・2・3で各段階を選んだ主任保育士・主幹保育教諭の保育所等での平均勤務年数を示したものである。表2-B-4と同様に人数が10名以下の段階の数値には下線を引いた。

0歳児の保育担当者の資質に関しては、4つの資

質で段階 1 が10人以下であった。各資質の平均値を 段階をおってみていくと、指導計画等の作成と保育 の実践は段階 1 から段階 4 にかけて平均勤務年数が 上がっていたが、段階 4 と段階 5 はそれほど大きな 違いはなく、むしろ下がっていた。児の発達の理解、 特別配慮児への支援、評価・改善の実施については 段階 2 から段階 3 にかけて平均勤務年数が下がり、 U字型の発達を示していた。

1・2歳児の保育担当者の資質ではすべての資質で段階1が10人以下であった。各資質の平均値を段階をおってみていくと、すべての資質で段階が高くなるにつれて平均値が上がっていた。

3歳以上児の保育担当者の資質では5つの資質で 段階1が10人以下であった。また児の発達の理解と クラス運営では段階2も10人以下であった。各資質 の平均値を段階をおってみていくと、段階があがる につれて平均勤務年数があがるという関係は、いず れの資質でも見られなかった。

表2-B-4と表2-B-5を比較すると、表2-B-5では全体的に数値が高いこと、平均値の変化がそれほど大きくないことがわかる。主任保育士・主幹保育教諭になるにはそれなりの勤務年数が必要と言える。

(2)「健康及び安全」と「子育て支援」に関する資質表2-B-6は、「健康及び安全」と「子育て支援」

# 2 D E	[/口去	1-10日オス次好スタの吹スセストロダー	た主任保育士・主幹保育教諭の保育所等での平均勤務年数
オマノードーう	117	に関りる目目(冷段階(あると凹合し	儿子十件法百一。十年法百效副以法百以寺(70)平均割除年数

		O歳児	の保育技	旦当者			1・2点	見の保育	育担当者			3歳以」	児の保育	育担当者	
	段階1	段階2	段階3	段階4	段階5	段階1	段階2	段階3	段階4	段階5	段階1	段階2	段階3	段階4	段階5
児の発達等の理解	<u>21. 0</u>	18. 3	16. 6	21. 3	20. 2	<u>12. 0</u>	<u>17. 0</u>	17. 4	20. 2	22. 9	<u>13. 0</u>	<u>19. 7</u>	17. 7	20. 3	20. 8
クラス運営											<u>13. 0</u>	<u>22. 2</u>	18. 6	19. 6	21. 2
指導計画等の作成	13. 3	17. 9	18. 8	21. 1	20. 2	<u>16. 1</u>	17. 6	18. 5	21. 0	21. 6	18. 8	17. 1	19. 6	20. 7	17. 8
保育の実践	<u>16. 0</u>	17. 8	19. 3	21. 1	19. 3	<u>15. 2</u>	15. 7	19. 6	20. 6	22. 5	<u>23. 0</u>	18.8	19. 3	20. 1	20. 5
特別配慮児への支援	<u>15. 9</u>	20. 9	19. 2	19. 1	22. 5	<u>17. 8</u>	18. 6	18. 9	20. 8	21. 3	<u>18. 1</u>	19. 6	18. 8	20. 0	21. 4
評価・改善の実施	<u>19. 5</u>	19. 6	18. 6	20. 5	20. 6	<u>16. 6</u>	17. 9	19.8	20. 2	21. 4	<u>18. 8</u>	19.3	19. 7	19. 4	20. 8

下線は人数が10名以下と少ないことに留意が必要

表2-B-6 「健康及び安全」と「子育て支援」に関する資質で各段階であると回答した者の保育所等での平均勤務年数

		O歳児	 の保育	担当者	Í	1	• 2歳	 児の保		者	3 ;	 歳以上	 児の保	育担当	i者	主日	 E保育士	・主草	全保育	教諭
	段階1	段階2	段階3	段階4	段階5	段階1	段階2	段階3	段階4	段階5	段階1	段階2	段階3	段階4	段階5	段階1	段階2	段階3	段階4	段階5
健康支援	<u>4. 2</u>	9. 2	12. 5	11. 7	<u>17. 3</u>	<u>5. 4</u>	8. 6	11.6	13. 2	<u>13. 1</u>	5. 7	10. 0	12. 4	11.9	<u>11. 0</u>	<u>21. 0</u>	19. 4	19. 3	20. 5	18. 5
食育の推進	11. 0	7. 1	11.7	13. 2	<u>15. 8</u>	7. 2	8. 4	10. 9	11.1	<u>17. 3</u>	6. 6	8. 5	11. 9	12. 3	<u>16. 6</u>	<u>14. 0</u>	19.8	18. 4	21.0	21. 1
環境・衛生管理・安全管理	6. 9	9. 1	11.9	12. 8	<u>13. 8</u>	6. 9	7.7	11.1	12. 2	<u>18. 6</u>	8. 4	7. 8	11.8	13. 2	<u>15. 3</u>	<u>14. 7</u>	24. 4	19. 2	18. 0	23. 5
災害への備え	<u>7. 4</u>	11. 1	11.6	12. 6	<u>14. 7</u>	7. 3	9. 5	11.7	12. 2	<u>14. 2</u>	5. 3	11. 1	11. 4	12. 7	<u>17. 3</u>	<u>21. 0</u>	20. 1	19. 5	18. 7	24. 7
保護者への子育て支援	4. 3	9. 6	11.3	13. 6	13. 3	5. 9	6. 5	10. 6	12. 0	<u>16. 0</u>	5. 3	7. 1	11.8	12. 7	14. 3	<u>15. 0</u>	<u>21. 4</u>	18. 5	20. 0	20. 0
地域における子育て支援	9. 7	11.0	12. 6	13. 8	11.3	8. 7	10.0	11.6	13. 4	15. 3	9.4	10. 9	12. 4	12. 3	<u>18. 0</u>	<u>21. 1</u>	18. 3	19. 2	20. 6	21.7

下線は人数が10名以下と少ないことに留意が必要

に関する資質で各段階の回答者の保育所等での平均 勤務年数を示したものである。表2-B-4や表2-B-5と同様に、人数が10名以下の段階の数値には 下線を引いた。

0歳児の保育担当者ではすべての資質で段階5は 人数が10名以下であった。また健康支援と災害への 備えも段階1は10名以下であった。各資質の平均値 を段階をおってみていくと、環境・衛生管理・安全 管理と災害への備えでは段階1から段階5にかけて 段階が上がるにつれて平均勤務年数が長くなってい た。保護者への子育て支援と地域における子育て支 援は、段階1から段階4にかけて段階が上がるにつ れて平均勤務年数が長くなっていたが、段階4から 段階5にかけては短くなっていた。健康支援では段 階1から段階3にかけて段階が上がるにつれて平均 勤務年数が長くなっていたが、段階4で短くなり、 再び長くなっていた。食育の推進では段階1から段 階2にかけて平均勤務年数が短くなっていたが、段 階2から段階5にかけては段階が上がるにつれて平 均勤務年数が長くなっていた。

1・2歳児の保育担当者では、5つの資質で段階 5は10名以下であった。健康支援では段階 1 も10名 以下であった。各資質の平均値を段階をおってみて いくと、健康支援を除くすべての資質で、段階が上 がるにつれて平均勤務年数が長くなっていた。健康 支援では段階 4 から段階 5 にかけてほぼ横ばいであ った。

3歳以上児の保育担当者では5つの資質で段階5は10名以下であった。地域における子育て支援では段階1も10名以下であった。各資質の平均値を段階をおってみていくと、食育の推進、環境・衛生管理・安全管理、災害への備え、保護者への子育で支援では段階が上がるにつれて平均勤務年数が長くなっていた。健康支援では段階4から段階5にかけて、地域における子育で支援では段階3から段階4にかけ

てほぼ横ばいであった。

主任保育士・主幹保育教諭ではすべての資質で段階1は10名以下であった。保護者への子育て支援では段階2も10名以下であった。各資質の平均値を段階をおってみていくと、段階が上がるにつれて平均勤務年数が長くなる資質はなかった。

3. 各研修が有効であったと答えた回答者の割合

(1) 保育に関する資質

表2-B-7は、C票(0歳児の保育担当者用)、D票(1・2歳児の保育担当者用)、E票(3歳以上児の保育担当者用)の各設問1で、「あなたは、資質が今の段階に達するまでに、どのような研修・研鑽の経験が有効でしたか。有効であったと思う研修・研鑽に○をつけて下さい(複数回答可)」と尋ねた結果、○がついた割合(%)を示したものである。「今のあなたの段階」に対して無回答であった回答者は、分析から外した。

いずれの年齢児の保育担当者でも、いずれの資質でも、最も割合が高かったのは、園外研修であり、次いで園内研修、e-learning、公開保育の順であった。公開保育は、特に近年はコロナなどで、開催されている回数が少ない可能性もあるので、一概に効果がないとは言えない。e-learningもここ1~2年にコンテンツが開発されたので普及まではしていない。そこでこれも、一概に効果がないとは言えないであろう。

そこで研修ごとに資質間の比較をしてみた。各研修で最も割合が高かった資質の数値のフォントを変えた。また2番目に割合が高かった段階の数値を太字のイタリック体にした。さらに3番目に割合が高かった段階の数値にアンダーラインを引いた。

園外研修に関して0歳児の保育担当者では、児の 発達等の理解、特別配慮児への支援、保育の実践の 順に割合が高かった。1・2歳児の保育担当者では

1X	2 0 /	'		つ 只 只 い		0.H XII C	0)) [(7./	110111V	ע) דונים,	0)	
		O歳児の係	保育担当者		1	• 2歳児の	D保育担当	者	3	歳以上児の	の保育担当	者
	園外研修	園内研修	公開保育	e-learning	園外研修	園内研修	公開保育	e-learning	園外研修	園内研修	公開保育	e-learning
児の発達等の理解	56.2	34.8	14. 2	22.7	58.6	44.4	12. 2	18. 1	59. 6	46.0	14. 1	24.0
クラス運営									<u>53. 2</u>	39. 6	<u>12. 5</u>	<u>17. 6</u>
指導計画等の作成	42. 1	30. 3	<u>6. 4</u>	13. 9	41. 2	38. 0	5. 4	12. 3	46. 4	35. 0	5. 1	14. 4
保育の実践	47. 6	31. 8	15.2	<u>18. 5</u>	<u>50. 9</u>	<u>35. 1</u>	15.3	<u>16. 1</u>	<u>53. 2</u>	<u>37. 9</u>	17.2	17. 2
特別配慮児への支援	<u>46. 3</u>	23. 7	5. 8	13. 8	<i>55. 1</i>	30. 9	<u>5. 9</u>	18.7	64.4	34. 6	4. 9	22. 0
評価・改善の実施	44. 8	<u>31. 2</u>	6. 1	17. 3	42. 5	32. 1	5. 4.	13. 3	44. 1	33. 8	5. 4	15. 9

表2-B-7 「保育」に関する資質で各研修が有効であったと答えた回答者の割合(%)

資質に対して無回答であった回答者は、分析から除いた。

児の発達等の理解、特別配慮児への支援、保育の実践の順であった。3歳以上児の保育担当者では特別配慮児への支援、児の発達等の理解、クラス運営・保育の実践の順であった。これらのことから園外研修は、児の発達等の理解、特別配慮児への支援、保育の実践にかかる資質に効果的であると考えられる。

園内研修に関して 0 歳児の保育担当者では、児の発達等の理解、保育の実践、評価・改善の実施の順に割合が高かった。 1・2歳児の保育担当者では、児の発達等の理解、指導計画等の作成、保育の実践の順に割合が高かった。 3歳以上児の保育担当者では、児の発達等の理解、クラス運営、保育の実践の順に割合が高かった。これらのことから園内研修は児の発達等の理解と保育の実践に効果的であると考えられる。

公開保育に関して 0 歳児の保育担当者では、保育の実践、児の発達等の理解、指導計画等の作成の順に割合が高かった。 1・2 歳児の保育担当者では、保育の実践、児の発達等の理解、特別配慮児への支援の順に割合が高かった。 3 歳以上児の保育担当者では、保育実践、児の発達等の理解、クラス運営の順に割合が高かった。これらのことから公開保育は保育の実践と児の発達等の理解に効果的であると考えられる。

e-learningに関して 0 歳児の保育担当者では、児の発達等の理解、特別配慮児への支援、評価・改善の実施の順に割合が高かった。 1・2歳児の保育担当者では、特別配慮児への支援、児の発達等の理解、保育の実践の順に割合が高かった。 3歳以上児の保育担当者では、特別配慮児への支援、児の発達等の理解、クラス運営の順に割合が高かった。これらのことからe-learningは特別配慮児への支援と児の発達等の理解に効果的であると考えられる。

表2-B-8は、E票の設問1・2・3で主任保育 士・主幹保育教諭が有効であった研修・研鑽として ○をつけた割合(%)を示したものである。研修ごとに資質間の比較をするために、各研修で最も割合が高かった資質の数値のフォントを変えた。また2番目に割合が高かった段階の数値を太字のイタリック体にした。さらに3番目に割合が高かった段階の数値にアンダーラインを引いた。

園外研修に関して 0 歳児の保育担当者の資質では、 児の発達等の理解、特別配慮児への支援、保育の実 践の順に割合が高かった。 1・2歳児の保育担当者 の資質では特別配慮児への支援、児の発達等の理解、 保育の実践の順に割合が高かった。 3歳以上児の保 育担当者の資質では児の発達等の理解、特別配慮児 への支援、クラス運営の順に割合が高かった。これ らのことから園外研修は、児の発達等の理解と特別 配慮児への支援に効果的であると考えられる。

園内研修に関して 0 歳児の保育担当者の資質では、 児の発達等の理解、指導計画等の作成、保育の実践 の順に割合が高かった。 1・2歳児の保育担当者の 資質では、児の発達等の理解、保育の実践、指導計 画等の作成の順に割合が高かった。 3歳以上児の保 育担当者の資質では児の発達等の理解、特別配慮児 への支援、クラス運営の順に割合が高かった。これ らのことから園内研修は、児の発達等の理解に効果 的であると考えられる。

公開保育に関して0歳児の保育担当者と1・2歳 児の保育担当者の資質では、保育の実践、児の発達 等の理解、特別配慮児への支援の順に割合が高かっ た。3歳以上児の保育担当者の資質では保育の実践、 児の発達等の理解、クラス運営の順に割合が高かっ た。これらのことから公開保育は、保育の実践と児 の発達等の理解に効果的であると考えられる。

e-learningに関して 0 歳児の保育担当者の資質では、児の発達等の理解、特別配慮児への支援、評価・改善の実施の順に割合が高かった。 1・2 歳児の保育担当者の資質では、特別配慮児への支援、児

表2-B-8 「保育」に関する資質で各研修が有効であったと答えた主任保育士・主幹保育教諭の割合(%)
--

	O 歳児の保育担当者 1・2歳児の保					0保育担当	者	3歳以上児の保育担当者									
	園外研修	園内研修	公開保育	e-learning	園外研修	園内研修	公開保育	e-learning	園外研修	園内研修	公開保育	e-learning					
児の発達等の理解	77.6	41.1	16. 8	22.1	68. 4	40.6	14. 6	19. 3	69.3	48.5	25. 2	22.4					
クラス運営									<u>64. 5</u>	<u>41. 2</u>	<u>20. 5</u>	15. 8					
指導計画等の作成	58. 9	38. 1	5. 7	16. 7	58. 7	<u>34. 9</u>	5. 8	15. 8	59. 2	34. 5	9. 3	13. 7					
保育の実践	<u>66. 3</u>	<u>37. 5</u>	19.2	16. 9	<u>60. 9</u>	35. 6	17.9	15. 9	63. 2	39. 0	25.9	<u>16. 7</u>					
特別配慮児への支援	68. 4	35. 9	<u>11. 0</u>	19. 6	70.4	33. 3	<u>8. 2</u>	19.4	68. 8	42. 9	11. 2	19. 6					
評価・改善の実施	60. 0	30. 1	8. 1	<u>17. 1</u>	55. 8	31. 1	7. 7	<u>16. 3</u>	58. 5	35. 0	8. 8	16. 5					

の発達等の理解、評価・改善の実施の順に割合が高かった。3歳以上児の保育担当者の資質では、児の発達等の理解、特別配慮児への支援、保育の実践の順に割合が高かった。これらのことからe-learningは、児の発達等の理解と特別配慮児への支援に効果的であると考えられる。

(2)「健康及び安全」と「子育て支援」に関する資質表2-B-9は「健康及び安全」と「子育て支援」に関する資質で各研修が有効であったと答えた回答者の割合(%)を示したものである。表2-B-7や表2-B-8と同様に、各研修で最も割合が高かった資質の数値のフォントを変えた。また2番目に割合が高かった段階の数値を太字のイタリック体にした。さらに3番目に割合が高かった段階の数値にアンダーラインを引いた。

園外研修は、保護者への子育で支援、食育の推進、環境・衛生管理・安全管理に効果的であると考えられる。園内研修は、災害への備えと食育の推進に効果的であると考えられる。公開保育は、環境・衛生管理・安全管理と食育の推進に効果的であると考えられる。e-learningに関しては、保護者への子育て支援に効果的であると考えられる。

研究3 ヒアリング調査

目的

各都道府県教育委員会が作成した「教員の資質向上の指標」について、その作成経緯等をヒアリングで調べることによって、「保育者の育成指標」の策定に資する資料を得ることを目的とした。

方法

協力自治体:奈良県教育委員会、大阪市教育委員会、大阪府教育委員会、兵庫県教育委員会の4つの教育委員会に協力を依頼した。

質問内容:質問内容は次の6つとした。①作成した組織(協議会)と構成員。②作成時に工夫した点。 ③就学前教育への対応。④教員の資質の連続性。⑤ 「資質」に対応した研修の開催状況。⑥教職を担う にあたり必要となる「素養」に関する研修の内容。

手続き:調査は令和4年11月21日と12月5日に電話で実施した。共同研究者が教育委員会に電話をかけて、作成をした際の担当責任者より聴き取りをした。

結果と考察

各委員会の回答をまとめたものを表3-1に示す。 縦に同じ委員会の回答が並んでいる。ヒアリングを 行ったすべての自治体で、作成に当たり他府県等で 作成された内容をインターネットで確認し、参考に しながら作成したと言及した。

①作成した組織(協議会)と構成員

表3-1の最上段に作成した組織(協議会)と構成員を示す。いずれの委員会も、原案は教育委員会の事務局が作成し、それを協議会等で審議・修正した上で、教育委員会が決定していた。構成員には、大学教員と学校・園の関係者、教育委員会の関係部署職員等が含まれていた。

②作成時に工夫した点

表3-1の上から2段目に、作成時に工夫した点として回答された内容を示す。教員養成との整合性、これから求められること、自己評価、職種による違いが強調されていた。

③就学前教育への対応

表3-1の上から3段目は、就学前教育への対応に対する回答をまとめたものである。公私を問わずすべての幼児教育施設に配布しているところもあれば、公立幼稚園だけのところ、作成すらしていないところもあった。自治体による違いが大きいと考えられる。

表2-B-9 「健康及び安全」と「子育て支援」に関する資質で各研修が有効であったと答えた回答者の割合(%)

	O歳児の保育担当者					1・2歳児の保育担当者				以上児0	D保育担	当者	主任保育士・主幹保育教諭							
	園外 研修	園内 研修	公開 保育	e- learning																
健康支援	34. 2	23. 9	<u>2. 7</u>	12. 1	36. 1	31. 1	2. 3	<u>9. 2</u>	37. 9	32. 5	0. 3	11.8	<u>54. 1</u>	30.8	1. 9	9. 7				
食育の推進	38. 6	<u>26. 1</u>	4. 0	12. 8	43. 0	<u>32. 9</u>	3. 6	11.9	42. 6	<u>36. 7</u>	<u>0. 5</u>	10.5	<i>56. 5</i>	36.5	<u>3. 9</u>	12. 6				
環境・衛生管理・安全管理	<u>36. 3</u>	30. 5	6.1	<u>12. 2</u>	<u>36. 8</u>	37. 8	4.9	11.0	<u>39. 5</u>	37. 9	3.8	11.8	56. 5	32. 5	6.8	14.0				
災害への備え	23. 1	35.6	1.5	7. 6	27. 4	40.7	1.8	5. 6	28. 6	42.5	<u>0. 5</u>	6. 9	51.4	34. 9	2. 9	13. 1				
保護者への子育て支援	48.0	24. 7	1.8	15.9	48.2	32. 2	1.5	19.7	51.9	34. 3	0.8	21.2	65.1	<u>34. 1</u>	2. 4	19.8				
地域における子育て支援	30. 9	20.0	1.8	10. 3	31. 7	21.6	<u>2. 6</u>	8. 5	33. 3	24. 4	0.8	<u>12. 3</u>	50. 7	24. 9	4. 8	<u>13. 5</u>				

④教員の資質の連続性

表3-1の上から4段目は、教員の資質の連続性に対する回答をまとめたものである。小中や小中高の連続性を意識している委員会もあれば、幼小や保、幼、小の連続性を意識している委員会もあり、この点でも自治体による違いが大きいと考えられる。

⑤「資質」に対応した研修の開催状況

表3-1の上から5段目は、研修に対する回答を

まとめたものである。研修を資質を1対1の形で対応させてはいないようであった。

⑥教職を担うにあたり必要となる「素養」に関する 研修の内容

表3-1の上から6段目は、「素養」に対する回答をまとめたものである。素養を磨く研修は主として初任者研修で、あとはそれぞれの研修を受ける中で素養が磨かれていくとの回答であった。

表3-1 各委員会の回答のまとめ

	A教育委員会	B教育委員会	C教育委員会	D教育委員会
一の作成した	原案を教育委員会事務局担 当部署で作成し、協議会を 立ち上げて審議・修正、そ れを教育委員会に提出して 決定した。	原案を教育委員会事務局担 当部署で作成し、協議会を 立ち上げ審議・修正し、そ れを教育委員会に提出して 決定した。	原案を教育委員会事務局担 当部署で資質等検討委員会 を立ち上げ作成し、協議会 で審議、修正し、教育委員 会に提出し決定した。	原案を教育委員会事務局で 作成し、協議会で修正、さ らに教育委員会で審議して 承認した。
構成員・成した組織と	自治体に関係する大学教員、 教育長、教職員組合関係者、 教職員代表者、自治体の関 係部署職員、保護者等	自治体に関係する大学の教 員、教育庁、公聴会代表、 小中教員代表	大学教員、関係部署職員等	大学等関係者、学校園関係 者、教育委員会
工夫した点 に	教員養成大学と連携して作成、教育実習に来る学生の 大学に対して、事前指導と して「大学で学習してほし い内容」養成段階での内容 を伝え、採用時までの研修 に力を入れている。	特別支援教育、人権教育に 力を入れている。ICT教育 課題の見直しを行っている。	様式を1枚にまとめ、レベルに応じて自己評価しやすいように工夫した。	校長、教員、栄養教諭、養護教諭、事務職員用として、職種ごとのものを作成した。
③就学前教育	就学前教育の部分は作成していない。(管轄が違うから)	小、中、高と、教員養成大学に配布し、幼稚園には配 布していない。	幼稚園、保育園、こども園、 公私を問わず全てに配布し た。	「公立保育園には参考に」 ということで配布したがそ れ以外は管轄が違うため配 布していない。
の連続性	小中の連続性を意識して内容等を考え作成した。	幼稚園から小学校の接続を 意識して作成した。	小、中、高の連続性を意識 して作成した。	保、幼、小の接続に関する 研修を行っていて、それで 補う形にしている。
一 「資質」に対応した	各研修が「資質」に対応し た研修とも言える。	「資質」に関する研修としては開いていないが、年次研修、キャリアプラン研修で「自己を見つめなおす」機会になっている。	センター実施研修がそれにつながる。	特に取り上げて研修していないが、それぞれの研修を受けることで資質が高まると考えている。
「素養」に関する研修の内容の教職を担うにあたり必要となる	研修を受け、自らその内容を実践することで「素養」が高まると考えている。	「服務規律」「現場研修の指導」が「素養」に関する研修となっている。	資質の意対応した内容がそれにあたる。	初任者研修で、教員として の基本的なことを職種ごと に行い、一般研修にも同じ ことを組み入れる。また、 一般研修でも基本的なこと を加味して行うようにして いる。

総合考察

本研究の目的は、保育士等の育成指標²を開発し、保育所等が体系的な研修計画を作成するための基礎資料を得ることであった。様々な自治体が公表している幼稚園教員等の育成指標、保育所保育指針等、西村ら(2015)などを参考に育成指標案を作成した。その案の妥当性を質問紙調査とヒアリング調査で検証した。その結果、経験年数が増えるにつれていずれの資質も段階が上がること、いずれの資質も段階を上げるのに研修が有効であることが明らかになり、案がある程度妥当であることが示された。自治体では育成指標の妥当性の検証は実施されていないことも示唆された。

1. 育成指標の活用

本研究で開発した育成指標は次のように活用できる。

(1) 保育者を育成する時の目安

保育者を育成する役割は、園内研修を実施する各保育所等だけでなく、園外研修を実施する日本保育協会のような保育団体や保育者の養成施設、研修の実施団体等もこれに携わる。また保育所等によっては、ピア・カウンセリングやメンターの制度を活用して、いわゆる研修以外で、育成するための策を講じているところもある。育成指標は、育成する役割のものが共通して目安として活用できる。

例えば、表1-3で3歳以上児の指導計画等の作成で段階2の保育者を段階3に進めるためには、園や地域の行事等と関連づけたり、小学校等との接続を考慮したりしながら指導案を作成することが求められる。そこで育成する側としては、園や地域の行事等との関連や小学校との接続を意識するとよいであろう。

(2) 保育者自身が成長する時の目標

育成指標は、保育者が自らのキャリアパスを構築するための目標を提供できる。上記の例では、指導計画等の作成で段階2の保育者であれば、段階3を次の目標として、園や地域の行事等と関連づけたり、小学校等との接続を考慮したりしながら指導案を作成することを意識し、そのための情報を取り入れていくとよいであろう。

(3) 体系的な研修計画をつくる際の基盤

これまでは、様々な研修が行われてきたものの、 その研修が何につながるのか、どの資質をどこから どこまで伸ばすのかが明確ではなかった。育成指標は研修の位置づけを考える際の基盤となる。例えば、令和4年度に日本保育協会はオンラインセミナーとして、保護者支援セミナーを開催している(ライブ配信は8月5日、再配信期間は8月12日から26日)。この研修は、表1-4の「保護者への子育て支援」を念頭に置いたものと想定できるが、受講者の段階は想定していない。今後は、どの資質をどこからどこまで伸ばすのかを検討していくことが求められる。これこそが体系的な研修計画の立案である。

(4) 研修を評価する際の基準。

どの資質をどこからどこまで延ばすのかを想定した研修であれば、その研修は評価が可能である。受講者の資質が実際に伸びたかどうかを判断すればよい。例えば、保育士等キャリアアップ研修は、段階2の間に受講可能になる。受講して段階3になったかどうかが評価の基準になる。段階3に達しない研修については、研修内容や方法、場合によっては研修時期を再検討する必要がある。

2. 育成指標にかかる研究の今後

保育士等の育成指標に関する研究は、今後、次のように発展できる。

(1) 主任保育士・主幹保育教諭、施設長などの管 理職の育成指標の作成

文部科学省の告示は「公立の小学校等の校長及び 教員としての資質の向上に関する指標の策定に関す る指針」であり、各自治体は校長の資質に関する指 標を策定している。保育所保育指針は「初任者から 管理職員までの職位や職務内容等を踏まえた体系的 な研修計画」の作成を義務としている。すなわち、 保育所等でも管理職員の職務内容等を踏まえた育成 指標の作成が求められていると言えよう。

なお、本研究では主任保育士・主幹保育教諭が0歳児、1・2歳児、3歳以上児の保育担当者の資質がどの段階かを調べたが、主任保育士・主幹保育教諭としての資質は調べていない。主任保育士・主幹保育教諭の職務内容を精査し、主任保育士・主幹保育教諭としての育成指標の開発も必要であろう。開発方法は、本研究が参考になる。

(2) 育成指標そのものを評価する方法の開発

本研究で行ったヒアリング調査の結果、自治体が 作成している育成指標の多くは、妥当性の検証が行 われていないことが示唆された。本研究は以下の4 つの点で妥当性の検証の方法を示したことになる。 すなわち、①管理職に職員を評価してもらい、経験 年数が増えるにつれて、資質の段階が上がることを

² 育成指標とは、職員のどのような資質を、初任者から管理職員までどのような段階を 踏んで育てるのかについて、その資質と段階を明示したものである。

示した点。②実際の保育者に様々な指標に沿って自分の段階を評定してもらい、経験年数が増えるにつれて、資質の段階が上がることを示した点。③主任保育士・主幹保育教諭は、各年齢の保育担当者よりも資質の段階が高いことを示した点。④研修が段階を上げるのに有効であることを示した点。この妥当性の検証方法が適当かどうかについては、今後の課題である。

なお、本研究では研修の組み合わせや経験年数と 研修の組合せの相乗効果についての検討はまだでき ていない。これについても今後の課題としたい。

引用文献

千葉武夫・森俊之・西村重稀・碓氷ゆかり・清水益治 (2023) 幼稚園教諭に関する教員育成指標の分析~ 保育所保育士の育成指標の構築を目指して~ 帝塚 山大学教育学部紀要,第4号

西村重稀・溝口元・石川義昭・清水益治・千葉武夫・田中浩二・高橋英治 (2015) 保育士のキャリアパス に関する調査研究報告書,社会福祉法人日本保育協会保育科学研究所

保育所・認定こども園等の研修体系に関する研究調査票

A票 園長用

1. 乳児保育 [乳児期の園児の保育](以下、「乳児保育」)について、お尋ねします。下の表は「乳児保育」の 5つの資質と各資質の 5つの段階を示したものです。貴園の職員で、経験年数がおおむね表中右欄の年数の保育者は、各資質が 5 段階のうちどの段階ですか。経験年数ごとに $1\sim5$ の数字のいずれか 1つに \bigcirc をつけてください。 \bigcirc のの段階が他の年数区分と重なっても構いません。

資質	段階	1年未満	l 分 3 年	3 ~ 5 年	5 ~7 年	7 10 年	10 ~ 15 年	15年以上
乳児	1. 運動機能の著しい発達、情緒的な絆の形成など、乳児の発達について、基礎的知識を習得している。	1	1	1	1	1	1	1
の発達等	2. 乳児の発達に加えて、興味・関心、特性(生命の保持と情緒の安定の下で自己を十分に発揮することにより発 達に必要な体験を得ていくこと)の理解(以下、発達等の理解)のもとに、必要な体験を考えている。	2	2	2	2	2	2	2
即	3. 保護者の願いや思いを受け止め、他の職員と連携を図りながら、一人一人の乳児の発達等を理解し、必要な体験を考えている。	3	3	3	3	3	3	3
解	4. 一人一人の乳児の発達等に応じた保育について、他の職員と共有し、他の職員に適切な支援・助言を行っている。	4	4	4	4	4	4	4
	5. 一人一人の乳児の発達等に応じた保育について、他の職員に適切な支援・助言を行い、園全体の保育の質の向 上のための取り組みをリードしている。	5	5	5	5	5	5	5
指導計画等	1. 指針等に基づき作成される全体的な計画、それに基づく指導計画について、基礎的知識を習得している。	1	l	1	1	1	1	1
画等。	2. 全体的な計画に基づき、乳児の発達等を踏まえ、個別の指導計画を作成し、他の職員と共有している。	2	2	2	2	2	2	2
の作成	3. 全体的な計画に基づき、一人一人の乳児の発達等を踏まえ、1歳以上3歳未満児の保育との接続を考慮して、 個別の指導計画を作成し、他の職員と共有している。	3	3	3	3	3	3	3
	4. 全体的な計画に基づき、一人一人の乳児の発達等を見通し、1歳以上3歳未満児の保育との接続を考慮して、 実践の振り返りに基づいて個別の指導計画を作成するとともに、他の職員に適切な支援・助言を行っている。						4	4
	5. 全体的な計画に基づき、一人一人の乳児の発達等を見通し、1歳以上3歳未満児の保育との接続を考慮して、 園全体の視点から、職員の話し合いの中心となって個別の指導計画の作成をリードしている。	5	5	5	5	5	5	5
画乳に対	1. 乳児に対する環境構成の工夫や教材研究のあり方、その必要性、並びに保育者の関わり方に関する基礎的知識を習得している。	1	1	1	1	1	1	1
基づい達	2. 環境構成の工夫、教材研究を行い、乳児と情緒的な絆が形成されるよう、保育技術の習得及び実践に取り組ん でいる。	2	2	2	2	2	2	2
た 保 育 理	3. 環境構成の工夫、教材研究を行い、一人一人の乳児と情緒的な絆を形成したり、一人一人の乳児の興味や好奇 心を満たしたりできるよう、保育技術の向上に取り組んでいる。	3	3	3	3	3	3	3
いた保育の実践達等の理解や指	4. 他の職員のモデルとなり、環境構成の工夫、教材研究を行い、一人一人の乳児と情緒的な絆を形成したり、一 人一人の乳児の興味や好奇心を満たしたりできるよう、保育技術の向上に取り組んでいる。	4	4	4	4	4	4	4
導計	5. 専門的な保育技術を向上させ、他の職員に適切な支援・助言を行い、職員の中心となって保育の質の向上のための取り組みをリードしている。	5	5	5	5	5	5	5
解特と大別	1. 障害児保育や特別支援教育の目的や意義について理解している。また、障害に関する基礎的知識を習得している。	1	1	1	1	1	1	1
支援を配慮	2. 対象児の状態について把握し、「個別の支援計画」「個別の指導計画」等を作成し、他の職員と共有するとともに、対象児や保護者に対して適切に指導・支援を行っている。	2	2	2	2	2	2	2
を要する	3. 対象児の状態について、生育歴、家庭の状況、これまでの関わりなど、細やかに把握し、「個別の支援計画」「個別の指導計画」等を作成し、他の職員と共有するとともに、対象児や保護者に対して適切に指導・支援を行っている。	3	3	3	3	3	3	3
る乳児へ	4. 関係機関との連携を図り、対象児への理解や関わり方について専門性を高め、他の職員と共有しながら、対象 児や保護者に対して適切に指導・支援を行っている。	4	4	4	4	4	4	4
への理	5. 関係機関と連携しながら、対象児や保護者を支援する体制を構築している。さらに、特別な配慮が必要な乳児やその保護者への対応について、他の職員に適切な支援・助言を行っている。	5	5	5	5	5	5	5
に 乳児の	1. 発達を踏まえた乳児の理解、指導計画に基づいた評価や記録の仕方について、基礎的知識を習得している。	1	1	1	1	1	1	1
づいた評価・改善の実	2. 他の職員の指導・助言のもと、乳児の発達等を含む育ち全体に目を向け、記録をもとに指導計画の改善を行っている。	2	2	2	2	2	2	2
	3. 一人一人の乳児の発達等を含む育ち全体に目を向け、記録をもとに指導計画を多面的に捉え、評価しながら改善を行っている。	3	3	3	3	3	3	3
	4. 一人一人の乳児の発達等を含む育ち全体の理解に基づき、具体的なねらい及び内容等を踏まえて指導を振り返り、課題を明確にしている。さらに、指導計画の評価・改善について、他の職員に適切な支援・助言を行っている。	4	4	4	4	4	4	4
施計画	5. 一人一人の乳児の発達等を含む育ち全体の理解に基づき、具体的なねらい及び内容等を踏まえて指導を振り返り、客観的に分析し課題を明確にしている。さらに、指導計画の評価・改善を全体的な計画の改善につなげている。	5	5	5	5	5	5	5

2. 1歳以上3歳未満児の保育 [満1歳以上満3歳未満の園児の保育] (以下、「未満児の保育」)について、お尋ねします。下の表は「未満児の保育」の5つの資質と各資質の5つの段階を示したものです。貴園の職員で、<u>経験年数</u>がおおむね表中右欄の年数の保育者は、各資質が5段階のうちどの段階ですか。経験年数ごとに $1\sim5$ の数字のいずれか1つに \bigcirc をつけてください。 \bigcirc 印の段階が他の年数区分と重なっても構いません。

資質	段階	1年未満	1 3 年	3 ~ 5 年	5 ~ 7 年	7 5 10 年	10 ~ 15 年	15 年以上
未満	1. 自分でできることが増えてくる、自我が育つなど、未満児の発達について、基礎的知識を習得している。	1	1	1	1	1	1	1
児の発達等	2. 未満児の発達に加えて、興味・関心、特性(生命の保持と情緒の安定の下で自己を十分に発揮することにより 発達に必要な体験を得ていくこと)、よさや可能性の理解(以下、発達等の理解)のもとに、必要な体験を考え ている。	2	2	2	2	2	2	2
の理	3. 保護者の願いや思いを受け止め、他の職員と連携を図りながら、一人一人の未満児の発達等を理解し、必要な体験を考えている。	3	3	3	3	3	3	3
解	4. 一人一人の未満児の発達等に応じた保育について、他の職員と共有し、他の職員に適切な支援・助言を行っている。	4	4	4	4	4	4	4
	5. 一人一人の未満児の発達等に応じた保育について、他の職員に適切な支援・助言を行い、園全体の保育の質の 向上のための取り組みをリードしている。	5	5	5	5	5	5	5
指導計	1. 指針等に基づき作成される全体的な計画、それに基づく指導計画について、基礎的知識を習得している。	1	1	1	1	1	1	1
画等	2. 全体的な計画に基づき、未満児の発達等を踏まえ、個別的な指導計画を作成し、他の職員と共有している。	2	2	2	2	2	2	2
の作成	3.全体的な計画に基づき、一人一人の未満児の発達等を踏まえ、3歳以上児の保育との接続を考慮して、個別的 な指導計画を作成し、他の職員と共有している。	3	3	3	3	3	3	3
	4. 全体的な計画に基づき、一人一人の未満児の発達等を見通し、乳児や3歳以上児の保育との接続を考慮して、 実践の振り返りに基づいて個別的な指導計画を作成するとともに、他の職員に適切な支援・助言を行っている。	4	4	4	4	4	4	4
	5. 全体的な計画に基づき、一人一人の未満児の発達等を見通し、乳児や3歳以上児の保育との接続を考慮して、 園全体の視点から職員の話し合いの中心となって個別的な指導計画の作成をリードしている。	5	5	5	5	5	5	5
計未画満	1. 未満児に対する環境構成の工夫や教材研究のあり方、その必要性について、基礎的知識を習得している。	1	1	1	1	1	1	1
に 基づ 発	2. 環境構成の工夫、教材研究を行い、未満児の自我の育ちを支えるよう、保育技術の習得及び実践に取り組んでいる。	2	2	2	2	2	2	2
いた保	3. 環境構成の工夫、教材研究を行い、一人一人の未満児の自我の育ちを支えたり、興味や好奇心を満たしたりするよう、保育技術の向上に取り組んでいる。	3	3	3	3	3	3	3
で育の実践の理解や指導	4. 他の職員のモデルとなり、環境構成の工夫、教材研究を行い、一人一人の未満児の自我の育ちを支えたり、興味や好奇心を満たしたりするよう、保育技術の向上に取り組んでいる。	4	4	4	4	4	4	4
选 指 導	5. 専門的な保育技術を向上させ、他の職員に適切な支援・助言を行い、職員の中心となって保育の質の向上のための取り組みをリードしている。	5	5	5	5	5	5	5
理特解別	1. 障害児保育や特別支援教育の目的や意義について理解している。また、障害に関する基礎的知識を習得している。	1	1	l	1	l	1	1
と支援	2. 対象児の状態について把握し、「個別の支援計画」「個別の指導計画」等を作成し、他の職員と共有するととも に、対象児や保護者に対して適切に指導・支援を行っている。	2	2	2	2	2	2	2
を要する	3. 対象児の状態について、生育歴、家庭の状況、これまでの関わりなど、細やかに把握し、「個別の支援計画」「個別の指導計画」等を作成し、他の職員と共有するとともに、対象児や保護者に対して適切に指導・支援を行っている。	3	3	3	3	3	3	3
要する未満児	4. 関係機関との連携を図り、対象児への理解や関わり方について専門性を高め、他の職員と共有しながら、対象 児や保護者に対して適切に指導・支援を行っている。	4	4	4	4	4	4	4
グ の	5. 関係機関と連携しながら、対象児や保護者を支援する体制を構築している。さらに、特別な配慮が必要な未満 児やその保護者への対応について、他の職員に適切な支援・助言を行っている。	5	5	5	5	5	5	5
た満塁	1. 発達を踏まえた未満児の理解、指導計画に基づいた評価や記録の仕方について、基礎的知識を習得している。	1	1	1	1	1	1	1
ブいた証	2. 他の職員の指導・助言のもと、未満児の発達等を含む育ち全体に目を向け、記録をもとに指導計画の改善を行っている。	2	2	2	2	2	2	2
た評価・改善の実施・発達等の理解・指導	3. 一人一人の未満児の発達等を含む育ち全体に目を向け、記録をもとに指導計画を多面的に捉え、評価しながら 改善を行っている。	3	3	3	3	3	3	3
	4. 一人一人の未満児の発達等を含む育ち全体の理解に基づき、具体的なねらい及び内容等を踏まえて指導を振り返り、課題を明確にしている。さらに、指導計画の評価・改善について、他の職員に適切な支援・助言を行っている。	4	4	4	4	4	4	4
施導計画	5. 一人一人の未満児の発達等を含む育ち全体の理解に基づき、具体的なねらい及び内容等を踏まえて指導を振り返り、客観的に分析し課題を明確にしている。さらに、指導計画の評価・改善を全体的な計画の改善につなげている。	5	5	5	5	5	5	5

3. 3歳以上児の保育 [満3歳以上の園児の教育及び保育] (以下、「幼児教育・保育」) について、お尋ねします。下の表は「幼児教育・保育」の6つの資質と各資質の5つの段階を示したものです。貴園の職員で、経験年数がおおむね表中右欄の年数の保育者は、各資質が5段階のうちどの段階ですか。経験年数ごとに1~5の数字のいずれか1つに○をつけてください。○印の段階が他の年数区分と重なっても構いません。

資質	段階	1年未満	1 分 3 年	3 ~ 5 年	5 ~ 7 年	7 ~ 10 年	10 ~ 15 年	15年以上
幼児	1. 知的な興味や関心が高まったり、集団的な遊びや協働的な遊びが見られたりするなど、幼児の発達について、 基礎的知識を習得している。	1	1	1	1	1	1	1
の発達等	2. 幼児の発達に加えて、興味・関心、特性(生命の保持と情緒の安定の下で自己を十分に発揮することにより発達に必要な体験を得ていくこと)、よさや可能性、他児との関係の理解(以下、発達等の理解)のもとに、必要な体験を考えている。	2	2	2	2	2	2	2
の理解	3. 保護者の願いや思いを受け止め、他の職員と連携を図りながら、一人一人の幼児の発達等を理解し、クラスの 状態を踏まえて、必要な体験を考えている。	3	3	3	3	3	3	3
	4. 幼児の発達等やクラスの状態に応じた保育について、他の職員と共有し、他の職員に適切な支援・助言を行っている。	4	4	4	4	4	4	4
	5. 幼児の発達等やクラスの状態に応じた保育について、他の職員への適切な支援・助言を行い、園全体の保育の 質の向上のための取り組みをリードしている。	5	5	5	5	5	5	5
運幼営児	1. 幼児理解に基づいたクラス運営について、基礎的知識を習得している。	1	1	1	1	1	1	1
日 選 理 解	2. 指針等や幼児の実態を踏まえ、幼児との信頼関係を築いた上で、集団づくりをしている。	2	2	2	2	2	2	2
上上	3. 指針等や幼児の実態を踏まえ、幼児理解に基づく人間関係の構築と一人一人に寄り添った集団づくりをしている。	3	3	3	3	3	3	3
当づいた	4. 集団の発達の視点を取り入れ、指針等や幼児の実態を踏まえ、幼児理解に基づく人間関係の構築と一人一人に 寄り添った集団づくりをし、他の職員に適切な支援・助言を行っている。	4	4	4	4	4	4	4
クラス	5. 集団の発達の視点を取り入れ、指針等や幼児の実態を踏まえ、幼児理解に基づく人間関係の構築と一人一人に 寄り添った集団づくりについて、クラスを超えた視点から職員の話し合いの中心となって、園としてのクラス集 団の在り方の検討をリードしている。	5	5	5	5	5	5	5
指道	1. 指針等に基づき作成される全体的な計画、指導計画について、基礎的知識を習得している。	1	1	1	1	1	1	1
導計画	2. 全体的な計画に基づき、幼児の発達等を踏まえ、指導計画を作成し、他の職員と共有している。	2	2	2	2	2	2	2
等の作	3. 全体的な計画に基づき、幼児の発達等を踏まえ、園や地域の行事等と関連付けたり、小学校等との接続を考慮 したりしながら指導計画を作成し、他の職員と共有している。	3	3	3	3	3	3	3
成	4. 全体的な計画に基づき、発達等を見通し、園や地域の行事等と関連付けたり、小学校等との接続を考慮したり しながら、実践の振り返りに基づいて指導計画を作成するとともに、他の職員に適切な支援・助言を行っている。	4	4	4	4	4	4	4
	5. 全体的な計画に基づき、発達等を見通し、園や地域の実態、小学校との接続の状況等を把握した上で、園全体の視点から職員の話し合いの中心となって指導計画の作成をリードしている。	5	5	5	5	5	5	5
い幼た児	1. 幼児に対する環境構成の工夫や教材研究のあり方、その必要性について、基礎的知識を習得している。	1	1	1	1	1	1	1
保理 育解	2. 環境構成の工夫、教材研究を行い、幼児が主体的に活動できるよう、保育技術の習得及び実践に取り組んでいる。	2	2	2	2	2	2	2
の実践	3. 環境構成の工夫、教材研究を行い、幼児が主体的に活動したり、多様な経験をしたりできるよう、保育技術の 向上に取り組んでいる。	3	3	3	3	3	3	3
計画に	4. 他の職員のモデルとなり、環境構成の工夫、教材研究を行い、幼児が主体的に活動したり、多様な経験をしたりできるよう、保育技術の向上に取り組んでいる。	4	4	4	4	4	4	4
基づ	5. 専門的な保育技術を向上させ、他の職員に適切な支援・助言を行い、職員の中心となって保育の質の向上のための取り組みをリードしている。	5	5	5	5	5	5	5
理特 解別	1. 障害児保育や特別支援教育の目的や意義について理解している。また、障害に関する基礎的知識を習得している。	1	1	1	1	1	1	l
た支援がな配慮が	2. 対象児の状態について把握し、「個別の支援計画」「個別の指導計画」等を作成し、他の職員と共有するととも に、対象児や保護者に対して適切に指導・支援を行っている。	2	2	2	2	2	2	2
歴を要する幼児	3. 対象児の状態について、生育歴、家庭の状況、これまでの関わりなど、細やかに把握し、「個別の支援計画」「個別の指導計画」等を作成し、他の職員と共有するとともに、対象児や保護者に対して適切に指導・支援を行っている。	3	3	3	3	3	3	3
る幼児	4. 関係機関との連携を図り、対象児への理解や関わり方について専門性を高め、他の職員と共有しながら、対象 児や保護者に対して適切に指導・支援を行っている。	4	4	4	4	4	4	4
へ の	5. 小学校や関係機関と連携しながら、対象児や保護者を支援する体制を構築している。さらに、特別な配慮が必要な幼児やその保護者への対応について、他の職員に適切な支援・助言を行っている。	5	5	5	5	5	5	5
い幼た児	1. 発達を踏まえた幼児理解、指導計画に基づいた評価や記録の仕方について、基礎的知識を習得している。	1	1	1	1	1	1	1
評理価解・・	2. 他の職員の指導・助言のもと、幼児の発達等を含む育ち全体に目を向け、記録をもとに指導計画の改善を行っている。	2	2	2	2	2	2	2
改善の計	3. 幼児の発達等を含む育ち全体や集団の育ちに目を向け、記録をもとに指導計画を多面的に捉えながら改善を行っている。	3	3	3	3	3	3	3
実画 施に	4. 幼児理解に基づき、具体的なねらい及び内容等を踏まえて指導を振り返り、課題を明確にしている。さらに、指導計画の評価・改善について、他の職員に適切な支援・助言を行っている。	4	4	4	4	4	4	4
基づ	5. 幼児理解に基づき、具体的なねらい及び内容等を踏まえて指導を振り返り、客観的に分析し課題を明確にしている。さらに、指導計画の評価・改善を全体的な計画の改善につなげている。	5	5	5	5	5	5	5

4.「健康及び安全」と「子育て支援」について、お尋ねします。下の表は「健康及び安全」の つの資質、「子育て支援」の 2つの資質と各資質の 5つの段階を示したものです。貴園の職員で、<u>経験年数</u>がおおむね表中右欄の年数の保育者は、各資質が 5 段階のうちどの段階ですか。経験年数ごとに $1\sim5$ の数字のいずれか 1 つに○をつけてください。○印の段階が他の年数区分と重なっても構いません。

資質	段階	1年未満	l 分 3 年	3 ~ 5 年	5 ~7 年	7 10 年	10 ~ 15 年	15年以上
健康支援	1. 指針等の内容を理解するとともに、健康状態や発育及び発達の状態の把握の必要性を理解している。	1	l	1	1	1	l	1
接	2. 一人一人の子どもの健康状態や発育及び発達の状態の把握し、記録するとともに、必要な対応を行っている。	2	2	2	2	2	2	2
	3. 全体的な計画に基づいて作成された保健計画(学校保健計画)のねらいや内容を踏まえ、一人一人の子どもの健康の保持と増進を進めている。	3	3	3	3	3	3	3
	4. 嘱託医(学校医)や関係機関と連携・調整し、疾病等に対応している。また、保健計画(学校保健計画)に基づく子どもの健康の保持や増進について、他の職員を指導している。	4	4	4	4	4	4	4
	5. 嘱託医(学校医)や関係機関と連携・調整し、感染症等に対応している。さらに、保健計画(学校保健計画) の策定、改訂をリードしている。	5	5	5	5	5	5	5
食育	1. 指針等の内容を理解するとともに、食育の推進の重要性を理解している。	1	1	1	1	1	1	1
が推進	2. ガイドラインや食育計画等に基づき、園の特性を生かした食育を行うとともに、食物アレルギー等への適切な対応を行っている。	2	2	2	2	2	2	2
Æ	3. 食育計画等に基づき、他の職員と連携を取りながら、園の特性を生かした食育を行うとともに、食物アレルギー等への適切な対応を行っている。	3	3	3	3	3	3	3
	4. 食育計画等に基づき、他の職員と連携を取りながら、園の特性を生かした食育を行うとともに、食物アレルギー等への適切な対応を行っている。さらに、食育について他の職員を指導している。	4	4	4	4	4	4	4
	5. 食育計画等に基づき、食育について他の職員への支援や助言を行うとともに、食物アレルギー等への適切な対応を行っている。さらに、食育計画の改善にも中心的役割を果たしている。	5	5	5	5	5	5	5
全環管境	1. 指針等の内容を理解するとともに、環境及び衛生管理の重要性と事故防止及び安全対策の必要性を理解している。	1	1	1	1	1	1	1
理及び衛	2. 園で行われている適切な環境の維持、設備及び用具等の衛生管理、事故防止及び安全対策の実態を把握している。	2	2	2	2	2	2	2
生管	3. 保育室の環境の維持、衛生管理、事故防止及び安全対策に関して責任を持って対応している。	3	3	3	3	3	3	3
理並び	4. 保育室の環境の維持、衛生管理、事故防止及び安全対策に関して、他の職員を指導している。	4	4	4	4	4	4	4
らに 安	5. 保育室の環境の維持、衛生管理、事故防止及び安全対策に関して、他の職員を指導するとともに、園全体のこれらの管理に責任を持っている。	5	5	5	5	5	5	5
災害	1. 指針等の内容を理解するとともに、災害への備えの重要性を理解している。	1	1	1	1	1	1	1
への備	2. 園の災害マニュアルを理解し、子どもと一緒に災害に直面したことを想定した避難訓練に参加している。	2	2	2	2	2	2	2
え	3. 園の災害マニュアルを理解し、災害に直面したことを想定した避難訓練の計画を立て、中心となって運営している。	3	3	3	3	3	3	3
	4. 災害に直面したことを想定した避難訓練の計画を立て、中心となって運営するとともに、園の災害マニュアル の作成、改善を行っている。	4	4	4	4	4	4	4
	5. 保護者や地域を巻き込んだ避難訓練の計画を立て、中心となって運営するとともに、地域や関係機関と協働して園の災害マニュアルの評価、改善を行っている。	5	5	5	5	5	5	5
保護者	1. 子育て支援の重要性を理解している。	1	1	1	1	1	1	1
	2. 保護者との良好な関係を築き、一人一人の実態に応じて適切に家庭との連携を図っている。	2	2	2	2	2	2	2
の子育て支援	3. 保護者との良好な関係を築き、相談に応じたり、専門性をもって対応したりしている。	3	3	3	3	3	3	3
支援	4. 保護者との信頼関係を築き、必要に応じて関係機関と連携しながら、組織の一員として保護者を支援している。	4	4	4	4	4	4	4
	5. 子育て支援の中心的な立場を自覚し、必要に応じて関係機関と連携しながら、保護者を支援している。	5	5	5	5	5	5	5
地域	1. 地域における保育所等の役割について理解するとともに、地域の関係機関等との連携が必要であることを理解している。	1	1	1	1	1	1	1
におけ	2. 地域における自園の役割を理解し、他の職員と一緒に対応している。また地域の関係機関等との連携が必要であることを理解し、他の職員と一緒に対応している。	2	2	2	2	2	2	2
における子育て支援	3. 地域における子育て支援に対して専門性をもって他の職員と協力して対応している。また地域の関係機関との 連携に際しても、他の職員と協力して対応している。	3	3	3	3	3	3	3
って支	4. 地域における子育て支援の中心として、他の職員と一緒に家庭・地域・関係機関と連携したり、協力したりしている。	4	4	4	4	4	4	4
按	5. 地域における子育て支援の中心として、他の職員をリードして、家庭・地域・関係機関と連携したり、協力したりしている。	5	5	5	5	5	5	5

5. 乳児保育 [乳児期の園児の保育] (以下、「乳児保育」) について、お尋ねします。下の表は「乳児保育」の5つの資質と各資質の5つの段階を示したものです。あなたは、経験年数がおおむね表中右欄の年数の保育者には、<u>理想として</u>各資質でどの段階になってもらいたいですか。 経験年数ごとに $1 \sim 5$ の数字のいずれか1つに○をつけてください。○印の段階が他の年数区分と重なっても構いません。

資質	段階	1年未満	1 3 年	3 ~ 5 年	5 ~ 7 年	7 10 年	10 ~ 15 年	15年以上
	1. 運動機能の著しい発達、情緒的な絆の形成など、乳児の発達について、基礎的知識を習得している。	1	1	1	1	1	1	1
の発達等	2. 乳児の発達に加えて、興味・関心、特性(生命の保持と情緒の安定の下で自己を十分に発揮することにより発達に必要な体験を得ていくこと)の理解(以下、発達等の理解)のもとに、必要な体験を考えている。	2	2	2	2	2	2	2
寺の理解	3. 保護者の願いや思いを受け止め、他の職員と連携を図りながら、一人一人の乳児の発達等を理解し、必要な体験を考えている。	3	3	3	3	3	3	3
7,77	4. 一人一人の乳児の発達等に応じた保育について、他の職員と共有し、他の職員に適切な支援・助言を行っている。	4	4	4	4	4	4	4
	5. 一人一人の乳児の発達等に応じた保育について、他の職員に適切な支援・助言を行い、園全体の保育の質の向上のための取り組みをリードしている。	5	5	5	5	5	5	5
指導計	1. 指針等に基づき作成される全体的な計画、それに基づく指導計画について、基礎的知識を習得している。	1	1	1	1	1	1	1
計画等の	2. 全体的な計画に基づき、乳児の発達等を踏まえ、個別の指導計画を作成し、他の職員と共有している。	2	2	2	2	2	2	2
の作成	3.全体的な計画に基づき、一人一人の乳児の発達等を踏まえ、1歳以上3歳未満児の保育との接続を考慮して、 個別の指導計画を作成し、他の職員と共有している。	3	3	3	3	3	3	3
	4. 全体的な計画に基づき、一人一人の乳児の発達等を見通し、1歳以上3歳未満児の保育との接続を考慮して、 実践の振り返りに基づいて個別の指導計画を作成するとともに、他の職員に適切な支援・助言を行っている。	4	4	4	4	4	4	4
	5. 全体的な計画に基づき、一人一人の乳児の発達等を見通し、1歳以上3歳未満児の保育との接続を考慮して、 園全体の視点から、職員の話し合いの中心となって個別の指導計画の作成をリードしている。	5	5	5	5	5	5	5
に乳 基児 づの	1. 乳児に対する環境構成の工夫や教材研究のあり方、その必要性、並びに保育者の関わり方に関する基礎的知識を習得している。	1	1	1	1	1	1	1
の発達な	2. 環境構成の工夫、教材研究を行い、乳児と情緒的な絆が形成されるよう、保育技術の習得及び実践に取り組んでいる。	2	2	2	2	2	2	2
いた保育の実践発達等の理解や	3. 環境構成の工夫、教材研究を行い、一人一人の乳児と情緒的な絆を形成したり、一人一人の乳児の興味や好奇 心を満たしたりできるよう、保育技術の向上に取り組んでいる。	3	3	3	3	3	3	3
践や指導	4. 他の職員のモデルとなり、環境構成の工夫、教材研究を行い、一人一人の乳児と情緒的な絆を形成したり、一 人一人の乳児の興味や好奇心を満たしたりできるよう、保育技術の向上に取り組んでいる。	4	4	4	4	4	4	4
計画	5. 専門的な保育技術を向上させ、他の職員に適切な支援・助言を行い、職員の中心となって保育の質の向上のための取り組みをリードしている。	5	5	5	5	5	5	5
と特 支別	1. 障害児保育や特別支援教育の目的や意義について理解している。また、障害に関する基礎的知識を習得している。	1	1	1	1	1	1	1
援配慮	2. 対象児の状態について把握し、「個別の支援計画」「個別の指導計画」等を作成し、他の職員と共有するととも に、対象児や保護者に対して適切に指導・支援を行っている。	2	2	2	2	2	2	2
を要する乳	3. 対象児の状態について、生育歴、家庭の状況、これまでの関わりなど、細やかに把握し、「個別の支援計画」「個別の指導計画」等を作成し、他の職員と共有するとともに、対象児や保護者に対して適切に指導・支援を行っている。	3	3	3	3	3	3	3
児へ	4. 関係機関との連携を図り、対象児への理解や関わり方について専門性を高め、他の職員と共有しながら、対象 児や保護者に対して適切に指導・支援を行っている。	4	4	4	4	4	4	4
の理解	5. 関係機関と連携しながら、対象児や保護者を支援する体制を構築している。さらに、特別な配慮が必要な乳児 やその保護者への対応について、他の職員に適切な支援・助言を行っている。	5	5	5	5	5	5	5
基乳づ児	1. 発達を踏まえた乳児の理解、指導計画に基づいた評価や記録の仕方について、基礎的知識を習得している。	1	1	1	1	1	1	1
いた評価	2. 他の職員の指導・助言のもと、乳児の発達等を含む育ち全体に目を向け、記録をもとに指導計画の改善を行っている。	2	2	2	2	2	2	2
一・改善	3. 一人一人の乳児の発達等を含む育ち全体に目を向け、記録をもとに指導計画を多面的に捉え、評価しながら改善を行っている。	3	3	3	3	3	3	3
の実施	4. 一人一人の乳児の発達等を含む育ち全体の理解に基づき、具体的なねらい及び内容等を踏まえて指導を振り返り、課題を明確にしている。さらに、指導計画の評価・改善について、他の職員に適切な支援・助言を行っている。	4	4	4	4	4	4	4
計画に	5. 一人一人の乳児の発達等を含む育ち全体の理解に基づき、具体的なねらい及び内容等を踏まえて指導を振り返り、客観的に分析し課題を明確にしている。さらに、指導計画の評価・改善を全体的な計画の改善につなげている。	5	5	5	5	5	5	5

6. 1歳以上3歳未満児の保育 [満1歳以上満3歳未満の園児の保育] (以下、「未満児の保育」) について、お尋ねします。下の表は「未満児の保育」の5つの資質と各資質の5つの段階を示したものです。あなたは、経験年数がおおむね表中右欄の年数の保育者には、<u>理想として</u>各資質でどの段階になってもらいたいですか。経験年数ごとに1~5の数字のいずれか1つに○をつけてください。○印の段階が他の年数区分と重なっても構いません。

資質	段階	1年未満	1 3 年	3 ~ 5 年	5 ~ 7 年	7 ~ 10 年	10 ~ 15 年	15年以上
未満児	1. 自分でできることが増えてくる、自我が育つなど、未満児の発達について、基礎的知識を習得している。	1	1	1	1	1	1	1
児の発達等	2. 未満児の発達に加えて、興味・関心、特性(生命の保持と情緒の安定の下で自己を十分に発揮することにより 発達に必要な体験を得ていくこと)、よさや可能性の理解(以下、発達等の理解)のもとに、必要な体験を考え ている。	2	2	2	2	2	2	2
の理	3. 保護者の願いや思いを受け止め、他の職員と連携を図りながら、一人一人の未満児の発達等を理解し、必要な体験を考えている。	3	3	3	3	3	3	3
解	4. 一人一人の未満児の発達等に応じた保育について、他の職員と共有し、他の職員に適切な支援・助言を行っている。	4	4	4	4	4	4	4
	5. 一人一人の未満児の発達等に応じた保育について、他の職員に適切な支援・助言を行い、園全体の保育の質の 向上のための取り組みをリードしている。	5	5	5	5	5	5	5
指導計	1. 指針等に基づき作成される全体的な計画、それに基づく指導計画について、基礎的知識を習得している。	1	1	1	1	1	1	1
画等	2. 全体的な計画に基づき、未満児の発達等を踏まえ、個別的な指導計画を作成し、他の職員と共有している。	2	2	2	2	2	2	2
の作成	3. 全体的な計画に基づき、一人一人の未満児の発達等を踏まえ、3歳以上児の保育との接続を考慮して、個別的 な指導計画を作成し、他の職員と共有している。	3	3	3	3	3	3	3
	4. 全体的な計画に基づき、一人一人の未満児の発達等を見通し、乳児や3歳以上児の保育との接続を考慮して、 実践の振り返りに基づいて個別的な指導計画を作成するとともに、他の職員に適切な支援・助言を行っている。	4	4	4	4	4	4	4
	5. 全体的な計画に基づき、一人一人の未満児の発達等を見通し、乳児や3歳以上児の保育との接続を考慮して、 園全体の視点から職員の話し合いの中心となって個別的な指導計画の作成をリードしている。	5	5	5	5	5	5	5
計未画満	1. 未満児に対する環境構成の工夫や教材研究のあり方、その必要性について、基礎的知識を習得している。	1	1	1	1	1	1	1
に基づ	2. 環境構成の工夫、教材研究を行い、未満児の自我の育ちを支えるよう、保育技術の習得及び実践に取り組んでいる。	2	2	2	2	2	2	2
光の発達等の	3. 環境構成の工夫、教材研究を行い、一人一人の未満児の自我の育ちを支えたり、興味や好奇心を満たしたりするよう、保育技術の向上に取り組んでいる。	3	3	3	3	3	3	3
	4. 他の職員のモデルとなり、環境構成の工夫、教材研究を行い、一人一人の未満児の自我の育ちを支えたり、興味や好奇心を満たしたりするよう、保育技術の向上に取り組んでいる。	4	4	4	4	4	4	4
Cの実践 理解や指導	5. 専門的な保育技術を向上させ、他の職員に適切な支援・助言を行い、職員の中心となって保育の質の向上のための取り組みをリードしている。	5	5	5	5	5	5	5
理特解別	1. 障害児保育や特別支援教育の目的や意義について理解している。また、障害に関する基礎的知識を習得している。	1	1	1	1	1	1	1
と支援な配慮	2. 対象児の状態について把握し、「個別の支援計画」「個別の指導計画」等を作成し、他の職員と共有するととも に、対象児や保護者に対して適切に指導・支援を行っている。	2	2	2	2	2	2	2
を要する	3. 対象児の状態について、生育歴、家庭の状況、これまでの関わりなど、細やかに把握し、「個別の支援計画」「個別の指導計画」等を作成し、他の職員と共有するとともに、対象児や保護者に対して適切に指導・支援を行っている。	3	3	3	3	3	3	3
要する未満児	4. 関係機関との連携を図り、対象児への理解や関わり方について専門性を高め、他の職員と共有しながら、対象 児や保護者に対して適切に指導・支援を行っている。	4	4	4	4	4	4	4
元の	5. 関係機関と連携しながら、対象児や保護者を支援する体制を構築している。さらに、特別な配慮が必要な未満 児やその保護者への対応について、他の職員に適切な支援・助言を行っている。	5	5	5	5	5	5	5
に未満に	1. 発達を踏まえた未満児の理解、指導計画に基づいた評価や記録の仕方について、基礎的知識を習得している。	1	1	1	1	1	1	1
	2. 他の職員の指導・助言のもと、未満児の発達等を含む育ち全体に目を向け、記録をもとに指導計画の改善を行っている。	2	2	2	2	2	2	2
評価・活達等の	3. 一人一人の未満児の発達等を含む育ち全体に目を向け、記録をもとに指導計画を多面的に捉え、評価しながら 改善を行っている。	3	3	3	3	3	3	3
た評価・改善の実施・発達等の理解・指導	4. 一人一人の未満児の発達等を含む育ち全体の理解に基づき、具体的なねらい及び内容等を踏まえて指導を振り返り、課題を明確にしている。さらに、指導計画の評価・改善について、他の職員に適切な支援・助言を行っている。	4	4	4	4	4	4	4
施導計画	5. 一人一人の未満児の発達等を含む育ち全体の理解に基づき、具体的なねらい及び内容等を踏まえて指導を振り返り、客観的に分析し課題を明確にしている。さらに、指導計画の評価・改善を全体的な計画の改善につなげている。	5	5	5	5	5	5	5

7. 3歳以上児の保育 [満3歳以上の園児の教育及び保育] (以下、「幼児教育・保育」) について、お尋ねします。下の表は「幼児教育・保育」 の 6 つの資質と各資質の 5 つの段階を示したものです。あなたは、経験年数がおおむね表中右欄の年数の保育者には、<u>理想として</u>各資質でどの段階になってもらいたいですか。経験年数ごとに $1 \sim 5$ の数字のいずれか 1 つに \bigcirc をつけてください。 \bigcirc 印の段階が他の年数区分と重なっても構いません。

		_	_					
資質	段階	1年未満	1 3 年	3 ~ 5 年	5 ~ 7 年	7 ~ 10 年		15年以上
幼児	1. 知的な興味や関心が高まったり、集団的な遊びや協働的な遊びが見られたりするなど、幼児の発達について、 基礎的知識を習得している。	1	1	1	1	1	1	1
の発達等	2. 幼児の発達に加えて、興味・関心、特性(生命の保持と情緒の安定の下で自己を十分に発揮することにより発達に必要な体験を得ていくこと)、よさや可能性、他児との関係の理解(以下、発達等の理解)のもとに、必要な体験を考えている。	2	2	2	2	2	2	2
7の理解	3. 保護者の願いや思いを受け止め、他の職員と連携を図りながら、一人一人の幼児の発達等を理解し、クラスの 状態を踏まえて、必要な体験を考えている。	3	3	3	3	3	3	3
	4. 幼児の発達等やクラスの状態に応じた保育について、他の職員と共有し、他の職員に適切な支援・助言を行っている。					4	4	4
	5. 幼児の発達等やクラスの状態に応じた保育について、他の職員への適切な支援・助言を行い、園全体の保育の 質の向上のための取り組みをリードしている。	5	5	5	5	5	5	5
運幼 営児	1. 幼児理解に基づいたクラス運営について、基礎的知識を習得している。	1	1	1	1	1	1	l
1 理解	2. 指針等や幼児の実態を踏まえ、幼児との信頼関係を築いた上で、集団づくりをしている。	2	2	2	2	2	2	2
解に 基	3. 指針等や幼児の実態を踏まえ、幼児理解に基づく人間関係の構築と一人一人に寄り添った集団づくりをしている。	3	3	3	3	3	3	3
づいた	4. 集団の発達の視点を取り入れ、指針等や幼児の実態を踏まえ、幼児理解に基づく人間関係の構築と一人一人に 寄り添った集団づくりをし、他の職員に適切な支援・助言を行っている。	4	4	4	4	4	4	4
クラス	5. 集団の発達の視点を取り入れ、指針等や幼児の実態を踏まえ、幼児理解に基づく人間関係の構築と一人一人に 寄り添った集団づくりについて、クラスを超えた視点から職員の話し合いの中心となって、園としてのクラス集 団の在り方の検討をリードしている。	5	5	5	5	5	5	5
指道	1. 指針等に基づき作成される全体的な計画、指導計画について、基礎的知識を習得している。	1	1	1	1	1	1	1
導計画	2. 全体的な計画に基づき、幼児の発達等を踏まえ、指導計画を作成し、他の職員と共有している。	2	2	2	2	2	2	2
画等の作	3. 全体的な計画に基づき、幼児の発達等を踏まえ、園や地域の行事等と関連付けたり、小学校等との接続を考慮 したりしながら指導計画を作成し、他の職員と共有している。	3	3	3	3	3	3	3
作成	4.全体的な計画に基づき、発達等を見通し、園や地域の行事等と関連付けたり、小学校等との接続を考慮したりしながら、実践の振り返りに基づいて指導計画を作成するとともに、他の職員に適切な支援・助言を行っている。	4	4	4	4	4	4	4
	5. 全体的な計画に基づき、発達等を見通し、園や地域の実態、小学校との接続の状況等を把握した上で、園全体の視点から職員の話し合いの中心となって指導計画の作成をリードしている。	5	5	5	5	5	5	5
い幼た児	1. 幼児に対する環境構成の工夫や教材研究のあり方、その必要性について、基礎的知識を習得している。	1	1	1	1	1	1	1
保理育解	2. 環境構成の工夫、教材研究を行い、幼児が主体的に活動できるよう、保育技術の習得及び実践に取り組んでいる。	2	2	2	2	2	2	2
の実践	3. 環境構成の工夫、教材研究を行い、幼児が主体的に活動したり、多様な経験をしたりできるよう、保育技術の 向上に取り組んでいる。	3	3	3	3	3	3	3
計画に	4. 他の職員のモデルとなり、環境構成の工夫、教材研究を行い、幼児が主体的に活動したり、多様な経験をしたりできるよう、保育技術の向上に取り組んでいる。	4	4	4	4	4	4	4
基づ	5. 専門的な保育技術を向上させ、他の職員に適切な支援・助言を行い、職員の中心となって保育の質の向上のための取り組みをリードしている。	5	5	5	5	5	5	5
理特解別	1. 障害児保育や特別支援教育の目的や意義について理解している。また、障害に関する基礎的知識を習得している。	1	1	1	1	1	1	1
と支援な配慮	2. 対象児の状態について把握し、「個別の支援計画」「個別の指導計画」等を作成し、他の職員と共有するととも に、対象児や保護者に対して適切に指導・支援を行っている。	2	2	2	2	2	2	2
感を要する幼	3. 対象児の状態について、生育歴、家庭の状況、これまでの関わりなど、細やかに把握し、「個別の支援計画」「個別の指導計画」等を作成し、他の職員と共有するとともに、対象児や保護者に対して適切に指導・支援を行っている。	3	3	3	3	3	3	3
幼児	4. 関係機関との連携を図り、対象児への理解や関わり方について専門性を高め、他の職員と共有しながら、対象 児や保護者に対して適切に指導・支援を行っている。	4	4	4	4	4	4	4
へ の	5. 小学校や関係機関と連携しながら、対象児や保護者を支援する体制を構築している。さらに、特別な配慮が必要な幼児やその保護者への対応について、他の職員に適切な支援・助言を行っている。	5	5	5	5	5	5	5
い幼た児	1. 発達を踏まえた幼児理解、指導計画に基づいた評価や記録の仕方について、基礎的知識を習得している。	1	1	1	1	1	1	1
評理価解・	2. 他の職員の指導・助言のもと、幼児の発達等を含む育ち全体に目を向け、記録をもとに指導計画の改善を行っている。	2	2	2	2	2	2	2
・改善の	3. 幼児の発達等を含む育ち全体や集団の育ちに目を向け、記録をもとに指導計画を多面的に捉えながら改善を行っている。	3	3	3	3	3	3	3
実画施に	4. 幼児理解に基づき、具体的なねらい及び内容等を踏まえて指導を振り返り、課題を明確にしている。さらに、指導計画の評価・改善について、他の職員に適切な支援・助言を行っている。	4	4	4	4	4	4	4
基づ	5. 幼児理解に基づき、具体的なねらい及び内容等を踏まえて指導を振り返り、客観的に分析し課題を明確にしている。さらに、指導計画の評価・改善を全体的な計画の改善につなげている。	5	5	5	5	5	5	5

8. 「健康及び安全」と「子育て支援」について、お尋ねします。下の表は「健康及び安全」の4つの資質、「子育て支援」の2つの資質と各資質の5つの段階を示したものです。あなたは、経験年数がおおむね表中右欄の年数の保育者には、<u>理想として</u>各資質でどの段階になってもらいたいですか。経験年数ごとに $1\sim5$ の数字のいずれか1つに \bigcirc をつけてください。 \bigcirc 印の段階が他の年数区分と重なっても構いません。

資質	段階	1年未満	1 分 3 年	3~5 年	5 ~7 年	7 10 年	10 ~ 15 年	15年以上
健康支援	1. 指針等の内容を理解するとともに、健康状態や発育及び発達の状態の把握の必要性を理解している。	1	1	1	1	1	l	1
支 援	2. 一人一人の子どもの健康状態や発育及び発達の状態の把握し、記録するとともに、必要な対応を行っている。	2	2	2	2	2	2	2
	3. 全体的な計画に基づいて作成された保健計画(学校保健計画)のねらいや内容を踏まえ、一人一人の子どもの 健康の保持と増進を進めている。	3	3	3	3	3	3	3
	4. 嘱託医(学校医)や関係機関と連携・調整し、疾病等に対応している。また、保健計画(学校保健計画)に基づく子どもの健康の保持や増進について、他の職員を指導している。	4	4	4	4	4	4	4
	5. 嘱託医(学校医)や関係機関と連携・調整し、感染症等に対応している。さらに、保健計画(学校保健計画) の策定、改訂をリードしている。	5	5	5	5	5	5	5
食育	1. 指針等の内容を理解するとともに、食育の推進の重要性を理解している。	1	1	1	1	1	l	1
が推進	2. ガイドラインや食育計画等に基づき、園の特性を生かした食育を行うとともに、食物アレルギー等への適切な対応を行っている。	2	2	2	2	2	2	2
<u> </u>	3. 食育計画等に基づき、他の職員と連携を取りながら、園の特性を生かした食育を行うとともに、食物アレルギ ー等への適切な対応を行っている。	3	3	3	3	3	3	3
	4. 食育計画等に基づき、他の職員と連携を取りながら、園の特性を生かした食育を行うとともに、食物アレルギー等への適切な対応を行っている。さらに、食育について他の職員を指導している。	4	4	4	4	4	4	4
	5. 食育計画等に基づき、食育について他の職員への支援や助言を行うとともに、食物アレルギー等への適切な対 応を行っている。さらに、食育計画の改善にも中心的役割を果たしている。	5	5	5	5	5	5	5
全環管境	1. 指針等の内容を理解するとともに、環境及び衛生管理の重要性と事故防止及び安全対策の必要性を理解している。	1	1	1	1	1	1	1
埋及 び	2. 園で行われている適切な環境の維持、設備及び用具等の衛生管理、事故防止及び安全対策の実態を把握している。	2	2	2	2	2	2	2
衛 生 管	3. 保育室の環境の維持、衛生管理、事故防止及び安全対策に関して責任を持って対応している。	3	3	3	3	3	3	3
理並び	4. 保育室の環境の維持、衛生管理、事故防止及び安全対策に関して、他の職員を指導している。	4	4	4	4	4	4	4
り に 安	5. 保育室の環境の維持、衛生管理、事故防止及び安全対策に関して、他の職員を指導するとともに、園全体のこれらの管理に責任を持っている。	5	5	5	5	5	5	5
災害	1. 指針等の内容を理解するとともに、災害への備えの重要性を理解している。	1	1	1	1	1	1	1
への備	2. 園の災害マニュアルを理解し、子どもと一緒に災害に直面したことを想定した避難訓練に参加している。	2	2	2	2	2	2	2
え	3. 園の災害マニュアルを理解し、災害に直面したことを想定した避難訓練の計画を立て、中心となって運営している。	3	3	3	3	3	3	3
	4. 災害に直面したことを想定した避難訓練の計画を立て、中心となって運営するとともに、園の災害マニュアル の作成、改善を行っている。	4	4	4	4	4	4	4
	5. 保護者や地域を巻き込んだ避難訓練の計画を立て、中心となって運営するとともに、地域や関係機関と協働し て園の災害マニュアルの評価、改善を行っている。	5	5	5	5	5	5	5
保護者	1. 子育て支援の重要性を理解している。	1	1	1	1	1	l	1
者への	2. 保護者との良好な関係を築き、一人一人の実態に応じて適切に家庭との連携を図っている。	2	2	2	2	2	2	2
への子育て支援	3. 保護者との良好な関係を築き、相談に応じたり、専門性をもって対応したりしている。	3	3	3	3	3	3	3
支援	4. 保護者との信頼関係を築き、必要に応じて関係機関と連携しながら、組織の一員として保護者を支援している。	4	4	4	4	4	4	4
	5. 子育て支援の中心的な立場を自覚し、必要に応じて関係機関と連携しながら、保護者を支援している。	5	5	5	5	5	5	5
地域	1. 地域における保育所等の役割について理解するとともに、地域の関係機関等との連携が必要であることを理解している。	1	1	1	1	1	1	1
におけ	2. 地域における自園の役割を理解し、他の職員と一緒に対応している。また地域の関係機関等との連携が必要であることを理解し、他の職員と一緒に対応している。	2	2	2	2	2	2	2
における子育て支援	3. 地域における子育て支援に対して専門性をもって他の職員と協力して対応している。また地域の関係機関との連携に際しても、他の職員と協力して対応している。	3	3	3	3	3	3	3
月て支	4. 地域における子育て支援の中心として、他の職員と一緒に家庭・地域・関係機関と連携したり、協力したりしている。	4	4	4	4	4	4	4
援 	5. 地域における子育て支援の中心として、他の職員をリードして、家庭・地域・関係機関と連携したり、協力したりしている。	5	5	5	5	5	5	5

9. 職員の次の資質を伸ばすための研修についてお尋ねします。

(1) 貴園で園外研修として出張扱いされている研修の形式に○をつけて下さい(複数回答可)。その他の形式については具体的にお書きくだ さい。なおここで言う講義は講師の先生の話を聞く研修、ワークショップ・グループとは実際に受講者が話し合いをしたり、作業をしたり する研修、ビデオ・DVDは研修教材を視聴する研修、公開保育とは他園または自園で公開されている保育を見学したり、参加したりする 研修、e-learningとはインターネットを介した研修・研鑽とします。

資質	講義	ワークショッ プ・グループ	ビデオ・DVD	公開保育	e-learning	その他
乳児の保育						
未満児の保育						
幼児の教育・保育						
障害児保育						
健康支援						
食育の推進						
環境及び衛生管理 並びに安全管理						
災害への備え						
子育て支援						

(2) 貴園で実施されている園内研修の形式に○をつけて下さい(複数回答可)。その他の形式については具体的にお書きください。なお ここで言う講義は講師の先生の話を聞く研修、ワークショップ・グループとは実際に受講者が話し合いをしたり、作業をしたりする研 修、ビデオ・DVDは研修教材を視聴する研修、公開保育とは他園または自園で公開されている保育を見学したり、参加したりする研修、 e-learningとはインターネットを介した研修・研鑽とします。

資質	講義	ワークショッ プ・グループ	ビデオ・DVD	公開保育	e-learning	その他
乳児の保育						
未満児の保育						
幼児の教育・保育						
障害児保育						
健康支援						
食育の推進						
環境及び衛生管理 並びに安全管理						
災害への備え						
子育て支援						

10.	最後に、	貢園のことについてお尋ねします。	
(1) 貴園の	所在地を教えて下さい。	

都道府県()	市区町村()			
(2) 貴園の運営主体 1. 市区町村 2		-	4. 企業 5.	その他()		
(3) 貴園の種類を教 a. 保育所 b. ダ	_	こども園 c. 認定	こども園(保育	所型) d. 認定こと	ごも園(幼稚園型)	e. 認定こども園	(地方裁量型)
(4) 上記(3)で「 知らせください。 a. 保育所 b. タ		認定こども園」と回		お尋ねします。幼保	連携型認定こども	園になる前の園の種	重類についてお
(5) 貴園の定員(利 ①定員(J用定員)、在籍)名	児童数、保育士・保	育教諭数を教え	て下さい。			
②在籍児童数 0歳児:(3歳児:()名)名	1歳児:(4歳児:(, -	2歳児:(5歳児:()名)名		

③保育士・保育教諭の人数

年齢	0歳児	1 歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
常勤						
非常勤						

ご協力、ありがとうございました。

B票 主任保育士・主幹保育教諭用

保育所・認定こども園等の研修体系に関する研究調査票

1. 乳児保育 [乳児期の園児の保育] (以下、「乳児保育」) について、お尋ねします。下の表は「乳児保育」の5つの資質と各資質の5つの段階を示したものです。 今のあなたの資質は、5段階のうちどの段階ですか。 1 から5の数字のいずれか1つに○をつけてください。 またあなたは、資質が今の段階に達するまでに、どのような研修・研鑽の経験が有効でしたか。 有効であったと思う研修・研鑽に○をつけて下さい(複数回答可)。 なおここで言う園外研修・園内研修とは、園外または園内で講師に教えてもらった研修、公開保育とは他園または自園で公開されている保育を見学したり、参加したりする研修、e-learningとはインターネットを介した研修・研鑽とします。

		今のよ	有効~	であった	で研修・	研鑽
資質	段階	あなたの段階	園外研修	園内研修	公開保育	e-learning
乳児	1. 運動機能の著しい発達、情緒的な絆の形成など、乳児の発達について、基礎的知識を習得している。	1				
の発達	2. 乳児の発達に加えて、興味・関心、特性(生命の保持と情緒の安定の下で自己を十分に発揮することにより発 達に必要な体験を得ていくこと)の理解(以下、発達等の理解)のもとに、必要な体験を考えている。	2				
発達等の理	3. 保護者の願いや思いを受け止め、他の職員と連携を図りながら、一人一人の乳児の発達等を理解し、必要な体験を考えている。	3				
解	4. 一人一人の乳児の発達等に応じた保育について、他の職員と共有し、他の職員に適切な支援・助言を行っている。	4				
	5. 一人一人の乳児の発達等に応じた保育について、他の職員に適切な支援・助言を行い、園全体の保育の質の向上のための取り組みをリードしている。	5				
指導計	1. 指針等に基づき作成される全体的な計画、それに基づく指導計画について、基礎的知識を習得している。	l				
計画等の	2. 全体的な計画に基づき、乳児の発達等を踏まえ、個別の指導計画を作成し、他の職員と共有している。	2				
の作成	3.全体的な計画に基づき、一人一人の乳児の発達等を踏まえ、1歳以上3歳未満児の保育との接続を考慮して、 個別の指導計画を作成し、他の職員と共有している。	3				
),,	4. 全体的な計画に基づき、一人一人の乳児の発達等を見通し、1歳以上3歳未満児の保育との接続を考慮して、 実践の振り返りに基づいて個別の指導計画を作成するとともに、他の職員に適切な支援・助言を行っている。	4				
	5.全体的な計画に基づき、一人一人の乳児の発達等を見通し、1歳以上3歳未満児の保育との接続を考慮して、 園全体の視点から、職員の話し合いの中心となって個別の指導計画の作成をリードしている。	5				
計乳画児	1. 乳児に対する環境構成の工夫や教材研究のあり方、その必要性、並びに保育者の関わり方に関する基礎的知識を習得している。	1				
 基づ 基づ	2. 環境構成の工夫、教材研究を行い、乳児と情緒的な絆が形成されるよう、保育技術の習得及び実践に取り組んでいる。	2				
に基づいた保育の実践の発達等の理解や指導	3. 環境構成の工夫、教材研究を行い、一人一人の乳児と情緒的な絆を形成したり、一人一人の乳児の興味や好奇 心を満たしたりできるよう、保育技術の向上に取り組んでいる。	3				
作解や	4. 他の職員のモデルとなり、環境構成の工夫、教材研究を行い、一人一人の乳児と情緒的な絆を形成したり、一 人一人の乳児の興味や好奇心を満たしたりできるよう、保育技術の向上に取り組んでいる。	4				
	5. 専門的な保育技術を向上させ、他の職員に適切な支援・助言を行い、職員の中心となって保育の質の向上のための取り組みをリードしている。	5				
理特解が	1. 障害児保育や特別支援教育の目的や意義について理解している。また、障害に関する基礎的知識を習得している。	1				
を支援がな配慮	2. 対象児の状態について把握し、「個別の支援計画」「個別の指導計画」等を作成し、他の職員と共有するととも に、対象児や保護者に対して適切に指導・支援を行っている。	2				
を要す	3. 対象児の状態について、生育歴、家庭の状況、これまでの関わりなど、細やかに把握し、「個別の支援計画」「個別の指導計画」等を作成し、他の職員と共有するとともに、対象児や保護者に対して適切に指導・支援を行っている。	3				
る乳児	4. 関係機関との連携を図り、対象児への理解や関わり方について専門性を高め、他の職員と共有しながら、対象 児や保護者に対して適切に指導・支援を行っている。	4				
へ の	5. 関係機関と連携しながら、対象児や保護者を支援する体制を構築している。さらに、特別な配慮が必要な乳児 やその保護者への対応について、他の職員に適切な支援・助言を行っている。	5				
に乳児の 基で	1. 発達を踏まえた乳児の理解、指導計画に基づいた評価や記録の仕方について、基礎的知識を習得している。	1				
づいた証	2. 他の職員の指導・助言のもと、乳児の発達等を含む育ち全体に目を向け、記録をもとに指導計画の改善を行っている。	2				
ついた評価・改善の発達等の理解・比	3. 一人一人の乳児の発達等を含む育ち全体に目を向け、記録をもとに指導計画を多面的に捉え、評価しながら改善きを行っている。	3				
1 () 1	4. 一人一人の乳児の発達等を含む育ち全体の理解に基づき、具体的なねらい及び内容等を踏まえて指導を振り返り、課題を明確にしている。さらに、指導計画の評価・改善について、他の職員に適切な支援・助言を行っている。	4				
実計画	5. 一人一人の乳児の発達等を含む育ち全体の理解に基づき、具体的なねらい及び内容等を踏まえて指導を振り返り、客観的に分析し課題を明確にしている。さらに、指導計画の評価・改善を全体的な計画の改善につなげている。	5				

2. 1 歳以上3歳未満児の保育 [満 1 歳以上満3歳未満の園児の保育](以下、「未満児の保育」)について、お尋ねします。下の表は「未満児の保育」の5つの資質と各資質の5つの段階を示したものです。今のあなたの資質は、5段階のうちどの段階ですか。 1 から5の数字のいずれか1つに○をつけてください。またあなたは、資質が今の段階に達するまでに、どのような研修・研鑽の経験が有効でしたか。有効であったと思う研修・研鑽に○をつけて下さい(複数回答可)。なおここで言う園外研修・園内研修とは、園外または園内で講師に教えてもらった研修、公開保育とは他園または自園で公開されている保育を見学したり、参加したりする研修、e-learningとはインターネットを介した研修・研鑽とします。

		今のよ	有効で	であった	ご研修・	研鑽
資質	段階	あなたの段階	園外研修	園内研修	公開保育	e-learning
未満	1. 自分でできることが増えてくる、自我が育つなど、未満児の発達について、基礎的知識を習得している。	1				
児	2. 未満児の発達に加えて、興味・関心、特性(生命の保持と情緒の安定の下で自己を十分に発揮することにより 発達に必要な体験を得ていくこと)、よさや可能性の理解(以下、発達等の理解)のもとに、必要な体験を考え ている。	2				
発達等の理	3. 保護者の願いや思いを受け止め、他の職員と連携を図りながら、一人一人の未満児の発達等を理解し、必要な体験を考えている。	3				
解	4. 一人一人の未満児の発達等に応じた保育について、他の職員と共有し、他の職員に適切な支援・助言を行っている。	4				
	5. 一人一人の未満児の発達等に応じた保育について、他の職員に適切な支援・助言を行い、園全体の保育の質の 向上のための取り組みをリードしている。	5				
指導計	1. 指針等に基づき作成される全体的な計画、それに基づく指導計画について、基礎的知識を習得している。	1				
計画	2. 全体的な計画に基づき、未満児の発達等を踏まえ、個別的な指導計画を作成し、他の職員と共有している。	2				
画等の作	3. 全体的な計画に基づき、一人一人の未満児の発達等を踏まえ、3歳以上児の保育との接続を考慮して、個別的 な指導計画を作成し、他の職員と共有している。	3				
成	4. 全体的な計画に基づき、一人一人の未満児の発達等を見通し、乳児や3歳以上児の保育との接続を考慮して、 実践の振り返りに基づいて個別的な指導計画を作成するとともに、他の職員に適切な支援・助言を行っている。	4				
	5.全体的な計画に基づき、一人一人の未満児の発達等を見通し、乳児や3歳以上児の保育との接続を考慮して、 園全体の視点から職員の話し合いの中心となって個別的な指導計画の作成をリードしている。	5				
計未画満	1. 未満児に対する環境構成の工夫や教材研究のあり方、その必要性について、基礎的知識を習得している。	1				
児児の発	2. 環境構成の工夫、教材研究を行い、未満児の自我の育ちを支えるよう、保育技術の習得及び実践に取り組んでいる。	2				
た は た保	3. 環境構成の工夫、教材研究を行い、一人一人の未満児の自我の育ちを支えたり、興味や好奇心を満たしたりするよう、保育技術の向上に取り組んでいる。	3				
に基づいた保育の実践児の発達等の理解や指	4. 他の職員のモデルとなり、環境構成の工夫、教材研究を行い、一人一人の未満児の自我の育ちを支えたり、興 味や好奇心を満たしたりするよう、保育技術の向上に取り組んでいる。	4				
践指導	5. 専門的な保育技術を向上させ、他の職員に適切な支援・助言を行い、職員の中心となって保育の質の向上のための取り組みをリードしている。	5				
の特理別	1. 障害児保育や特別支援教育の目的や意義について理解している。また、障害に関する基礎的知識を習得している。	1				
解と支援な配慮	2. 対象児の状態について把握し、「個別の支援計画」「個別の指導計画」等を作成し、他の職員と共有するととも に、対象児や保護者に対して適切に指導・支援を行っている。	2				
抜を	3. 対象児の状態について、生育歴、家庭の状況、これまでの関わりなど、細やかに把握し、「個別の支援計画」「個別の指導計画」等を作成し、他の職員と共有するとともに、対象児や保護者に対して適切に指導・支援を行っている。	3				
要する未満	4. 関係機関との連携を図り、対象児への理解や関わり方について専門性を高め、他の職員と共有しながら、対象 児や保護者に対して適切に指導・支援を行っている。	4				
児へ	5. 関係機関と連携しながら、対象児や保護者を支援する体制を構築している。さらに、特別な配慮が必要な未満 児やその保護者への対応について、他の職員に適切な支援・助言を行っている。	5				
に未基満	1. 発達を踏まえた未満児の理解、指導計画に基づいた評価や記録の仕方について、基礎的知識を習得している。	1				
************************************	2. 他の職員の指導・助言のもと、未満児の発達等を含む育ち全体に目を向け、記録をもとに指導計画の改善を行っている。	2				
評達	3. 一人一人の未満児の発達等を含む育ち全体に目を向け、記録をもとに指導計画を多面的に捉え、評価しながら 改善を行っている。	3				
・改善の実	4. 一人一人の未満児の発達等を含む育ち全体の理解に基づき、具体的なねらい及び内容等を踏まえて指導を振り返り、課題を明確にしている。さらに、指導計画の評価・改善について、他の職員に適切な支援・助言を行っている。	4				
光 施計画	5. 一人一人の未満児の発達等を含む育ち全体の理解に基づき、具体的なねらい及び内容等を踏まえて指導を振り返り、客観的に分析し課題を明確にしている。さらに、指導計画の評価・改善を全体的な計画の改善につなげている。	5				

3. 3歳以上児の保育 [満3歳以上の園児の教育及び保育] (以下、「幼児教育・保育」) について、お尋ねします。下の表は「幼児教育・保育」の6つの資質と各資質の5つの段階を示したものです。今のあなたの資質は、5段階のうちどの段階ですか。 1 から5の数字のいずれか1 つに○をつけてください。またあなたは、資質が今の段階に達するまでに、どのような研修・研鑽の経験が有効でしたか。有効であったと思う研修・研鑽に○をつけて下さい(複数回答可)。なおここで言う園外研修・園内研修とは、園外または園内で講師に教えてもらった研修、公開保育とは他園または自園で公開されている保育を見学したり、参加したりする見る研修、e-learningとはインターネットを介した研修・研鑽とします。

		今の	有効	であった	で研修・	研鑽
資質	段階	あなたの段階	園外研修	園内研修	公開保育	e-learning
幼児	1. 知的な興味や関心が高まったり、集団的な遊びや協働的な遊びが見られたりするなど、幼児の発達について、 基礎的知識を習得している。	1				
の発達等	2. 幼児の発達に加えて、興味・関心、特性(生命の保持と情緒の安定の下で自己を十分に発揮することにより発達に必要な体験を得ていくこと)、よさや可能性、他児との関係の理解(以下、発達等の理解)のもとに、必要な体験を考えている。	2				
の理解	3. 保護者の願いや思いを受け止め、他の職員と連携を図りながら、一人一人の幼児の発達等を理解し、クラスの 状態を踏まえて、必要な体験を考えている。	3				
	4. 幼児の発達等やクラスの状態に応じた保育について、他の職員と共有し、他の職員に適切な支援・助言を行っている。	4				
	5. 幼児の発達等やクラスの状態に応じた保育について、他の職員への適切な支援・助言を行い、園全体の保育の 質の向上のための取り組みをリードしている。	5				
ラ幼ス児	1. 幼児理解に基づいたクラス運営について、基礎的知識を習得している。 2. 指針等や幼児の実態を踏まえ、幼児との信頼関係を築いた上で、集団づくりをしている。	1 2				
運理営解	3. 指針等や幼児の実態を踏まえ、幼児理解に基づく人間関係の構築と一人一人に寄り添った集団づくりをしている。	3				
に基づ	4. 集団の発達の視点を取り入れ、指針等や幼児の実態を踏まえ、幼児理解に基づく人間関係の構築と一人一人に 寄り添った集団づくりをし、他の職員に適切な支援・助言を行っている。	4				
い た ク	5. 集団の発達の視点を取り入れ、指針等や幼児の実態を踏まえ、幼児理解に基づく人間関係の構築と一人一人に 寄り添った集団づくりについて、クラスを超えた視点から職員の話し合いの中心となって、園としてのクラス集 団の在り方の検討をリードしている。	5				
指導計	1. 指針等に基づき作成される全体的な計画、指導計画について、基礎的知識を習得している。 2. 全体的な計画に基づき、幼児の発達等を踏まえ、指導計画を作成し、他の職員と共有している。	. <u>1</u> 2				
計画等	3. 全体的な計画に基づき、幼児の発達等を踏まえ、園や地域の行事等と関連付けたり、小学校等との接続を考慮したりしながら指導計画を作成し、他の職員と共有している。	3				
7の作成	4. 全体的な計画に基づき、発達等を見通し、園や地域の行事等と関連付けたり、小学校等との接続を考慮したり しながら、実践の振り返りに基づいて指導計画を作成するとともに、他の職員に適切な支援・助言を行っている。	4				
<i>>></i>	5.全体的な計画に基づき、発達等を見通し、園や地域の実態、小学校との接続の状況等を把握した上で、園全体 の視点から職員の話し合いの中心となって指導計画の作成をリードしている。	5				
基が明理	1. 幼児に対する環境構成の工夫や教材研究のあり方、その必要性について、基礎的知識を習得している。 2. 環境構成の工夫、教材研究を行い、幼児が主体的に活動できるよう、保育技術の習得及び実践に取り組んでいる。	1 2				
た保育	3. 環境構成の工夫、教材研究を行い、幼児が主体的に活動したり、多様な経験をしたりできるよう、保育技術の 向上に取り組んでいる。	3				
の導 実計	4. 他の職員のモデルとなり、環境構成の工夫、教材研究を行い、幼児が主体的に活動したり、多様な経験をしたりできるよう、保育技術の向上に取り組んでいる。	4				
践画に	5. 専門的な保育技術を向上させ、他の職員に適切な支援・助言を行い、職員の中心となって保育の質の向上のための取り組みをリードしている。	5				
へ特 の別	1. 障害児保育や特別支援教育の目的や意義について理解している。また、障害に関する基礎的知識を習得している。 2. 対象児の状態について把握し、「個別の支援計画」「個別の指導計画」等を作成し、他の職員と共有するととも	1				
理解と	に、対象児や保護者に対して適切に指導・支援を行っている。 3. 対象児の状態について、生育歴、家庭の状況、これまでの関わりなど、細やかに把握し、「個別の支援計画」「個	2				
解と支援を配慮を要	別の指導計画」等を作成し、他の職員と共有するとともに、対象児や保護者に対して適切に指導・支援を行っている。	3				
する	4. 関係機関との連携を図り、対象児への理解や関わり方について専門性を高め、他の職員と共有しながら、対象 児や保護者に対して適切に指導・支援を行っている。	4				
幼児	5. 小学校や関係機関と連携しながら、対象児や保護者を支援する体制を構築している。さらに、特別な配慮が必要な幼児やその保護者への対応について、他の職員に適切な支援・助言を行っている。	5				
が別り	1. 発達を踏まえた幼児理解、指導計画に基づいた評価や記録の仕方について、基礎的知識を習得している。 2. 他の職員の指導・助言のもと、幼児の発達等を含む育ち全体に目を向け、記録をもとに指導計画の改善を行っ	1 2				
た理評解	ている。 3. 幼児の発達等を含む育ち全体や集団の育ちに目を向け、記録をもとに指導計画を多面的に捉えながら改善を行	3				
・改善者	っている。 4. 幼児理解に基づき、具体的なねらい及び内容等を踏まえて指導を振り返り、課題を明確にしている。さらに、	3 4				
の画 実に	指導計画の評価・改善について、他の職員に適切な支援・助言を行っている。 5. 幼児理解に基づき、具体的なねらい及び内容等を踏まえて指導を振り返り、客観的に分析し課題を明確にして					
施基	いる。さらに、指導計画の評価・改善を全体的な計画の改善につなげている。	5				

4.「健康及び安全」と「子育て支援」について、お尋ねします。下の表は「健康及び安全」の 4 つの資質、「子育て支援」の 2 つの資質と各資質の 5 つの段階を示したものです。 <u>今のあなたの資質は、5 段階のうちどの段階ですか。</u> 1 から 5 の数字のいずれか 1 つに〇をつけてください。 またあなたは、資質が今の段階に達するまでに、どのような研修・研鑽の経験が有効でしたか。 有効であったと思う研修・研鑽に〇をつけて下さい(複数回答可)。なおここで言う園外研修・園内研修とは、園外または園内で講師に教えてもらった研修、公開保育とは他園または自園で公開されている保育を見学したり、参加したりする研修、e-learningとはインターネットを介した研修・研鑽とします。

		今のよ	有効	であった	で研修・	研鑽
資質	段階	あなたの段階	園外研修	園内研修	公開保育	e-learning
健康	1. 指針等の内容を理解するとともに、健康状態や発育及び発達の状態の把握の必要性を理解している。	1				
健康支援	2.一人一人の子どもの健康状態や発育及び発達の状態の把握し、記録するとともに、必要な対応を行っている。	2				
162	3. 全体的な計画に基づいて作成された保健計画(学校保健計画)のねらいや内容を踏まえ、一人一人の子どもの健康の保持と増進を進めている。	3				
	4. 嘱託医(学校医)や関係機関と連携・調整し、疾病等に対応している。また、保健計画(学校保健計画)に基づく子どもの健康の保持や増進について、他の職員を指導している。	4				
	5. 嘱託医(学校医)や関係機関と連携・調整し、感染症等に対応している。さらに、保健計画(学校保健計画) の策定、改訂をリードしている。	5				
食育	1. 指針等の内容を理解するとともに、食育の推進の重要性を理解している。	1				
月の推進	2. ガイドラインや食育計画等に基づき、園の特性を生かした食育を行うとともに、食物アレルギー等への適切な 対応を行っている。	2				
— 進 —	3. 食育計画等に基づき、他の職員と連携を取りながら、園の特性を生かした食育を行うとともに、食物アレルギー等への適切な対応を行っている。	3				
	4. 食育計画等に基づき、他の職員と連携を取りながら、園の特性を生かした食育を行うとともに、食物アレルギー等への適切な対応を行っている。さらに、食育について他の職員を指導している。	4				
	5. 食育計画等に基づき、食育について他の職員への支援や助言を行うとともに、食物アレルギー等への適切な対応を行っている。さらに、食育計画の改善にも中心的役割を果たしている。	5				
に環	1. 指針等の内容を理解するとともに、環境及び衛生管理の重要性と事故防止及び安全対策の必要性を理解している。	1				
安全管理	2. 園で行われている適切な環境の維持、設備及び用具等の衛生管理、事故防止及び安全対策の実態を把握している。	2				
埋衛	3. 保育室の環境の維持、衛生管理、事故防止及び安全対策に関して責任を持って対応している。	3				
生管理	4. 保育室の環境の維持、衛生管理、事故防止及び安全対策に関して、他の職員を指導している。	4				
並び	5. 保育室の環境の維持、衛生管理、事故防止及び安全対策に関して、他の職員を指導するとともに、園全体のこれらの管理に責任を持っている。	5				
災害	1. 指針等の内容を理解するとともに、災害への備えの重要性を理解している。	1				
~ 0	2. 園の災害マニュアルを理解し、子どもと一緒に災害に直面したことを想定した避難訓練に参加している。	2				
備え	3. 園の災害マニュアルを理解し、災害に直面したことを想定した避難訓練の計画を立て、中心となって運営して いる。	3				
	4. 災害に直面したことを想定した避難訓練の計画を立て、中心となって運営するとともに、園の災害マニュアル の作成、改善を行っている。	4				
	5. 保護者や地域を巻き込んだ避難訓練の計画を立て、中心となって運営するとともに、地域や関係機関と協働して園の災害マニュアルの評価、改善を行っている。	5				
保護	1. 子育て支援の重要性を理解している。	1				
者へ	2. 保護者との良好な関係を築き、一人一人の実態に応じて適切に家庭との連携を図っている。	2				
の子	3. 保護者との良好な関係を築き、相談に応じたり、専門性をもって対応したりしている。	3				
保護者への子育て支援	4. 保護者との信頼関係を築き、必要に応じて関係機関と連携しながら、組織の一員として保護者を支援している。	4				
援	5. 子育て支援の中心的な立場を自覚し、必要に応じて関係機関と連携しながら、保護者を支援している。	5				
地域	1. 地域における保育所等の役割について理解するとともに、地域の関係機関等との連携が必要であることを理解している。	1				
における子育て支援	2. 地域における自園の役割を理解し、他の職員と一緒に対応している。また地域の関係機関等との連携が必要であることを理解し、他の職員と一緒に対応している。	2				
8 子育	3. 地域における子育て支援に対して専門性をもって他の職員と協力して対応している。また地域の関係機関との 連携に際しても、他の職員と協力して対応している。	3				
て支煙	4. 地域における子育て支援の中心として、他の職員と一緒に家庭・地域・関係機関と連携したり、協力したりしている。	4				
拔	5. 地域における子育て支援の中心として、他の職員をリードして、家庭・地域・関係機関と連携したり、協力したりしている。	5				

5. あなたは次のようなとき、自分の資質を向上させたいという気持ちをどの程度感じますか? 該当する番号を1つだけ選んで○をつけて下さい。「経験したことがない」場合は、「一」に○をつけて下さい。

	資質向上意欲のきっかけ	まったく感じない	感じない	あまり感じない	まあまあ感じる	感じる	非常に感じる	経験したことがない
1	上司に自分の仕事が認められたとき	1	2	3	4	5	6	_
2	自分の仕事で子どもが喜んだとき	1	2	3	4	5	6	_
3	子どもの成長を感じることができたとき	1	2	3	4	5	6	_
4	保護者から感謝されたとき	1	2	3	4	5	6	_
5	自分に任せられた業務を全うできたとき	1	2	3	4	5	6	_
6	責任の重い仕事や役割を任せられたとき	1	2	3	4	5	6	_
7	新しい仕事や役割を任せられたとき	1	2	3	4	5	6	_
8	他の職員との共同で目標が達成できたとき	1	2	3	4	5	6	_
9	給料が上がったとき	1	2	3	4	5	6	_
10	役職が上がったとき	1	2	3	4	5	6	_

6. あなた自身のことについてお尋ねします。

- 1. 保育士資格の取得方法について、いずれかに○をつけてください。
 - 1 養成校 2 試験
- 2. 認可保育所(公営・民営)[幼保連携型認定こども園を含む] における保育士・保育教諭(正規職員)としての通算勤務年数は何年ですか。 6か月以上は繰り上げて下さい(例:4月からの勤務は、1年とします)。

年

- 3. あなたの年齢について、該当する番号を1つだけ選んで○をつけてください。
 - 1 20歳以上22歳未満 2 22歳以上24歳未満 3 24歳以上26歳未満 4 26歳以上28歳未満 5 28歳以上30歳未満 6 30歳以上32歳未満 7 32歳以上36歳未満 8 36歳以上40歳未満
 - 9 40歲以上50歲未満 10 50歲以上60歲未満 11 60歲以上70歲未満 12 70歲以上
- 4. あなたは次のキャリアアップ研修を受けましたか。該当するもの全てに○をつけてください(複数回答可)。
 - 1 乳児保育 2 幼児教育 3 障害児保育 4 食育・アレルギー対応 5 保健衛生・安全対策 6 保護者支援・子育て支援 7 マネジメント 8 保育実践 9 受講していない
- 5. あなたは現在、次の職位の発令を受けていますか。該当するもの全てに○をつけてください(複数回答可)。
 - 1 職務分野別リーダー(乳児保育) 2 職務分野別リーダー(幼児教育) 3 職務分野別リーダー(障害児保育)
 - 4 職務分野別リーダー(食育・アレルギー対応) 5 職務分野別リーダー(保健衛生・安全対策)
 - 6 職務分野別リーダー(保護者支援・子育て支援) 7 副主任保育士・副主任保育教諭 8 専門リーダー
 - 9 主任保育士・主幹保育教諭
- 6. 保育士・保育教諭以外の職務経験はありますか、いずれかに○をつけてください。ある場合はその年数もお書きください。
 - 1 ある () 年 うち幼稚園教諭 () 年 2 ない

保育所・認定こども園等の研修体系に関する研究調査票

1. 乳児保育 [乳児期の園児の保育] (以下、「乳児保育」) について、お尋ねします。下の表は「乳児保育」の5つの資質と各資質の5つの段階を示したものです。 今のあなたの資質は、5段階のうちどの段階ですか。1から5の数字のいずれか1つに○をつけてください。 またあなたは、資質が今の段階に達するまでに、どのような研修・研鑽の経験が有効でしたか。 有効であったと思う研修・研鑽に○をつけて下さい(複数回答可)。 なおここで言う園外研修・園内研修とは、園外または園内で講師に教えてもらった研修、公開保育とは他園または自園で公開されている保育を見学したり、参加したりする研修、e-learningとはインターネットを介した研修・研鑽とします。

		今のよ	有効~	であった	で研修・	研鑽
資質	段階	あなたの段階	園外研修	園内研修	公開保育	e-learning
乳児	1. 運動機能の著しい発達、情緒的な絆の形成など、乳児の発達について、基礎的知識を習得している。	1				
の発達	2. 乳児の発達に加えて、興味・関心、特性(生命の保持と情緒の安定の下で自己を十分に発揮することにより発 達に必要な体験を得ていくこと)の理解(以下、発達等の理解)のもとに、必要な体験を考えている。	2				
発達等の理	3. 保護者の願いや思いを受け止め、他の職員と連携を図りながら、一人一人の乳児の発達等を理解し、必要な体験を考えている。	3				
解	4. 一人一人の乳児の発達等に応じた保育について、他の職員と共有し、他の職員に適切な支援・助言を行っている。	4				
	5. 一人一人の乳児の発達等に応じた保育について、他の職員に適切な支援・助言を行い、園全体の保育の質の向上のための取り組みをリードしている。	5				
指導計	1. 指針等に基づき作成される全体的な計画、それに基づく指導計画について、基礎的知識を習得している。	1				
計画等の	2. 全体的な計画に基づき、乳児の発達等を踏まえ、個別の指導計画を作成し、他の職員と共有している。	2				
の作成	3.全体的な計画に基づき、一人一人の乳児の発達等を踏まえ、1歳以上3歳未満児の保育との接続を考慮して、 個別の指導計画を作成し、他の職員と共有している。	3				
1994	4. 全体的な計画に基づき、一人一人の乳児の発達等を見通し、1歳以上3歳未満児の保育との接続を考慮して、 実践の振り返りに基づいて個別の指導計画を作成するとともに、他の職員に適切な支援・助言を行っている。	4				
	5.全体的な計画に基づき、一人一人の乳児の発達等を見通し、1歳以上3歳未満児の保育との接続を考慮して、 園全体の視点から、職員の話し合いの中心となって個別の指導計画の作成をリードしている。	5				
計乳画児	1. 乳児に対する環境構成の工夫や教材研究のあり方、その必要性、並びに保育者の関わり方に関する基礎的知識を習得している。	1				
 基づ 基づ	2. 環境構成の工夫、教材研究を行い、乳児と情緒的な絆が形成されるよう、保育技術の習得及び実践に取り組んでいる。	2				
に基づいた保育の実践の発達等の理解や指導	3. 環境構成の工夫、教材研究を行い、一人一人の乳児と情緒的な絆を形成したり、一人一人の乳児の興味や好奇 心を満たしたりできるよう、保育技術の向上に取り組んでいる。	3				
資の点	4. 他の職員のモデルとなり、環境構成の工夫、教材研究を行い、一人一人の乳児と情緒的な絆を形成したり、一 人一人の乳児の興味や好奇心を満たしたりできるよう、保育技術の向上に取り組んでいる。	4				
	5. 専門的な保育技術を向上させ、他の職員に適切な支援・助言を行い、職員の中心となって保育の質の向上のための取り組みをリードしている。	5				
理特解が	1. 障害児保育や特別支援教育の目的や意義について理解している。また、障害に関する基礎的知識を習得している。	1				
を支援がな配慮	2. 対象児の状態について把握し、「個別の支援計画」「個別の指導計画」等を作成し、他の職員と共有するととも に、対象児や保護者に対して適切に指導・支援を行っている。	2				
を要す	3. 対象児の状態について、生育歴、家庭の状況、これまでの関わりなど、細やかに把握し、「個別の支援計画」「個別の指導計画」等を作成し、他の職員と共有するとともに、対象児や保護者に対して適切に指導・支援を行っている。	3				
る乳児	4. 関係機関との連携を図り、対象児への理解や関わり方について専門性を高め、他の職員と共有しながら、対象 児や保護者に対して適切に指導・支援を行っている。	4				
0	5. 関係機関と連携しながら、対象児や保護者を支援する体制を構築している。さらに、特別な配慮が必要な乳児やその保護者への対応について、他の職員に適切な支援・助言を行っている。	5				
に 乳児の	1. 発達を踏まえた乳児の理解、指導計画に基づいた評価や記録の仕方について、基礎的知識を習得している。	1				
づいた記	2. 他の職員の指導・助言のもと、乳児の発達等を含む育ち全体に目を向け、記録をもとに指導計画の改善を行っている。	2				
ついた評価・改善の発達等の理解・影	3. 一人一人の乳児の発達等を含む育ち全体に目を向け、記録をもとに指導計画を多面的に捉え、評価しながら改善差を行っている。	3				
1 (/) 1	4. 一人一人の乳児の発達等を含む育ち全体の理解に基づき、具体的なねらい及び内容等を踏まえて指導を振り返り、課題を明確にしている。さらに、指導計画の評価・改善について、他の職員に適切な支援・助言を行っている。	4				
実計画	5. 一人一人の乳児の発達等を含む育ち全体の理解に基づき、具体的なねらい及び内容等を踏まえて指導を振り返り、客観的に分析し課題を明確にしている。さらに、指導計画の評価・改善を全体的な計画の改善につなげている。	5				

2. 「健康及び安全」と「子育て支援」について、お尋ねします。下の表は「健康及び安全」の4つの資質、「子育て支援」の2つの資質と各資質の5つの段階を示したものです。今のあなたの資質は、5段階のうちどの段階ですか。1から5の数字のいずれか1つに○をつけてください。またあなたは、資質が今の段階に達するまでに、どのような研修・研鑽の経験が有効でしたか。有効であったと思う研修・研鑽に○をつけて下さい(複数回答可)。なおここで言う園外研修・園内研修とは、園外または園内で講師に教えてもらった研修、公開保育とは他園または自園で公開されている保育を見学したり、参加したりする研修、e-learningとはインターネットを介した研修・研鑽とします。

		今のよ	有効~	であった	で研修・	研鑽
資質	段階	あなたの段階	園外研修	園内研修	公開保育	e-learning
健康	1. 指針等の内容を理解するとともに、健康状態や発育及び発達の状態の把握の必要性を理解している。	1				
健康支援	2.一人一人の子どもの健康状態や発育及び発達の状態の把握し、記録するとともに、必要な対応を行っている。	2				
162	3. 全体的な計画に基づいて作成された保健計画(学校保健計画)のねらいや内容を踏まえ、一人一人の子どもの健康の保持と増進を進めている。	3				
	4. 嘱託医(学校医)や関係機関と連携・調整し、疾病等に対応している。また、保健計画(学校保健計画)に基づく子どもの健康の保持や増進について、他の職員を指導している。	4				
	5. 嘱託医(学校医)や関係機関と連携・調整し、感染症等に対応している。さらに、保健計画(学校保健計画) の策定、改訂をリードしている。	5				
食育	1. 指針等の内容を理解するとともに、食育の推進の重要性を理解している。	1				
月の推進	2. ガイドラインや食育計画等に基づき、園の特性を生かした食育を行うとともに、食物アレルギー等への適切な対応を行っている。	2				
進	3. 食育計画等に基づき、他の職員と連携を取りながら、園の特性を生かした食育を行うとともに、食物アレルギー等への適切な対応を行っている。	3				
	4. 食育計画等に基づき、他の職員と連携を取りながら、園の特性を生かした食育を行うとともに、食物アレルギー等への適切な対応を行っている。さらに、食育について他の職員を指導している。	4				
	5. 食育計画等に基づき、食育について他の職員への支援や助言を行うとともに、食物アレルギー等への適切な対応を行っている。さらに、食育計画の改善にも中心的役割を果たしている。	5				
に環	1. 指針等の内容を理解するとともに、環境及び衛生管理の重要性と事故防止及び安全対策の必要性を理解している。	1				
安全管理	2. 園で行われている適切な環境の維持、設備及び用具等の衛生管理、事故防止及び安全対策の実態を把握している。	2				
埋衛	3. 保育室の環境の維持、衛生管理、事故防止及び安全対策に関して責任を持って対応している。	3				
生管理	4. 保育室の環境の維持、衛生管理、事故防止及び安全対策に関して、他の職員を指導している。	4				
並び	5. 保育室の環境の維持、衛生管理、事故防止及び安全対策に関して、他の職員を指導するとともに、園全体のこれらの管理に責任を持っている。	5				
災害	1. 指針等の内容を理解するとともに、災害への備えの重要性を理解している。	1				
~ 0	2. 園の災害マニュアルを理解し、子どもと一緒に災害に直面したことを想定した避難訓練に参加している。	2				
備え	3. 園の災害マニュアルを理解し、災害に直面したことを想定した避難訓練の計画を立て、中心となって運営して いる。	3				
	4. 災害に直面したことを想定した避難訓練の計画を立て、中心となって運営するとともに、園の災害マニュアル の作成、改善を行っている。	4				
	5. 保護者や地域を巻き込んだ避難訓練の計画を立て、中心となって運営するとともに、地域や関係機関と協働して園の災害マニュアルの評価、改善を行っている。	5				
保護	1. 子育て支援の重要性を理解している。	1				
者へ	2. 保護者との良好な関係を築き、一人一人の実態に応じて適切に家庭との連携を図っている。	2				
の子	3. 保護者との良好な関係を築き、相談に応じたり、専門性をもって対応したりしている。	3				
保護者への子育て支援	4. 保護者との信頼関係を築き、必要に応じて関係機関と連携しながら、組織の一員として保護者を支援している。	4				
援	5. 子育て支援の中心的な立場を自覚し、必要に応じて関係機関と連携しながら、保護者を支援している。	5				
地域	1. 地域における保育所等の役割について理解するとともに、地域の関係機関等との連携が必要であることを理解している。	1				
における子育て支援	2. 地域における自園の役割を理解し、他の職員と一緒に対応している。また地域の関係機関等との連携が必要であることを理解し、他の職員と一緒に対応している。	2				
る子育	3. 地域における子育て支援に対して専門性をもって他の職員と協力して対応している。また地域の関係機関との 連携に際しても、他の職員と協力して対応している。	3				
で支援	4. 地域における子育て支援の中心として、他の職員と一緒に家庭・地域・関係機関と連携したり、協力したりしている。	4				
援	5. 地域における子育て支援の中心として、他の職員をリードして、家庭・地域・関係機関と連携したり、協力したりしている。	5				

3. あなたは次のようなとき、自分の資質を向上させたいという気持ちをどの程度感じますか? 該当する番号を1つだけ選んで○をつけて下さい。「経験したことがない」場合は、「一」に○をつけて下さい。

	資質向上意欲のきっかけ	まったく感じない	感じない	あまり感じない	まあまあ感じる	感じる	非常に感じる	経験したことがない
1	上司に自分の仕事が認められたとき	1	2	3	4	5	6	_
2	自分の仕事で子どもが喜んだとき	1	2	3	4	5	6	_
3	子どもの成長を感じることができたとき	1	2	3	4	5	6	_
4	保護者から感謝されたとき	1	2	3	4	5	6	_
5	自分に任せられた業務を全うできたとき	1	2	3	4	5	6	_
6	責任の重い仕事や役割を任せられたとき	1	2	3	4	5	6	_
7	新しい仕事や役割を任せられたとき	1	2	3	4	5	6	_
8	他の職員との共同で目標が達成できたとき	1	2	3	4	5	6	_
9	給料が上がったとき	1	2	3	4	5	6	_
10	役職が上がったとき	1	2	3	4	5	6	_

4. あなた自身のことについてお尋ねします。

- 1. 保育士資格の取得方法について、いずれかに○をつけてください。
 - 1 養成校 2 試験
- 2. 認可保育所(公営・民営)[幼保連携型認定こども園を含む] における保育士・保育教諭(正規職員)としての通算勤務年数は何年ですか。 6か月以上は繰り上げて下さい(例:4月からの勤務は、1年とします)。

年

- 3. あなたの年齢について、該当する番号を1つだけ選んで○をつけてください。
 - 1
 20歳以上22歳未満
 2
 22歳以上24歳未満
 3
 24歳以上26歳未満
 4
 26歳以上28歳未満

 5
 28歳以上30歳未満
 6
 30歳以上32歳未満
 7
 32歳以上36歳未満
 8
 36歳以上40歳未満
 - 9 40歳以上50歳未満 10 50歳以上60歳未満 11 60歳以上70歳未満 12 70歳以上
- 4. あなたは次のキャリアアップ研修を受けましたか。該当するもの全てに○をつけてください(複数回答可)。
 - 1 乳児保育 2 幼児教育 3 障害児保育 4 食育・アレルギー対応 5 保健衛生・安全対策 6 保護者支援・子育て支援 7 マネジメント 8 保育実践 9 受講していない
- 5. あなたは現在、次の職位の発令を受けていますか。該当するもの全てに○をつけてください(複数回答可)。
 - 1 職務分野別リーダー(乳児保育) 2 職務分野別リーダー(幼児教育) 3 職務分野別リーダー(障害児保育)
 - 4 職務分野別リーダー(食育・アレルギー対応) 5 職務分野別リーダー(保健衛生・安全対策)
 - 6 職務分野別リーダー(保護者支援・子育て支援) 7 副主任保育士・副主任保育教諭 8 専門リーダー
 - 9 主任保育士・主幹保育教諭
- 6. 保育士・保育教諭以外の職務経験はありますか、いずれかに○をつけてください。ある場合はその年数もお書きください。
 - 1 ある () 年 うち幼稚園教諭 () 年 2 ない

D票 保育者用(1・2歳児)

保育所・認定こども園等の研修体系に関する研究調査票

1. 1歳以上3歳未満児の保育 [満1歳以上満3歳未満の園児の保育] (以下、「未満児の保育」) について、お尋ねします。下の表は「未満児の保育」の5つの資質と各資質の5つの段階を示したものです。今のあなたの資質は、5段階のうちどの段階ですか。 1 から5の数字のいずれか1つに○をつけてください。またあなたは、資質が今の段階に達するまでに、どのような研修・研鑽の経験が有効でしたか。有効であったと思う研修・研鑽に○をつけて下さい(複数回答可)。なおここで言う園外研修・園内研修とは、園外または園内で講師に教えてもらった研修、公開保育とは他園または自園で公開されている保育を見学したり、参加したりする研修、e-learningとはインターネットを介した研修・研鑽とします。

		今のセ	有効で	であった	で研修・	研鑽
資質	段階	あなたの段階	園外研修	園内研修	公開保育	e-learning
未満児	1. 自分でできることが増えてくる、自我が育つなど、未満児の発達について、基礎的知識を習得している。	1				
	2. 未満児の発達に加えて、興味・関心、特性(生命の保持と情緒の安定の下で自己を十分に発揮することにより 発達に必要な体験を得ていくこと)、よさや可能性の理解(以下、発達等の理解)のもとに、必要な体験を考え ている。	2				
発達等の	3. 保護者の願いや思いを受け止め、他の職員と連携を図りながら、一人一人の未満児の発達等を理解し、必要な体験を考えている。	3				
理解	4. 一人一人の未満児の発達等に応じた保育について、他の職員と共有し、他の職員に適切な支援・助言を行っている。	4				
	5. 一人一人の未満児の発達等に応じた保育について、他の職員に適切な支援・助言を行い、園全体の保育の質の 向上のための取り組みをリードしている。	5				
指導計	1. 指針等に基づき作成される全体的な計画、それに基づく指導計画について、基礎的知識を習得している。	1				
画	2. 全体的な計画に基づき、未満児の発達等を踏まえ、個別的な指導計画を作成し、他の職員と共有している。	2				
 等 	3.全体的な計画に基づき、一人一人の未満児の発達等を踏まえ、3歳以上児の保育との接続を考慮して、個別的 な指導計画を作成し、他の職員と共有している。	3				
 	4. 全体的な計画に基づき、一人一人の未満児の発達等を見通し、乳児や3歳以上児の保育との接続を考慮して、 実践の振り返りに基づいて個別的な指導計画を作成するとともに、他の職員に適切な支援・助言を行っている。	4				
	5. 全体的な計画に基づき、一人一人の未満児の発達等を見通し、乳児や3歳以上児の保育との接続を考慮して、 園全体の視点から職員の話し合いの中心となって個別的な指導計画の作成をリードしている。	5				
計未画満	1. 未満児に対する環境構成の工夫や教材研究のあり方、その必要性について、基礎的知識を習得している。	1				
に見の発	2. 環境構成の工夫、教材研究を行い、未満児の自我の育ちを支えるよう、保育技術の習得及び実践に取り組んでいる。	2				
いた保の	3. 環境構成の工夫、教材研究を行い、一人一人の未満児の自我の育ちを支えたり、興味や好奇心を満たしたりするよう、保育技術の向上に取り組んでいる。	3				
画に基づいた保育の実践満児の発達等の理解や指	4. 他の職員のモデルとなり、環境構成の工夫、教材研究を行い、一人一人の未満児の自我の育ちを支えたり、興 味や好奇心を満たしたりするよう、保育技術の向上に取り組んでいる。	4				
指導	5. 専門的な保育技術を向上させ、他の職員に適切な支援・助言を行い、職員の中心となって保育の質の向上のための取り組みをリードしている。	5				
の特理別	1. 障害児保育や特別支援教育の目的や意義について理解している。また、障害に関する基礎的知識を習得している。	1				
解と支属を配慮	2. 対象児の状態について把握し、「個別の支援計画」「個別の指導計画」等を作成し、他の職員と共有するとともに、対象児や保護者に対して適切に指導・支援を行っている。	2				
メ援悪を要す	3. 対象児の状態について、生育歴、家庭の状況、これまでの関わりなど、細やかに把握し、「個別の支援計画」「個別の指導計画」等を作成し、他の職員と共有するとともに、対象児や保護者に対して適切に指導・支援を行っている。	3				
る未満児	4. 関係機関との連携を図り、対象児への理解や関わり方について専門性を高め、他の職員と共有しながら、対象 児や保護者に対して適切に指導・支援を行っている。	4				
児へ	5. 関係機関と連携しながら、対象児や保護者を支援する体制を構築している。さらに、特別な配慮が必要な未満 児やその保護者への対応について、他の職員に適切な支援・助言を行っている。	5				
に未 基満	1. 発達を踏まえた未満児の理解、指導計画に基づいた評価や記録の仕方について、基礎的知識を習得している。	1				
宝づいた	2. 他の職員の指導・助言のもと、未満児の発達等を含む育ち全体に目を向け、記録をもとに指導計画の改善を行っている。	2				
評達	3. 一人一人の未満児の発達等を含む育ち全体に目を向け、記録をもとに指導計画を多面的に捉え、評価しながら 改善を行っている。	3				
・改善の実	4. 一人一人の未満児の発達等を含む育ち全体の理解に基づき、具体的なねらい及び内容等を踏まえて指導を振り返り、課題を明確にしている。さらに、指導計画の評価・改善について、他の職員に適切な支援・助言を行っている。	4				
実指 施 計 画	5. 一人一人の未満児の発達等を含む育ち全体の理解に基づき、具体的なねらい及び内容等を踏まえて指導を振り返り、客観的に分析し課題を明確にしている。さらに、指導計画の評価・改善を全体的な計画の改善につなげている。	5				

2.「健康及び安全」と「子育て支援」について、お尋ねします。下の表は「健康及び安全」の 4 つの資質、「子育て支援」の 2 つの資質と各資質の 5 つの段階を示したものです。 今のあなたの資質は、 5 段階のうちどの段階ですか。 から 5 の数字のいずれか 1 つに○をつけてください。 またあなたは、資質が今の段階に達するまでに、どのような研修・研鑽の経験が有効でしたか。 有効であったと思う研修・研鑽に○をつけて下さい(複数回答可)。なおここで言う園外研修・園内研修とは、園外または園内で講師に教えてもらった研修、公開保育とは他園または自園で公開されている保育を見学したり、参加したりする研修、e-learningとはインターネットを介した研修・研鑽とします。

		今のよ	有効~	であった	で研修・	研鑽
資質	段階	あなたの段階	園外研修	園内研修	公開保育	e-learning
健康	1. 指針等の内容を理解するとともに、健康状態や発育及び発達の状態の把握の必要性を理解している。	1				
健康支援	2.一人一人の子どもの健康状態や発育及び発達の状態の把握し、記録するとともに、必要な対応を行っている。	2				
162	3. 全体的な計画に基づいて作成された保健計画(学校保健計画)のねらいや内容を踏まえ、一人一人の子どもの健康の保持と増進を進めている。	3				
	4. 嘱託医(学校医)や関係機関と連携・調整し、疾病等に対応している。また、保健計画(学校保健計画)に基づく子どもの健康の保持や増進について、他の職員を指導している。	4				
	5. 嘱託医(学校医)や関係機関と連携・調整し、感染症等に対応している。さらに、保健計画(学校保健計画) の策定、改訂をリードしている。	5				
食育	1. 指針等の内容を理解するとともに、食育の推進の重要性を理解している。	1				
月の推進	2. ガイドラインや食育計画等に基づき、園の特性を生かした食育を行うとともに、食物アレルギー等への適切な 対応を行っている。	2				
進	3. 食育計画等に基づき、他の職員と連携を取りながら、園の特性を生かした食育を行うとともに、食物アレルギー等への適切な対応を行っている。	3				
	4. 食育計画等に基づき、他の職員と連携を取りながら、園の特性を生かした食育を行うとともに、食物アレルギー等への適切な対応を行っている。さらに、食育について他の職員を指導している。	4				
	5. 食育計画等に基づき、食育について他の職員への支援や助言を行うとともに、食物アレルギー等への適切な対応を行っている。さらに、食育計画の改善にも中心的役割を果たしている。	5				
に環	1. 指針等の内容を理解するとともに、環境及び衛生管理の重要性と事故防止及び安全対策の必要性を理解している。	1				
安全管理	2. 園で行われている適切な環境の維持、設備及び用具等の衛生管理、事故防止及び安全対策の実態を把握している。	2				
埋衛	3. 保育室の環境の維持、衛生管理、事故防止及び安全対策に関して責任を持って対応している。	3				
生管理	4. 保育室の環境の維持、衛生管理、事故防止及び安全対策に関して、他の職員を指導している。	4				
並び	5. 保育室の環境の維持、衛生管理、事故防止及び安全対策に関して、他の職員を指導するとともに、園全体のこれらの管理に責任を持っている。	5				
災害	1. 指針等の内容を理解するとともに、災害への備えの重要性を理解している。	1				
[□] ₀	2. 園の災害マニュアルを理解し、子どもと一緒に災害に直面したことを想定した避難訓練に参加している。	2				
備え	3. 園の災害マニュアルを理解し、災害に直面したことを想定した避難訓練の計画を立て、中心となって運営している。	3				
	4. 災害に直面したことを想定した避難訓練の計画を立て、中心となって運営するとともに、園の災害マニュアル の作成、改善を行っている。	4				
	5. 保護者や地域を巻き込んだ避難訓練の計画を立て、中心となって運営するとともに、地域や関係機関と協働して園の災害マニュアルの評価、改善を行っている。	5				
保護	1. 子育て支援の重要性を理解している。	1				
保護者への子育て支援	2. 保護者との良好な関係を築き、一人一人の実態に応じて適切に家庭との連携を図っている。	2				
の子	3. 保護者との良好な関係を築き、相談に応じたり、専門性をもって対応したりしている。	3				
育て士	4. 保護者との信頼関係を築き、必要に応じて関係機関と連携しながら、組織の一員として保護者を支援している。	4				
援	5. 子育て支援の中心的な立場を自覚し、必要に応じて関係機関と連携しながら、保護者を支援している。	5				
地域	1. 地域における保育所等の役割について理解するとともに、地域の関係機関等との連携が必要であることを理解している。	1				
における子育て支援	2. 地域における自園の役割を理解し、他の職員と一緒に対応している。また地域の関係機関等との連携が必要であることを理解し、他の職員と一緒に対応している。	2				
る子育	3. 地域における子育て支援に対して専門性をもって他の職員と協力して対応している。また地域の関係機関との 連携に際しても、他の職員と協力して対応している。	3				
で支援	4. 地域における子育て支援の中心として、他の職員と一緒に家庭・地域・関係機関と連携したり、協力したりしている。	4				
援	5. 地域における子育て支援の中心として、他の職員をリードして、家庭・地域・関係機関と連携したり、協力したりしている。	5				

3. あなたは次のようなとき、自分の資質を向上させたいという気持ちをどの程度感じますか? 該当する番号を1つだけ選んで \bigcirc をつけて下さい。「経験したことがない」場合は、「-」に \bigcirc をつけて下さい。

	資質向上意欲のきっかけ	まったく感じない	感じない	あまり感じない	まあまあ感じる	感じる	非常に感じる	経験したことがない
1	上司に自分の仕事が認められたとき	1	2	3	4	5	6	_
2	自分の仕事で子どもが喜んだとき	1	2	3	4	5	6	_
3	子どもの成長を感じることができたとき	1	2	3	4	5	6	_
4	保護者から感謝されたとき	1	2	3	4	5	6	_
5	自分に任せられた業務を全うできたとき	1	2	3	4	5	6	_
6	責任の重い仕事や役割を任せられたとき	1	2	3	4	5	6	_
7	新しい仕事や役割を任せられたとき	1	2	3	4	5	6	_
8	他の職員との共同で目標が達成できたとき	1	2	3	4	5	6	_
9	給料が上がったとき	1	2	3	4	5	6	_
10	役職が上がったとき	1	2	3	4	5	6	_

4. あなた自身のことについてお尋ねします。

- 1. 保育士資格の取得方法について、いずれかに○をつけてください。
 - 1 養成校 2 試験
- 2. 認可保育所(公営・民営)[幼保連携型認定こども園を含む] における保育士・保育教諭(正規職員)としての通算勤務年数は何年ですか。 6か月以上は繰り上げて下さい(例:4月からの勤務は、1年とします)。

年

- 3. あなたの年齢について、該当する番号を1つだけ選んで○をつけてください。
 - 1 20歳以上22歳未満 2 22歳以上24歳未満 3 24歳以上26歳未満 4 26歳以上28歳未満 5 28歳以上30歳未満 6 30歳以上32歳未満 7 32歳以上36歳未満 8 36歳以上40歳未満
 - 9 40歳以上50歳未満 10 50歳以上60歳未満 11 60歳以上70歳未満 12 70歳以上
- 4. あなたは次のキャリアアップ研修を受けましたか。該当するもの全てに○をつけてください(複数回答可)。
 - 1 乳児保育 2 幼児教育 3 障害児保育 4 食育・アレルギー対応 5 保健衛生・安全対策 6 保護者支援・子育て支援 7 マネジメント 8 保育実践 9 受講していない
- 5. あなたは現在、次の職位の発令を受けていますか。該当するもの全てに○をつけてください(複数回答可)。
 - 1 職務分野別リーダー(乳児保育) 2 職務分野別リーダー(幼児教育) 3 職務分野別リーダー(障害児保育)
 - 4 職務分野別リーダー(食育・アレルギー対応) 5 職務分野別リーダー(保健衛生・安全対策)
 - 6 職務分野別リーダー(保護者支援・子育て支援) 7 副主任保育士・副主任保育教諭 8 専門リーダー
 - 9 主任保育士・主幹保育教諭
- 6. 保育士・保育教諭以外の職務経験はありますか、いずれかに○をつけてください。ある場合はその年数もお書きください。
 - 1 ある () 年 うち幼稚園教諭 () 年 2 ない

保育所・認定こども園等の研修体系に関する研究調査票

1. 3歳以上児の保育 [満3歳以上の園児の教育及び保育] (以下、「幼児教育・保育」) について、お尋ねします。下の表は「幼児教育・保育」 の 6 つの資質 と各資質の 5 つの段階を示したものです。 今のあなたの資質は、 5 段階のうちどの段階ですか。 1 から 5 の数字のいずれか 1 つ に〇をつけてください。またあなたは、資質が今の段階に達するまでに、どのような研修・研鑽の経験が有効でしたか。有効であったと思う 研修・研鑽に〇をつけて下さい(複数回答可)。なおここで言う園外研修・園内研修とは、園外または園内で講師に教えてもらった研修、公 開保育とは他園または自園で公開されている保育を見学したり、参加したりする研修、e-learningとはインターネットを介した研修・研鑽とします。

		今のよ	有効で	であった	で研修・	研鑽
資質	段階	あなたの段階	園外研修	園内研修	公開保育	e-learning
幼児	1. 知的な興味や関心が高まったり、集団的な遊びや協働的な遊びが見られたりするなど、幼児の発達について、基礎的知識を習得している。	1				
の発達等の	2. 幼児の発達に加えて、興味・関心、特性(生命の保持と情緒の安定の下で自己を十分に発揮することにより発達に必要な体験を得ていくこと)、よさや可能性、他児との関係の理解(以下、発達等の理解)のもとに、必要な体験を考えている。	2				
の理解	3. 保護者の願いや思いを受け止め、他の職員と連携を図りながら、一人一人の幼児の発達等を理解し、クラスの 状態を踏まえて、必要な体験を考えている。	3				
/31	4. 幼児の発達等やクラスの状態に応じた保育について、他の職員と共有し、他の職員に適切な支援・助言を行っている。	4				
	5. 幼児の発達等やクラスの状態に応じた保育について、他の職員への適切な支援・助言を行い、園全体の保育の 質の向上のための取り組みをリードしている。	5				
ラス運営 解	1. 幼児理解に基づいたクラス運営について、基礎的知識を習得している。 2. 指針等や幼児の実態を踏まえ、幼児との信頼関係を築いた上で、集団づくりをしている。 3. 指針等や幼児の実態を踏まえ、幼児理解に基づく人間関係の構築と一人一人に寄り添った集団づくりをしている。	1 2 3				
に基づ	♥。 4. 集団の発達の視点を取り入れ、指針等や幼児の実態を踏まえ、幼児理解に基づく人間関係の構築と一人一人に 寄り添った集団づくりをし、他の職員に適切な支援・助言を行っている。	4				
い た ク	5. 集団の発達の視点を取り入れ、指針等や幼児の実態を踏まえ、幼児理解に基づく人間関係の構築と一人一人に 寄り添った集団づくりについて、クラスを超えた視点から職員の話し合いの中心となって、園としてのクラス集 団の在り方の検討をリードしている。	5				
指導	1. 指針等に基づき作成される全体的な計画、指導計画について、基礎的知識を習得している。 2. 全体的な計画に基づき、幼児の発達等を踏まえ、指導計画を作成し、他の職員と共有している。	<u>1</u>				
計画等	3.全体的な計画に基づき、幼児の発達等を踏まえ、園や地域の行事等と関連付けたり、小学校等との接続を考慮 したりしながら指導計画を作成し、他の職員と共有している。	3				
の作成	4. 全体的な計画に基づき、発達等を見通し、園や地域の行事等と関連付けたり、小学校等との接続を考慮したり しながら、実践の振り返りに基づいて指導計画を作成するとともに、他の職員に適切な支援・助言を行っている。	4				
<i>3</i> 2	5.全体的な計画に基づき、発達等を見通し、園や地域の実態、小学校との接続の状況等を把握した上で、園全体の視点から職員の話し合いの中心となって指導計画の作成をリードしている。	5				
基幼づ児	1. 幼児に対する環境構成の工夫や教材研究のあり方、その必要性について、基礎的知識を習得している。 2. 環境構成の工夫、教材研究を行い、幼児が主体的に活動できるよう、保育技術の習得及び実践に取り組んでいる。	<u>1</u>				
い理 た解 保や	2. 環境構成の工夫、教材研究を行い、幼児が主体的に活動ときるよう、休育技術の首特及の美政に取り組んといる。 3. 環境構成の工夫、教材研究を行い、幼児が主体的に活動したり、多様な経験をしたりできるよう、保育技術の向上に取り組んでいる。	3				
育指 の 実計	4. 他の職員のモデルとなり、環境構成の工夫、教材研究を行い、幼児が主体的に活動したり、多様な経験をしたりできるよう、保育技術の向上に取り組んでいる。	4				
践画に	5. 専門的な保育技術を向上させ、他の職員に適切な支援・助言を行い、職員の中心となって保育の質の向上のための取り組みをリードしている。	5				
への理想	1.障害児保育や特別支援教育の目的や意義について理解している。また、障害に関する基礎的知識を習得している。 2. 対象児の状態について把握し、「個別の支援計画」「個別の指導計画」等を作成し、他の職員と共有するととも に、対象児や保護者に対して適切に指導・支援を行っている。	1 2				
2解と支援な配慮を要	は、、対象児や休設者に対して適切に指導・支援を行っている。 3. 対象児の状態について、生育歴、家庭の状況、これまでの関わりなど、細やかに把握し、「個別の支援計画」「個別の指導計画」等を作成し、他の職員と共有するとともに、対象児や保護者に対して適切に指導・支援を行っている。	3				
要する幼	4. 関係機関との連携を図り、対象児への理解や関わり方について専門性を高め、他の職員と共有しながら、対象 児や保護者に対して適切に指導・支援を行っている。	4				
幼児	5. 小学校や関係機関と連携しながら、対象児や保護者を支援する体制を構築している。さらに、特別な配慮が必要な幼児やその保護者への対応について、他の職員に適切な支援・助言を行っている。	5				
が児理	1. 発達を踏まえた幼児理解、指導計画に基づいた評価や記録の仕方について、基礎的知識を習得している。 2. 他の職員の指導・助言のもと、幼児の発達等を含む育ち全体に目を向け、記録をもとに指導計画の改善を行っ	1 2				
に評価・指	ている。	3				
改導 善計	っている。 4. 幼児理解に基づき、具体的なねらい及び内容等を踏まえて指導を振り返り、課題を明確にしている。さらに、 指導計画の評価・改善について、他の職員に適切な支援・助言を行っている。	4				
の実施	5. 幼児理解に基づき、具体的なねらい及び内容等を踏まえて指導を振り返り、客観的に分析し課題を明確にしている。さらに、指導計画の評価・改善を全体的な計画の改善につなげている。	5				

2. 「健康及び安全」と「子育て支援」について、お尋ねします。下の表は「健康及び安全」の 4 つの資質、「子育て支援」の 2 つの資質と各資質の 5 つの段階を示したものです。 今のあなたの資質は、 5 段階のうちどの段階ですか。 1 から 5 の数字のいずれか 1 つに〇をつけてください。 またあなたは、資質が今の段階に達するまでに、どのような研修・研鑽の経験が有効でしたか。 有効であったと思う研修・研鑽に〇をつけて下さい(複数回答可)。 なおここで言う園外研修・園内研修とは、園外または園内で講師に教えてもらった研修、公開保育とは他園または自園で公開されている保育を見学したり、参加したりする研修、e-learningとはインターネットを介した研修・研鑽とします。

		今のよ	有効~	であった	で研修・	研鑽
資質	段階	あなたの段階	園外研修	園内研修	公開保育	e-learning
健康	1. 指針等の内容を理解するとともに、健康状態や発育及び発達の状態の把握の必要性を理解している。	1				
健康支援	2.一人一人の子どもの健康状態や発育及び発達の状態の把握し、記録するとともに、必要な対応を行っている。	2				
162	3. 全体的な計画に基づいて作成された保健計画(学校保健計画)のねらいや内容を踏まえ、一人一人の子どもの健康の保持と増進を進めている。	3				
	4. 嘱託医(学校医)や関係機関と連携・調整し、疾病等に対応している。また、保健計画(学校保健計画)に基づく子どもの健康の保持や増進について、他の職員を指導している。	4				
	5. 嘱託医(学校医)や関係機関と連携・調整し、感染症等に対応している。さらに、保健計画(学校保健計画) の策定、改訂をリードしている。	5				
食育	1. 指針等の内容を理解するとともに、食育の推進の重要性を理解している。	1				
月の推進	2. ガイドラインや食育計画等に基づき、園の特性を生かした食育を行うとともに、食物アレルギー等への適切な対応を行っている。	2				
進	3. 食育計画等に基づき、他の職員と連携を取りながら、園の特性を生かした食育を行うとともに、食物アレルギー等への適切な対応を行っている。	3				
	4. 食育計画等に基づき、他の職員と連携を取りながら、園の特性を生かした食育を行うとともに、食物アレルギー等への適切な対応を行っている。さらに、食育について他の職員を指導している。	4				
	5. 食育計画等に基づき、食育について他の職員への支援や助言を行うとともに、食物アレルギー等への適切な対応を行っている。さらに、食育計画の改善にも中心的役割を果たしている。	5				
に環	1. 指針等の内容を理解するとともに、環境及び衛生管理の重要性と事故防止及び安全対策の必要性を理解している。	1				
安全管理	2. 園で行われている適切な環境の維持、設備及び用具等の衛生管理、事故防止及び安全対策の実態を把握している。	2				
埋衛	3. 保育室の環境の維持、衛生管理、事故防止及び安全対策に関して責任を持って対応している。	3				
生管理	4. 保育室の環境の維持、衛生管理、事故防止及び安全対策に関して、他の職員を指導している。	4				
並び	5. 保育室の環境の維持、衛生管理、事故防止及び安全対策に関して、他の職員を指導するとともに、園全体のこれらの管理に責任を持っている。	5				
災害	1. 指針等の内容を理解するとともに、災害への備えの重要性を理解している。	1				
~ 0	2. 園の災害マニュアルを理解し、子どもと一緒に災害に直面したことを想定した避難訓練に参加している。	2				
備え	3. 園の災害マニュアルを理解し、災害に直面したことを想定した避難訓練の計画を立て、中心となって運営して いる。	3				
	4. 災害に直面したことを想定した避難訓練の計画を立て、中心となって運営するとともに、園の災害マニュアル の作成、改善を行っている。	4				
	5. 保護者や地域を巻き込んだ避難訓練の計画を立て、中心となって運営するとともに、地域や関係機関と協働して園の災害マニュアルの評価、改善を行っている。	5				
保護	1. 子育て支援の重要性を理解している。	1				
保護者への子育て支援	2. 保護者との良好な関係を築き、一人一人の実態に応じて適切に家庭との連携を図っている。	2				
の子	3. 保護者との良好な関係を築き、相談に応じたり、専門性をもって対応したりしている。	3				
育て士	4. 保護者との信頼関係を築き、必要に応じて関係機関と連携しながら、組織の一員として保護者を支援している。	4				
援	5. 子育て支援の中心的な立場を自覚し、必要に応じて関係機関と連携しながら、保護者を支援している。	5				
地域	1. 地域における保育所等の役割について理解するとともに、地域の関係機関等との連携が必要であることを理解している。	1				
における子育て支援	2. 地域における自園の役割を理解し、他の職員と一緒に対応している。また地域の関係機関等との連携が必要であることを理解し、他の職員と一緒に対応している。	2				
る子育	3. 地域における子育て支援に対して専門性をもって他の職員と協力して対応している。また地域の関係機関との 連携に際しても、他の職員と協力して対応している。	3				
で支援	4. 地域における子育て支援の中心として、他の職員と一緒に家庭・地域・関係機関と連携したり、協力したりしている。	4				
援	5. 地域における子育て支援の中心として、他の職員をリードして、家庭・地域・関係機関と連携したり、協力したりしている。	5				

3. あなたは次のようなとき、自分の資質を向上させたいという気持ちをどの程度感じますか? 該当する番号を1つだけ選んで○をつけて下さい。「経験したことがない」場合は、「-」に○をつけて下さい。

	資質向上意欲のきっかけ	まったく感じない	感じない	あまり感じない	まあまあ感じる	感じる	非常に感じる	経験したことがない
1	上司に自分の仕事が認められたとき	1	2	3	4	5	6	_
2	自分の仕事で子どもが喜んだとき	1	2	3	4	5	6	_
3	子どもの成長を感じることができたとき	1	2	3	4	5	6	_
4	保護者から感謝されたとき	1	2	3	4	5	6	_
5	自分に任せられた業務を全うできたとき	1	2	3	4	5	6	_
6	責任の重い仕事や役割を任せられたとき	1	2	3	4	5	6	_
7	新しい仕事や役割を任せられたとき	1	2	3	4	5	6	_
8	他の職員との共同で目標が達成できたとき	1	2	3	4	5	6	_
9	給料が上がったとき	1	2	3	4	5	6	_
10	役職が上がったとき	1	2	3	4	5	6	_

4. あなた自身のことについてお尋ねします。

- 1. 保育士資格の取得方法について、いずれかに○をつけてください。
 - 1 養成校 2 試験
- 2. 認可保育所(公営・民営)[幼保連携型認定こども園を含む] における保育士・保育教諭(正規職員)としての通算勤務年数は何年ですか。 6か月以上は繰り上げて下さい(例:4月からの勤務は、1年とします)。

4 26歳以上28歳未満

年

- 3. あなたの年齢について、該当する番号を1つだけ選んで○をつけてください。
 - 1 20歲以上22歲未満 2 22歲以上24歲未満 3 24歲以上26歲未満
 - 5 28歳以上30歳未満 6 30歳以上32歳未満 7 32歳以上36歳未満 8 36歳以上40歳未満
 - 9 40歳以上50歳未満 10 50歳以上60歳未満 11 60歳以上70歳未満 12 70歳以上
- 4. あなたは次のキャリアアップ研修を受けましたか。該当するもの全てに○をつけてください(複数回答可)。
 - 1 乳児保育 2 幼児教育 3 障害児保育 4 食育・アレルギー対応 5 保健衛生・安全対策
 - 6 保護者支援・子育て支援
 7 マネジメント
 8 保育実践
 9 受講していない
- 5. あなたは現在、次の職位の発令を受けていますか。該当するもの全てに○をつけてください(複数回答可)。
 - 1 職務分野別リーダー(乳児保育) 2 職務分野別リーダー(幼児教育) 3 職務分野別リーダー(障害児保育)
 - 4 職務分野別リーダー(食育・アレルギー対応) 5 職務分野別リーダー(保健衛生・安全対策)
 - 6 職務分野別リーダー(保護者支援・子育て支援) 7 副主任保育士・副主任保育教諭 8 専門リーダー
 - 9 主任保育士・主幹保育教諭
- 6. 保育士・保育教諭以外の職務経験はありますか、いずれかに○をつけてください。ある場合はその年数もお書きください。
 - 1 ある () 年 うち幼稚園教諭 () 年 2 ない